

平成 28 年度

仙台市自然環境に関する基礎調査

報 告 書

平成 29 年 3 月

仙台市

目次

第1章	調査概要	1
1.1	調査目的	1
1.2	調査期間	1
1.3	調査対象地域	1
1.4	調査項目	1
1.5	調査方法	1
1.6	自然環境基礎調査検討会	3
第2章	これまでの経緯	4
第3章	調査結果	6
3.1	保全上重要な種のリスト及び選定理由票の更新	6
3.2	ふるさと種の選定	51
3.3	植物生育地として重要な地域及び動物生息地として重要な地域の更新	54
3.4	保全上重要な地形・地質のリスト及び分布図の更新	73
第4章	委託者情報	93
第5章	本報告書に関する問い合わせ先	93

巻末資料

第1章 調査概要

1.1 調査目的

本調査は、本市の自然環境の最新情報を把握し、様々な環境施策の検討や各種公共事業・開発事業の持続可能な方向への誘導のための基礎資料を作成することを目的とした。

1.2 調査期間

平成 28 年 6 月～平成 29 年 3 月

1.3 調査対象地域

仙台市全域とし、必要に応じてその周辺地域も対象とした。

1.4 調査項目

- (1) 仙台市野生生物目録の更新
- (2) 保全上重要な種のリスト・選定理由票及び分布図の更新
- (3) ふるさと種の選定
- (4) 植物生育地として重要な地域・動物生息地として重要な地域の更新
- (5) 保全上重要な地形・地質のリスト及び分布図の更新

1.5 調査方法

1.5.1 仙台市野生生物目録の更新

平成 27 年度仙台市自然環境に関する基礎調査（以下、「自然環境基礎調査」という。）において作成した「平成 27 年度仙台市野生生物目録（暫定版）」に、以下に示す情報を追加し、「仙台市野生生物目録」を更新した。

昆虫類については、「宮城昆虫地理研究会」より、仙台市内における確認種・確認場所・確認年・確認者・収録文献のリストの提供を受け、目録更新の基礎資料として使用した。

《追加した情報》

- ・ 出典文献
- ・ 国及び県のレッドリスト・レッドデータブックにおける該当の有無
- ・ 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト
（生態系被害防止外来種リスト）における該当の有無
- ・ 保全上重要な種及びふるさと種のリストにおける該当の有無

1.5.2 保全上重要な種のリスト・選定理由票及び分布図の更新

平成 22 年度自然環境基礎調査において選定した「保全上重要な種」のリスト及び選定理由票について、後述する自然環境基礎調査検討会からの意見をもとに見直しを行った。

また、見直した「保全上重要な種」について、文献等から得られた生育・生息場所をもとに分布図を作成した。分布図は、旧日本測地系 3 次メッシュをベースとした GIS データにより作成した。ただし、分布図については、希少な動植物の保護の観点から、非公表とし、報告書（本冊子及び資料編）とは別に取りまとめた。

1.5.3 ふるさと種の選定

本市に生息・生育する動植物種のうち、仙台のふるさとを代表する種や、市民に親しんで欲しい種として「ふるさと種」を選定した。選定にあたっては、市内における生育・生息状況や、自然環境基礎調査検討会からの意見を参考とした。

なお、本種は平成22年度自然環境基礎調査において「保全上重要な種」のカテゴリーの1つとしていた「ふれあい保全種」の位置づけ等を見直し、選定を行ったものである。

1.5.4 植物生育地として重要な地域・動物生息地として重要な地域の更新

平成 22 年度自然環境基礎調査において選定した「植物生育地として重要な地域」及び「動物生息地として重要な地域」について、平成 27 年度仙台市自然環境基礎調査において作成した「現存植生図」や自然環境基礎調査検討会からの意見をもとに、更新を行った。

1.5.5 保全上重要な地形・地質のリスト及び分布図の更新

平成22年度自然環境基礎調査において取りまとめた以下の2項目について、文献収集を基にリスト及び分布図を更新した。分布図はGISデータにより作成した。

- ・学術上重要な地形・地質・自然現象
- ・自然景観資源

1.6 自然環境基礎調査検討会

本調査の実施にあたっては、本市の生きもの及び自然環境に精通した専門家からなる自然環境基礎調査検討会（以下、「検討会」という。）を設置するとともに、下に示す協力者に協力を頂いた。

検討会及び協力者からは、「保全上重要な種」の「リスト」及び「選定理由票」の見直し、「ふるさと種」の選定、「植物生育地として重要な地域」及び「動物生息地として重要な地域」の見直しにあたり、専門的な見地からの意見を頂いた。

【検討会委員】（敬称略，五十音順）

委員	所属	分野
五十嵐 由里	宮城昆虫地理研究会 事務局幹事	動物（昆虫類）
太田 宏	東北大学 助教	動物（両生類・爬虫類）
齋藤 千映美	宮城教育大学 教授	動物（哺乳類）
高取 知男	仙台市科学館 嘱託	動物（魚類）
竹丸 勝朗	日本野鳥の会宮城県支部 支部長	動物（鳥類）
平吹 喜彦	東北学院大学 教授	植物

【協力者】（敬称略）

滝口 政彦 宮城植物の会

【検討会の開催日】

第1回検討会：平成28年 9月12日

第2回検討会：平成28年11月22日

第3回検討会：平成29年 2月16日

第2章 これまでの経緯

仙台市自然環境基礎調査は、これまでに第1回調査（平成6年度～平成7年度）、第2回調査（平成13年度～平成15年度）、第3回調査（平成21年度～平成22年度）、第4回調査（平成27年度～）が実施されており、本調査は第4回調査の2年度目にあたる。

過去の調査概要を以下に示す。

2.1 第1回調査（平成6（1994）年度～平成7（1995）年度）

本市の環境の保全と創造に関わる政策・施策の基本的な方向性を定める「仙台市環境基本計画（杜の都環境プラン）」の策定に資するとともに、本市の自然環境保全行政に資する基礎的資料を整備することを目的に実施した。

【第1回調査の主な成果】

- ①自然環境現況図の作成
 - ・現存植生図
 - ・特定植物群落（保全上重要な植物群落及び植物種の分布図）
 - ・動物分布図（保全上重要な動物種の分布図）
 - ・自然環境保全関連指定地域図 等
- ②保全上重要な植物種リスト、保全上重要な動物種リストの作成

2.2 第2回調査（平成13（2001）年度～平成15（2003）年度）

第1回調査から一定の期間を経たことを踏まえ、本市の自然環境の最新の情報を把握するとともに、本市の自然環境保全行政に資する基礎的資料を整備することを目的に実施した。

なお、「生物多様性国家戦略」の策定（平成7（1995）年10月）、国のレッドデータブック（以下「RDB」とする。）の見直し（平成12（2000）年～）、宮城県RDBの作成（平成13（2001）年3月）を踏まえ、国及び県RDBとの整合性を図るとともに、身近な減少種や市民とのふれあい等の視点を加味し、本市における保全上重要な種に「減少種」、 「環境指標種」、 「ふれあい種」の区分を加えた。

また、自然環境現況図及び保全上重要な種の分布図は地理情報システム（GIS）を用いて整理した。

【第2回調査の主な成果】

- ①自然環境現況図の更新（GIS化）
 - ・現存植生図
 - ・保全上重要な種分布図
 - ・自然環境保全関連指定地域図 等
- ②保全上重要な種のリストの更新

2.3 第3回調査（平成21（2009）年度～平成22（2010）年度）

第2回調査から一定の期間を経たことを踏まえ、本市の自然環境の最新の情報を把握するとともに、本市の自然環境保全行政に資する基礎的資料を整備することを目的に実施した。

また、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）の制定（平成16（2004）年6月）や「生物多様性基本法」の制定（平成20（2008）年6月）等も踏まえ、本市の自然環境の変化の状況や要因についての分析を新たに行った。

【第3回調査の主な成果】

- ①自然環境現況図の更新
 - ・現存植生図，自然環境保全関連指定地域図
 - ・保全上重要な動植物の生息地・生育地 等
- ②保全上重要な種のリストの更新
- ③自然環境の変化の状況等の分析 等

2.4 第4回調査（平成27（2015）年度～平成28（2016）年度）

第3回調査から一定の期間を経たこと、また平成23（2011）年に発生した東日本大震災（以降「震災」とする）に伴う津波や、その後の復旧・復興工事等により、市域東部田園地域・沿岸部を中心として本市の自然環境に大きな変化があったことを踏まえ、本市の自然環境の最新情報を把握するとともに、本市の自然環境保全行政に資する基礎的資料を整備することを目的に実施した。

さらに、本市の生物多様性を保全していく上で重要な地域である里地里山について、その分布状況や状態についての把握を行った。なお、里地里山の質の低下は生物多様性国家戦略において、我が国の生物多様性を脅かす4つの危機の一つとして挙げられている。本市においてもその変化が大きい環境であることから、里地里山の分布状況やその状態についての調査を新たに行った。

【第4回調査（1年目）の主な成果】

- ①自然環境現況図の更新
 - ・現存植生図，自然環境保全関連指定地域図 等
- ②平成27年度仙台市野生生物目録（暫定版）の作成
- ③里地里山の分布状況及びその状態の把握

なお、以上の調査結果については、仙台市環境基本計画（杜の都環境プラン）の策定や改定、評価や、本市の生物多様性保全のための事業検討等にあたっての基礎資料としている。また、「仙台市環境影響評価条例」や「杜の都の風土を守る土地利用調整条例」等を通じて、環境に配慮した開発事業を促す上での基礎資料としている。

第3章 調査結果

3.1 保全上重要な種のリスト及び選定理由票の更新

3.1.1 仙台市野生生物目録の更新

「保全上重要な種」の選定にあたり，基礎資料となる「仙台市野生生物目録」（以下，「目録」とする。）を更新した。分類群ごとの目録掲載種数は表 3.1-1に，目録は資料編に示す。なお，更新にあたっては，115文献を使用した。使用した文献一覧を表 3.1-2に示す。

表 3.1-1 目録掲載種数集計結果

分類群	種数
植物	180科 2,669種
哺乳類	9目 20科 49種
鳥類	20目 63科 339種
爬虫類	2目 10科 17種
両生類	2目 6科 15種
魚類	15目 53科 137種
昆虫類	24目 385科 5,864種

表 3.1-2(1) 使用文献一覧(仙台市野生生物目録)(1/3)

文献 No.	文献名称	発行年
1	「広瀬・名取川水系魚類相調査報告書」(1976 仙台市)	1976
2	「青葉山保存緑地調査報告書」(1979 青葉山保存緑地調査臨時専門委員会)	1979
3	「第2回自然環境基礎調査河川調査報告書」(1979 宮城県)	1979
4	「太白山県自然環境保全地域学術調査報告書」(1985 宮城県)	1985
5	「蕃山・斉勝沼県緑地環境保全地域、権現森緑地環境保全地域学術調査報告書」(1985 宮城県)	1985
6	「第3回自然環境基礎調査河川調査報告書東北版」(1987 環境庁)	1987
7	「仙台城址・青葉山地域の魚類」(仙台城址の自然 1990 仙台市教育委員会)	1990
8	「仙台城址の自然-仙台城址自然環境調査総合報告-」(1990 仙台市教育委員会)	1990
9	「河川水辺の国勢調査結果 一級河川名取川 調査結果」(1991-2004 国土交通省)	1991
10	「青葉山丘陵の雑木林Ⅱ, 青葉山市有林の植物相. 東北植物研究 7」 (1991 長嶋康雄・生方正敏・蜂須賀克明)	1991
11	「泉ヶ岳山麓の溜池に生息するテツギョについて」 (仙台市科学館研究記録第1号 1991 仙台市科学館)	1991
12	「太白山自然観察の森魚類の観察ポイント」 (太白山自然観察の森環境調査報告書 1991 仙台自然教育研究会)	1991
13	「七北田川の魚類について」(仙台市科学館研究報告第2号 1992 仙台市)	1992
14	「河川水辺の国勢調査平成4年度名取川水系魚介類調査報告書」(1993 東北地方整備局)	1993
15	「県民の森緑地環境保全地域の魚・両生類・爬虫類・甲殻類・貝」 (県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書 1993 宮城県)	1993
16	「青葉山地区環境影響評価調査」(1993 仙台市)	1993
17	「仙台の汽水性魚類について」(仙台市科学館研究報告第3号 1993 仙台市科学館)	1993
18	「東北大学理学部附属植物園自生植物目録 第4版」(1993 東北大学理学部附属植物園)	1993
19	「インセクトマップオブ宮城 No. 1~No. 33」(1994~2010 宮城昆虫地理研究会)	1994
20	「広瀬川流域の自然環境-広瀬川流域自然環境調査報告-」(1994 仙台市環境局環境計画課)	1994
21	「仙台市史特別編1 自然」(1994 仙台市)	1994
22	「仙台市名取川水系のイワナ類の分布について」(仙台市科学館研究報告第5号 1995 仙台市科学館)	1995
23	「平成6年度自然環境調査報告書」(1995 仙台市)	1995
24	「河川生態系総合調査報告書」(1996 ㈱建設環境研究所)	1996
25	「仙台市芋沢川の河川環境事前調査報告書」(1997 (有)ネイティブサイン研究所)	1997
26	「河川水辺の国勢調査平成9年度名取川水系魚介類調査報告書」(1998)	1998
27	「梅田川いきもの調査報告書」(1998 ㈱水産生物研究室)	1998
28	「平成10年度河川水辺の国勢調査(魚介類調査)業務委託報告書-七北田川-」 (1999 ㈱建設環境研究所)	1999
29	「丸田沢緑地環境保全区域学術調査報告書」(2000 宮城県)	2000
30	「宮城県植物目録 2000」(2001 宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会) 「宮城県維管束植物目録 2008」(2008 上野雄規)	2001
31	「日本野鳥の会宮城 提供データ 会報 雁 鳥信より 2001-2010」(2010 日本野鳥の会宮城)	2001
32	「平成14年度名取川水系河川水辺の国勢調査(魚介類調査)委託報告書」(2002 宮城県)	2002
33	「平成14年度名取川水系河川水辺の国勢調査(魚介類)現地調査結果」(2003 東北地方整備局)	2003
34	「平成15年度自然環境調査報告書」(2003 仙台市)	2003
35	「河川水辺の国勢調査平成15年度七北田川水系魚介類調査報告書」(2004 宮城県)	2004
36	「蒲生海岸鳥類生息調査結果 1971-2003」(2004 蒲生を守る会)	2004
37	「広瀬川ブラックバス生息状況調査」(2004 仙台市環境管理課)	2004
38	「平成15年度ブラックバス生息状況調査報告書」(2004 仙台市)	2004
39	「平成15年度自然環境に関する基礎調査業務報告書」(2004 仙台市)	2004
40	「仙台市高速鉄道東西線建設事業に係る環境影響評価書」(2005 仙台市)	2005

表 3.1-2(2) 使用文献一覧(仙台市野生生物目録)(2/3)

文献 No.	文献名称	発行年
41	「宮城教育大学環境教育研究紀要第8巻」(2006 宮城教育大学環境教育実践研究センター)	2006
42	「平成19年度名取川水系河川水辺の国勢調査魚類調査夏季調査結果中間報告書」(2007 パシフィックコンサルタンツ㈱)	2007
43	「東北大学青葉山新キャンパス整備事業 環境影響評価書」(2008 東北大学)	2008
44	「平成19年度河川水辺の国勢調査業務(筑川環境調査)報告書」(2008 ㈱建設環境研究所)	2008
45	「平成20年度七北田川水系河川水辺の国勢調査(魚類調査)中間報告資料」(2008 いであ㈱)	2008
46	「(仮称)仙台市荒井東土地区画整理事業 環境影響評価書」(2009 仙台市荒井東土地区画整理組合設立準備委員会)	2009
47	「仙台市茂庭土地区画整理事業(仮称) 環境影響評価書」(2009 仙台市茂庭土地区画整理組合設立準備委員会)	2009
48	「宮城野野生動物研究会 提供データ(公開準備中資料)」(2010 宮城野野生動物研究会)	2010
49	「仙台市科学館 提供データ」(2010 仙台市科学館)	2010
50	「ハチ類生息状況に関する情報提供」(2011 郷右近勝夫)	2011
51	「標本に基づいた仙台市野生植物目録」(2010 財団法人 仙台市公園緑地協会) 【凡例】●: 標本に基づいた目録記載種 △: 標本が確認できず目録への収録が保留とされた種「標本に基づいた仙台市野生植物目録(追補 発行予定資料より)」(2011 財団法人 仙台市公園緑地協会)	2011
52	インセクトマップオブ宮城 No.32~41	2010
53	ジャパングリーン環境調査(動植物)報告書 2010.10~2011.11 ver2	2010
54	平成23年度国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区植生モニタリング業務報告書	2011
55	仙台市科学館研究報告第21号平成23年	2011
56	仙台市科学館研究報告第21号別冊平成23年	2011
57	緑を守り育てる宮城県連絡会議ニュース No.188~235	2011
58	宮城の植物 第36号~40号	2011
59	宮城の自然観察 第99号~114号	2011
60	仙台市荒井南土地区画整理事業 環境影響評価書	2011
61	仙台市新墓園建設事業(第2期) 環境影響評価書 報告書及び資料編	2011
62	仙台市高速鉄道東西線建設事業 事後調査報告書(第4回)	2011
63	都市計画道路川内旗立線整備事業 事後調査報告書(第2回)	2011
64	都市計画道路川内旗立線整備事業 事後調査報告書(第3回)	2011
65	仙台市新墓園建設事業(第2期) 事後調査報告書(第1回)	2011
66	新仙台火力発電所リプレース計画 環境影響評価書	2011
67	仙台市科学館蒲生調査レポート速報版(No.1~No.88)	2011
68	平成24年度国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区植生モニタリング業務報告書	2012
69	平成24年度東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査等業務報告書	2012
70	東日本大震災による仙台湾沿岸湿地への影響	2012
71	仙台市科学館研究報告第22号平成24年 東日本大震災関連調査	2012
72	宮城教育大学環境教育研究紀要 第14巻	2012
73	蒲生を守る会だより No.64~65	2012
74	市立病院移転新築事業 環境影響評価書	2012
75	仙台市荒井西土地区画整理事業 環境影響評価書	2012
76	仙台市高速鉄道東西線建設事業 事後調査報告書(第5回)	2012
77	愛宕山林道作業道路設置事業 作業道路建設に伴う動植物調査報告書	2012
78	(仮称)産業廃棄物最終処分場増設事業(第3期) 環境影響調査報告書	2012
79	仙台市環境共生課提供資料(平成24~26年度)クマ出没箇所	2012
80	平成25年度国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書	2013

表 3.1-2(3) 使用文献一覧（仙台市野生生物目録）(3/3)

文献 No.	文 献 名 称	発行年
81	平成 25 年度東北地方太平洋沿岸地域植生・湿地変化状況等調査報告書	2013
82	平成 25 年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査報告書	2013
83	仙台湾の水鳥を守る会シンポジウム 2013	2013
84	仙台市科学館研究報告第 23 号平成 25 年	2013
85	宮城教育大学環境教育研究紀要 第 15 巻	2013
86	仙台市富沢駅西土地地区画整理事業 環境影響評価書	2013
87	東部復興道路（主要地方道塩釜亘理線外 1 線）整備事業 環境影響評価書	2013
88	青葉山新キャンパス整備事業 事後調査報告書第 1 回及び第 2 回	2013
89	仙台市高速鉄道東西線建設事業 事後調査報告書（第 6 回）	2013
90	都市計画道路川内旗立線整備事業 事後調査報告書（第 4 回）	2013
91	仙台市新墓園建設事業（第 2 期） 事後調査報告書（第 2 回）	2013
92	愛宕山林道作業道路設置事業 作業道路建設に伴う動植物調査報告書（補足）	2013
93	「集落・里山・田園ゾーン（愛子及び周辺地域）」の利活用に伴う 保全対策検討のための環境調査（動植物）報告書	2013
94	生出物語-平成の風土記- 生出来ち物語作成委員会 平成 25 年	2013
95	仙台市科学館研究報告第 24 号平成 26 年	2014
96	仙台市荒井南土地地区画整理事業 事後調査報告書（第 1 回）	2014
97	仙台市荒井西土地地区画整理事業 事後調査報告書（第 1 回）	2014
98	仙台市荒井東土地地区画整理事業事後調査報告書（工事中第 1 回）	2014
99	仙台市高速鉄道東西線建設事業 事後調査報告書（第 7 回）	2014
100	都市計画道路川内旗立線整備事業 事後調査報告書（第 5 回）	2014
101	仙台市新墓園建設事業（第 2 期） 事後調査報告書（第 3 回）	2014
102	阿部善産業(株)坪沼採石場動植物調査報告書	2014
103	仙台ハイランド樹木調査 調査報告書	2014
104	太陽光発電所設置に係る自然環境調査 仙台市青葉区大倉地内 調査報告書	2014
105	平成 26 年度自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査に係る情報収集等業務報告書	2014
106	仙台市農政企画課提供資料（平成 26 年度荒廃農地調査・野生動物による農作物被害箇所）	2014
107	平成 26 年度国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書	2014
108	森のおくりもの 仙台市太白山自然観察の森情報誌（下記 URL 参照） http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/backnum/index.html	2015
109	宮城野植物 第 40 号別冊 「平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災に伴う津波が仙台市若林区井土浦のハマナス群落に及ぼした影響」	2015
110	都市計画道路川内旗立線整備事業 事後調査報告書（第 6 回）	2015
111	仙台市新墓園建設事業（第 2 期） 事後調査報告書（第 4 回）	2015
112	太陽光発電計画に係る自然環境調査 仙台市青葉区芋沢地内 調査報告書	2015
113	学識者によって生物目録に追加された生物	2015
114	宮城昆虫地理研究会提供データ	2016
115	仙台市環境共生課資料（ニホンジカ確認資料）	2016

3.1.2 保全上重要な種の選定方針

保全上重要な種の選定フローを図 3.1-1に示す。

3.1.1において更新した目録から、表 3.1-3の条件に該当する種を「保全上重要な種（案）」とした。一次抽出した「保全上重要な種（案）」について、次の(1)～(3)の選定カテゴリー（学術上重要な種，減少種，環境指標種）に基づいて見直し，「保全上重要な種」を選定した。保全上重要な種の選定の過程では，専門家からの助言を受けてリスト及び選定理由票を作成した。

なお，第3回調査（H22(2010)）において，「保全上重要な種」のカテゴリーの一つとしていた「ふれあい保全種」については，位置付け等を見直し，保全上重要な種とは別に「ふるさと種」として選定することとした。

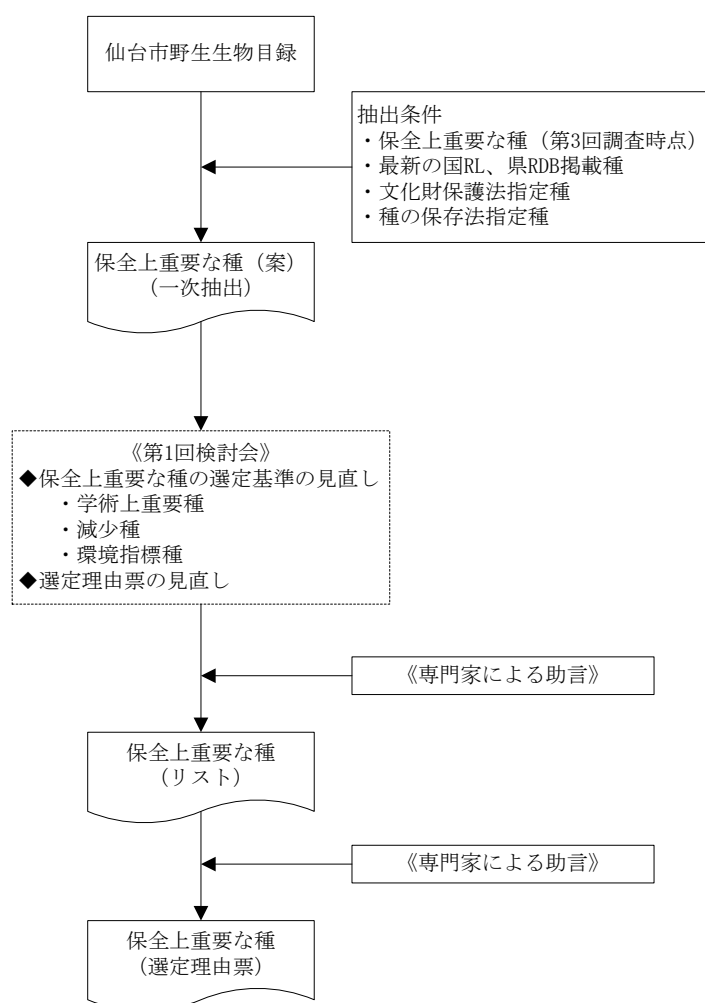


図 3.1-1 保全上重要な種選定フロー

表 3.1-3 保全上重要な種一次抽出条件

選定基準	内容
①	平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書（第3回調査） 保全上重要な種（学術上重要な種，減少種，環境指標種，ふれあい保全種）
②	環境省レッドリスト2015（平成27年 環境省） CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類，CR：絶滅危惧ⅠA類，EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
③	宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 －宮城県レッドデータブック2016－（平成28年 宮城県） CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類，CR：絶滅危惧ⅠA類，EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群，YO：要注目種
④	文化財保護法（昭和25年 法律第214号） 特天：特別天然記念物，天然：天然記念物
⑤	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 （平成4年 法律第75号） 国内：国内希少野生動植物種，国際：国際希少野生動植物種

<選定カテゴリー>

(1) 学術上重要種

カテゴリー分類は以下のとおり。

1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種 あるいは生息地・生育地がごく限られている種
2	仙台市周辺地域が分布の北限，南限等の分布限界となる種
3	仙台市が模式産地（タイプロカリティ）となっている種
4	1，2，3には該当しないが，各分類群において，注目に値すると考えられる種 （継続的に観察・研究されている個体群が存在する種など）

(2) 減少種

第2回調査時（平成15(2003)年）頃と比べ、分布域や個体数が著しく減少している種、あるいは今後減少する恐れのある種。

前回調査（第3回（平成22(2010)年））からの変更点は以下のとおり。

- ・ 国や県のRDBにおける判断基準等を考慮し、減少種の評価に、将来における減少の恐れを含めて評価することとした。
- ・ 前回調査（第3回（平成22(2010)年））では市街化が本格化し始めた1970年代との比較により減少の程度を判断していた。現在は1970年代との比較のための情報が不足していることや、本市の現存植生図がGISデータにより整備され、植生や土地利用の状況を客観的に判断することが可能となった平成15(2003)年頃（第2回調査）との比較とした。

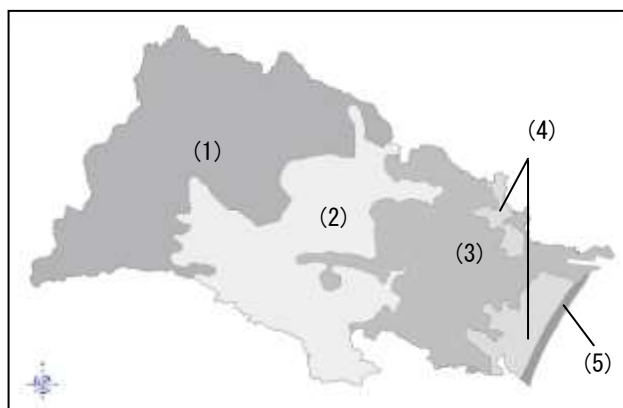
なお、現存植生図の比較によれば、本市では平成15（2003）年以降、地下鉄富沢駅や荒井駅、青葉山、仙台港周辺や、郊外部における水田、畑地において「市街化の進行」がみられる。

カテゴリ分類及び判断基準は以下のとおりであるが、定量的に判断できる情報を得ることが困難であったことから、定性的な判断によった。

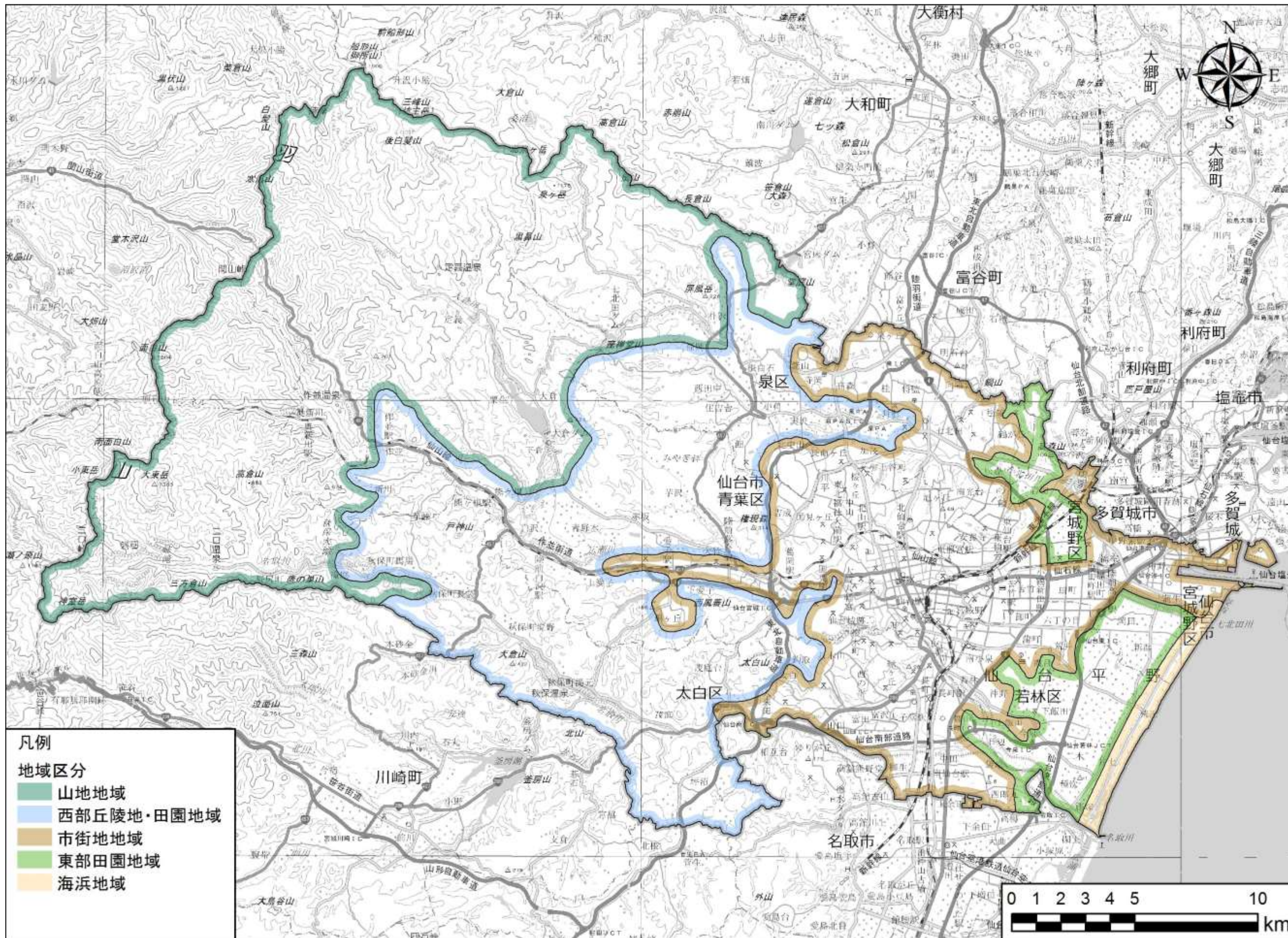
EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種
EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種
A	現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種
B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種
C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種
+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種
/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい
・	判断に資する情報がない

【地域区分】

- (1) 山地地域
 - (2) 西部丘陵地・田園地域
 - (3) 市街地地域
 - (4) 東部田園地域
 - (5) 海浜地域（後背の樹林も含む）
- ※詳細は、次頁の図 3.1-2を参照



仙台市環境基本計画 2011-2020 による地域区分



この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.1-2 仙台市環境基本計画 2011-2020 による地域区分（詳細）

(3) 環境指標種

カテゴリーの内容は以下の通り。

◆環境指標種

○	本市の各環境分類における環境を指標する種 (ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標)
---	---

環境指標種は植物104種、哺乳類23種、鳥類47種、爬虫類6種、両生類10種、魚類9種、昆虫類28種である。指標する環境の内容は表 3.1-4～表 3.1-10に示すとおりである。

表 3.1-4(1) 環境指標種 (植物 1/4)

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
植物	イワヒバ	イワヒバ	冷温帯の岩壁を指標
	オシダ	リョウメンシダ	冷温帯の崖錘・溪谷を指標
	オシダ	ジュウモンジシダ	冷温帯の崖錘・溪谷を指標
	マツ	モミ	中間温帯林を指標。大気汚染に弱いため市街地で良好な環境の指標にもなる
	マツ	ハイマツ	亜高山帯（偽高山帯）の環境指標
	クルミ	オニグルミ	攪乱の多い丘陵地の崖錘や自然堤防を指標
	ヤナギ	ネコヤナギ	河川中流域の指標
	ヤナギ	キツネヤナギ	丘陵地林縁の自然環境を指標
	カバノキ	ハンノキ	湿地を指標
	カバノキ	サワシバ	崖錘を指標
	カバノキ	アカシデ	冷温帯の溪谷を指標
	カバノキ	イヌシデ	中間温帯林を指標
	ブナ	イヌブナ	中間温帯林を指標
	ブナ	アカガシ	暖温帯林を指標
	ブナ	シラカシ	暖温帯林を指標
	ニレ	ケヤキ	崖錘や自然堤防を指標
	タデ	イヌタデ	中下流域河川敷の洪水などによる泥質の薄く堆積する川原の自然環境を指標
	タデ	ミゾソバ	湿地を指標
	アカザ	ハママツナ	塩性湿地を指標
	モクレン	タムシバ	冷温帯山地帯森林の自然環境を指標
	クスノキ	オオバクロモジ	冷温帯山地帯森林の自然環境を指標
	クスノキ	シロダモ	暖温帯林を指標
	キンボウゲ	ニリンソウ	冷温帯の崖錘を指標
	キンボウゲ	キクザキイチゲ	冷温帯の崖錘を指標
	キンボウゲ	リュウキンカ	冷温帯の湿地や小川の自然泥質地環境を指標

表 3.1-4(2) 環境指標種 (植物 2/4)

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
植物	シラネアオイ	シラネアオイ	冷温帯林を指標
	ウマノスズクサ	トウゴクサイシン	落葉広葉二次林の人為的自然環境を指標
	ツバキ	ヤブツバキ	暖温帯林を指標
	アブラナ	ナズナ	畑地・果樹園の人為的自然環境を指標
	ベンケイソウ	キリンソウ	冷温帯山地帯の岩壁の自然環境を指標
	ユキノシタ	コチャルメルソウ	山地溪流の水流辺の自然湿性環境を指標
	ユキノシタ	ダイヤモンドソウ	山地溪流の岩角地の自然環境を指標
	バラ	ヤマブキ	丘陵地の崖錘の自然環境を指標
	バラ	イワキンバイ	冷温帯山地帯の岩壁の自然環境を指標
	バラ	カスミザクラ	中間温帯林を指標
	バラ	ハマナス	砂浜海岸を指標
	マメ	ツクシハギ	段丘崖を指標
	カエデ	ナンゴクミネカエデ	奥羽山地亜高山帯の自然環境を指標
	カエデ	ヤマモミジ	崖錘を指標
	モチノキ	アカミノイヌツゲ	冷温帯山地帯の尾根の自然環境を指標
	ヒシ	ヒシ	淡水湖沼を指標
	ミズキ	アオキ	暖温帯林・中間温帯林を指標
	イワウメ	コイワウチワ	冷温帯の尾根を指標
	イチヤクソウ	ウメガサソウ	海岸防潮林の自然環境を指標
	ツツジ	ヤマツツジ	丘陵二次林の尾根の人為的自然環境を指標
	ツツジ	シロヤシオ	冷温帯の尾根を指標
	ヤブコウジ	ヤブコウジ	中間温帯林の自然環境を指標
	サクラソウ	サクラソウ	湿地を指標
	モクセイ	イボタノキ	湿地を指標
	ヒルガオ	ハマヒルガオ	砂浜海岸を指標
	ゴマノハグサ	サギゴケ	水田の人為自然環境を指標
	オオバコ	オオバコ	踏跡群落の人為自然環境を指標
	スイカズラ	オオカメノキ	冷温帯山地帯森林の自然環境を指標
	オミナエシ	オミナエシ	二次草原の人為的自然環境を指標
	キキョウ	キキョウ	二次草原の人為的自然環境を指標
	キク	オクモミジハグマ	丘陵二次林の人為自然環境を指標
	キク	キッコウハグマ	中間温帯林を指標
	キク	オケラ	丘陵二次林の尾根の人為的自然環境を指標
	キク	アズマギク	二次草原の人為的自然環境を指標
キク	アキノキリンソウ	丘陵二次林の人為自然環境を指標	
キク	エゾタンポポ	畑地・果樹園の人為的自然環境を指標	

表 3.1-4(3) 環境指標種 (植物 3/4)

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
植物	オモダカ	ヘラオモダカ	水田の人為自然環境を指標
	オモダカ	サジオモダカ	水田の人為自然環境を指標
	オモダカ	アギナシ	水田の人為自然環境を指標
	オモダカ	ウリカワ	水田の人為自然環境を指標
	オモダカ	オモダカ	水田の人為自然環境を指標
	オモダカ	ホソバオモダカ	水田の人為自然環境を指標
	トチカガミ	クロモ	淡水湖沼を指標
	ホロムイソウ	オオシバナ	塩性湿地を指標
	ヒルムシロ	エビモ	河川下流域の自然環境を指標
	ヒルムシロ	コバノヒルムシロ	淡水池沼の自然環境を指標
	ヒルムシロ	ヒルムシロ	淡水池沼の自然環境を指標
	ヒルムシロ	フトヒルムシロ	淡水池沼の自然環境を指標
	ヒルムシロ	オオミズヒキモ	淡水池沼の自然環境を指標
	ヒルムシロ	センニンモ	淡水池沼の自然環境を指標
	ヒルムシロ	オヒルムシロ	淡水池沼の自然環境を指標
	ヒルムシロ	ホソバミズヒキモ	淡水池沼の自然環境を指標
	ユリ	ショウジョウバカマ	丘陵二次林の人為自然環境を指標
	ユリ	ヒメヤブラン	海岸防潮林の自然環境を指標
	ユリ	ユキザサ	冷温帯山地帯森林の自然環境を指標
	ミズアオイ	ミズアオイ	水田の人為自然環境を指標
	ミズアオイ	コナギ	水田の人為自然環境を指標
	アヤメ	ノハナショウブ	二次草原の人為的自然環境を指標
	アヤメ	ヒメシャガ	落葉広葉樹二次林の人為自然環境を指標
	イネ	メヒシバ	畑地・果樹園の人為自然環境を指標
	イネ	テンキグサ	砂浜海岸を指標
	イネ	カゼクサ	踏跡群落の人為自然環境を指標
	イネ	オオウシノケグサ	海岸防潮林の自然環境を指標
	イネ	ケカモノハシ	砂浜海岸を指標
	イネ	オギ	河川敷の指標
	イネ	アイアシ	塩性湿地を指標
	イネ	ヨシ	湿地を指標
	イネ	ツルヨシ	河川中流域の自然環境を指標
	イネ	スズタケ	丘陵地の自然環境を指標
	イネ	ネズミノオ	踏跡群落の人為自然環境を指標
イネ	マコモ	湿地を指標	
イネ	シバ	短茎草原の人為自然環境を指標	

表 3.1-4(4) 環境指標種 (植物 4/4)

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
植物	サトイモ	ミズバショウ	冷温帯の湿地を指標
	ミクリ	ミクリ	湿地を指標
	ガマ	ガマ	湿地を指標
	カヤツリグサ	コウボウムギ	砂浜海岸を指標
	カヤツリグサ	タヌキラン	段丘崖の自然環境を指標
	ラン	ジュンラン	丘陵地二次林の人為自然環境を指標
	ラン	ネジバナ	短茎草原の人為自然環境を指標

表 3.1-5 環境指標種 (哺乳類)

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
哺乳類	トガリネズミ	シントウトガリネズミ	自然度が高い山地森林の環境指標
	トガリネズミ	ホンシュウジネズミ	土壌が損なわれていない土地の環境指標
	トガリネズミ	カワネズミ	自然度が高い溪流の環境指標
	モグラ	ヒメヒミズ	森林の環境指標
	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	森林の環境指標
	キクガシラコウモリ	ニホンキクガシラコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ	自然林の環境指標
	ヒナコウモリ	カグヤコウモリ	人為的攪乱の少ない自然林を指標
	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	モリアブラコウモリ	山地の自然林の環境指標
	ヒナコウモリ	ヤマコウモリ	大木のある森林の環境指標
	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	ウサギコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	ユビナガコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	コテングコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	テングコウモリ	森林の環境指標
	リス	ムササビ	滑空に利用できる高木の多い森林の環境指標
	ネズミ	ハタネズミ	草原・草地の環境指標
	ネズミ	ヒメネズミ	自然度が高い林の環境指標
	イヌ	タヌキ	里地の環境指標
	イタチ	テン	山地、森林の環境指標
	イタチ	イタチ	多様な動物相が保たれている水辺周囲の環境指標
	ウシ	カモシカ	山地の環境指標

表 3.1-6(1) 環境指標種（鳥類 1/2）

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
鳥類	キジ	ヤマドリ	森林の環境指標
	カイツブリ	カイツブリ	水域の環境指標
	サギ	ヨシゴイ	湿地の環境指標
	サギ	アマサギ	湿地や草原の環境指標
	サギ	コサギ	水辺の環境指標
	クイナ	バン	湿地の環境指標
	カッコウ	ホトトギス	里山の環境の指標
	カッコウ	カッコウ	里山の環境の指標
	ヨタカ	ヨタカ	森林の環境指標
	チドリ	イカルチドリ	礫河原の環境指標
	チドリ	シロチドリ	砂浜の環境指標
	シギ	ハマシギ	干潟や海浜の環境指標
	ミサゴ	ミサゴ	水域（河口域など）の環境指標
	タカ	チュウヒ	湿地や草原の環境指標
	タカ	オオタカ	里山の環境指標
	タカ	ノスリ	里山の環境指標
	タカ	イヌワシ	良好な山地森林の環境指標
	タカ	クマタカ	森林における良好な生態系の環境指標
	フクロウ	コノハズク	山地の自然度が高い森林の環境指標
	フクロウ	フクロウ	森林や里地の環境指標
	フクロウ	アオバズク	里地の環境指標
	フクロウ	コミミズク	田園地帯や草原の環境指標
	カワセミ	カワセミ	魚が多く棲む水辺の環境指標
	カワセミ	ヤマセミ	溪流の環境指標
	キツツキ	アオゲラ	山地や丘陵の林の環境指標
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	平地や丘陵の林の環境指標
	モズ	モズ	里地里山の環境指標
	ヒバリ	ヒバリ	農耕地や草原の環境指標
	ツバメ	ツバメ	市街地も含め、人里の環境指標
	ウグイス	ウグイス	里地里山の環境指標
	ムシクイ	センダイムシクイ	森林の環境指標
	ヨシキリ	オオヨシキリ	水辺の環境指標
	ヨシキリ	コヨシキリ	湿性草地の環境指標
	セッカ	セッカ	草原の環境指標
ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	山地の広葉樹林や混交林の環境指標	
カワガラス	カワガラス	清流の環境指標	

表 3.1-6(2) 環境指標種（鳥類 2/2）

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
鳥類	ヒタキ	トラツグミ	森林や里地の環境指標
	ヒタキ	クロツグミ	森林や里地の環境指標
	ヒタキ	シロハラ	林の環境指標
	ヒタキ	コルリ	山地森林の環境指標
	ヒタキ	コサメビタキ	里山の環境指標
	ヒタキ	キビタキ	明るい森林（二次林，里山）の環境指標
	ヒタキ	オオルリ	林の環境指標
	セキレイ	セグロセキレイ	水辺の環境指標
	セキレイ	キセキレイ	水辺の環境指標
	ホオジロ	ホオジロ	林縁や疎林及び二次的環境の指標
	ホオジロ	ホオアカ	草原や広い湿原の環境指標

表 3.1-7 環境指標種（爬虫類）

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
爬虫類	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	低山から平地・住宅地にかけての林や草むらの指標
	カナヘビ	ニホンカナヘビ	低山から平地・住宅地にかけての林や草むらの指標
	ナミヘビ	アオダイショウ	低山から平地・住宅地にかけての良好な自然環境の指標
	ナミヘビ	ジムグリ	森林の環境指標
	ナミヘビ	ヒバカリ	森林の環境指標
	ナミヘビ	ヤマカガシ	水田の環境指標

表 3.1-8 環境指標種（両生類）

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
両生類	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	林や森林の環境指標
	サンショウウオ	クロサンショウウオ	林や森林の環境指標
	サンショウウオ	キタオウシュウサンショウウオ	山地溪流の環境指標
	イモリ	アカハライモリ	里山の環境指標
	アマガエル	ニホンアマガエル	都市部における水辺の環境指標
	アカガエル	トウキョウダルマガエル	田園の環境指標
	アカガエル	ツチガエル	小川や池沼の環境指標
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	良好な水田環境の指標
	アオガエル	モリアオガエル	山地森林の環境指標
	アオガエル	カジカガエル	清流の環境指標

表 3.1-9 環境指標種（魚類）

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
魚類	ウナギ	ニホンウナギ	シラスウナギで遡上し川で生活する魚で、魚がのぼりやすい川の環境指標種
	コイ	ウグイ	中流の魚で、きれいな水（水質階級Ⅰ）の環境指標種
	ドジョウ	ホトケドジョウ	冷水性の魚で、開発の手が及びやすい丘陵地の小川の環境指標種
	アユ	アユ	中流の魚で、魚がのぼりやすい川と少し汚れた水（水質階級Ⅱ）の環境指標種
	サケ	サクラマス	成魚が春に遡上し秋に上流で産卵する魚で、魚がのぼりやすい川の環境指標種
	サケ	サクラマス(ヤマメ)	冷水性の魚で、川の渓流や上流の環境指標種
	メダカ	ミナミメダカ	止水性の魚で、行き来ができる用水路と田んぼの環境指標種
	カジカ	カジカ	上流や中流の川底が浮石の場所に住む魚で、きれいな水（水質階級Ⅰ）の環境指標種
	ハゼ	ヒモハゼ	干潟の魚で、湧き水があるような良質な砂泥の場所の環境指標種

表 3.1-10(1) 環境指標種（昆虫類）（1/2）

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
昆虫類	ムカシトンボ	ムカシトンボ	源流部の自然度の高さを指標
	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	山間部の溪流、湧水環境の環境指標
	トンボ	ハッチョウトンボ	湧水のある湿地環境を指標
	トンボ	ナツアカネ	水田の環境指標
	トンボ	マユタテアカネ	水田の環境指標
	トンボ	アキアカネ	水田の環境指標
	トンボ	ノシメトンボ	水田の環境指標
	トンボ	マイコアカネ	水田の環境指標
	バッタ	ヤマトマダラバッタ	自然植生の豊かな広い砂浜の環境指標
	バッタ	カワラバッタ	礫河原の環境指標
	ガロアムシ	ガロアムシ	陸域の多様な環境を指標
	ゼミ	エゾゼミ	マツ林など針葉樹林の環境指標
	コオイムシ	タガメ	水生生物が生活できる水環境を指標
	ウスバカゲロウ	オオウスバカゲロウ	人手の入らない自然な海岸砂丘の環境指標

表 3.1-10(2) 環境指標種（昆虫類）（2/2）

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
昆虫類	シジミチョウ	スギタニルリシジミ本州亜種	トチノキ林の環境指標
	シジミチョウ	ジョウザンミドリシジミ	ミズナラ林の環境指標
	シジミチョウ	フジミドリシジミ	ブナ林の環境指標
	タテハチョウ	オオムラサキ	エノキ・エゾエノキ高木を含む林の指標種
	アゲハチョウ	アオスジアゲハ	市街地の緑地の環境指標
	アゲハチョウ	ヒメギフチョウ本州亜種	利用され手入れされている雑木林の環境指標
	ジャノメチョウ	ジャノメチョウ	イネ科植物を主とした草原の環境指標
	オサムシ	ヒョウタンゴミムシ	自然な砂浜の環境指標
	ハンミョウ	カワラハンミョウ	人手の入らない広い自然砂丘の環境指標
	クワガタムシ	ミヤマクワガタ	手入れのされた雑木林の環境指標
	クワガタムシ	オニクワガタ	ブナ林の環境指標
	クワガタムシ	ノコギリクワガタ	手入れのされた雑木林の環境指標
	ホタル	ゲンジボタル	カワニナの生息する清流の環境指標
	ゴミムシダマシ	ハマヒョウタンゴミムシダマシ	自然な砂浜の環境指標

3.1.3 選定理由票の作成

「保全上重要な種」の選定にあたっては、選定カテゴリーの区分、判断理由、分布、個体数、減少（あるいは増加）の要因の内容等について特記すべき事項を記載した「選定理由票」を作成した。

「選定理由票」の様式は次頁のとおりであり、絶滅あるいは野生絶滅と考えられる種については別様式とした。

《選定理由票の見方について》

- ・第2回調査（H15（2003））、第3回調査（H22（2010））の該当カテゴリーと、本調査（H28（2016））における該当カテゴリーを併記し、過去の調査時との比較ができるようにした。
- ・減少種については、第2回調査（H15（2003））及び第3回調査（H22（2010））と、本調査（H28（2016））で判断基準が異なるため、H15（2003）及びH22（2010）の欄を網掛け・斜体とした。
- ・H28（2016）における国RL及び県RDBのカテゴリーは、それぞれ、「環境省レッドリスト2015（平成27年 環境省）」、「宮城県レッドデータブック2016（平成28年 宮城県）」における該当カテゴリーである。

以上により選定した仙台市内における保全上重要な種は、3.1.4 および 3.1.5 に示す。

選定理由票様式

No.		学名:		科			
種和名:							
調査年	学術上 重要種	判断理由				RDB種	
		注目種				国RL	県 RDB
		減少種※1					
		山地	西部丘陵 地・田園	市街地	東部田園		
H15(2003)							
H22(2010)							
H28(2016)							
【減少の要因】※2							
①気候の変化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
②人為的開発	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
③捕獲,採取	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
④外来種による影響	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
⑤二次的環境の放置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
⑥震災影響(自然攪乱)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
⑦震災影響(人為的影響)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
⑧その他・原因不明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
【備考】							

※1:減少の程度の判断は、H28(2016年)はH15(2003年)頃との比較によるものである。
H15(2003年)およびH22(2010年)は1970年代との比較によるため、灰色網掛けとしている。
※2:①気候の変化…温暖化等による生息・生育地の環境の変化, ②人為的開発…都市的土地利用への転換による生息・生育地の減少, ③捕獲,採取…過剰な捕獲,採取による減少, ④外来種による影響…外来種による生息・生育地の競合,捕食による減少, ⑤二次的環境の放置…里山等人為的な管理により維持されてきた環境の劣化, ⑥震災影響(自然攪乱)…東日本大震災に伴う津波による減少, ⑦震災影響(人為的影響)…東日本大震災後の復旧・復興事業に伴う減少, ⑧原因不明…減少の原因が不明

選定理由票様式 (絶滅・野生絶滅)

No.		学名:		科			
種和名:							
調査年	学術上 重要種	判断理由				RDB種	
		注目種				国RL	県 RDB
		減少種※1					
		山地	西部丘陵 地・田園	市街地	東部田園		
H15(2003)							
H22(2010)							
H28(2016)							
【絶滅の要因】※2							
①気候の変化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
②人為的開発	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
③捕獲,採取	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
④外来種による影響	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
⑤二次的環境の放置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
⑥震災影響(自然攪乱)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
⑦震災影響(人為的影響)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
⑧その他・原因不明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
【備考】							

※1:減少の程度の判断は、H28(2016年)はH15(2003年)頃との比較によるものである。
H15(2003年)およびH22(2010年)は1970年代との比較によるため、灰色網掛けとしている。
※2:①気候の変化…温暖化等による生息・生育地の環境の変化, ②人為的開発…都市的土地利用への転換による生息・生育地の減少, ③捕獲,採取…過剰な捕獲,採取による減少, ④外来種による影響…外来種による生息・生育地の競合,捕食による減少, ⑤二次的環境の放置…里山等人為的な管理により維持されてきた環境の劣化, ⑥震災影響(自然攪乱)…東日本大震災に伴う津波による減少, ⑦震災影響(人為的影響)…東日本大震災後の復旧・復興事業に伴う減少, ⑧原因不明…減少の原因が不明

3.1.4 保全上重要な植物種

(1) 植物相の概要

海岸から奥羽脊梁山脈まで市域が広がっており、本市で最も標高の高い船形山(標高1500.2m)の山頂付近ではキンロバイ、ウスユキソウ、コケモモなどの高山から亜高山帯の植物が、沿岸部ではアカガシ、シロダモなどの暖地系の植物が生育しているなど、植物相は多様である。また、丘陵地帯は暖温帯と冷温帯の間に位置する中間温帯と呼ばれる領域で、しかもその領域が広い面積を占めることが特徴である。この領域ではモミーイヌブナ林の発達がみられ、暖地系の植物、寒地系の植物の両方が見られるなど、植物相は非常に多様である。

また、仙台市は太平洋側に位置するが、チシマザサ、タニウツギ、ナガハシスミレなど、多雪の日本海側の地域に特徴的に見られる日本海側要素と呼ばれる植物を含んでいることも多様な植物相を構成する一因となっている。日本海側要素の植物は主に山地帯以高(標高約400m以上)に分布するが、種によっては海岸近くまで分布するものもある。

平成23(2011)年に発生した震災とそれに伴う津波により、海浜地域のクロマツ林(防潮林)の大部分が消失したほか、干潟や砂浜、東部田園地域の植生は大きな影響を受けた。その一方で、ハママツナなど、生育地・個体数が拡大・増加している種や、被災樹林内などに新たに成立した湿地においてはヨシやヒメガマなどが優先する湿性植物群落の成立もみられた。また震災後の復旧・復興事業等により、海浜地域・東部田園地域の改変が続いており、その環境の変化に注視していく必要がある。

(2) 選定結果(植物)

本調査においては、表 3.1-11に示す417種を「保全上重要な種(植物)」として選定した。作成した「選定理由票」は巻末資料として示す。

第3回調査時(H22(2010))から88種を追加し、3種を除外した。その一覧は、表 3.1-12及び表 3.1-13に示すとおりである。

表 3.1-11(1) 保全上重要な種（植物）総括表（1/9）

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
1	ヒカゲノカズラ	スギラン	1	・	・	・	・	・		VU	CR+EN	
2	イワヒバ	ヒモカズラ	1	・	・	・	・	・				
3	イワヒバ	イワヒバ	1	B	B	・	・	・	○			
4	ミズニラ	ミズニラ	1	・	B	・	A	・		NT	NT	
5	トクサ	イヌスギナ		・	B	・	B	・				
6	ゼンマイ	ヤシヤゼンマイ	1	C	C	・	・	・			NT	
7	コケシノブ	コウヤコケシノブ	1	・	・	・	・	・				
8	コケシノブ	ヒメハイホラゴケ	1	・	・	・	・	・				
9	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	1, 2	・	B	C	C	・				
10	イノモトソウ	イノモトソウ	1, 2	・	・	・	・	・			NT	
11	チャセンシダ	コタニワタリ		・	B	・	・	・				
12	オシダ	ナンタイシダ	1, 2	・	・	・	・	・			YO	
13	オシダ	ハカダシダ	1, 2	・	・	・	・	・			CR+EN	
14	オシダ	リョウメンシダ		・	B	・	・	・	○			
15	オシダ	キヨスミヒメワラビ	1, 2	・	・	・	・	・			VU	
16	オシダ	オシダ		・	B	・	・	・				
17	オシダ	オオクジャクシダ	1	・	・	・	・	・				
18	オシダ	ニオイシダ	1, 4	・	・	・	・	・				
19	オシダ	オオベニシダ	1, 2	・	・	・	・	・				
20	オシダ	ギフベニシダ	1, 2	・	・	・	・	・			CR+EN	
21	オシダ	アスカイノデ	2	・	・	・	・	・				
22	オシダ	アイアスカイノデ	2	・	・	・	・	・				
23	オシダ	イワシロイノデ		・	B	・	・	・				
24	オシダ	イノデ	2	・	・	・	・	・				
25	オシダ	サカゲイノデ		・	B	・	・	・				
26	オシダ	ジュウモンジシダ		・	B	・	・	・	○			
27	ヒメシダ	ヒメワラビ	2	・	B	B	B	・				
28	メシダ	オクヤマワラビ	1	・	・	・	・	・			CR+EN	
29	メシダ	ホソバインワラビ		・	C	・	・	・			NT	
30	メシダ	シケチシダ	1, 2	・	・	・	・	・			YO	
31	メシダ	ヤリノホシケシダ	1	・	・	・	・	・			NT	
32	メシダ	セイタカシケシダ	1	・	・	・	・	・			VU	
33	メシダ	ウサギシダ	1	・	・	・	・	・			VU	
34	メシダ	イヌガンソク		・	C	・	C	・				
35	メシダ	クサソテツ		・	B	・	C	・				
36	ウラボシ	ヒメサジラン	1	B	・	・	・	・				
37	ウラボシ	イワオモダカ	1	B	・	・	・	・			VU	
38	サンショウモ	サンショウモ	1	EX						VU	NT	
39	マツ	モミ		・	C	・	・	・	○			
40	マツ	キタゴヨウ	4	B	・	・	・	・				
41	マツ	ハイマツ	1, 4	C	・	・	・	・	○			
42	イチイ	カヤ		・	B	・	・	・				
43	クルミ	オニグルミ		・	B	B	B	・	○			
44	ヤナギ	ネコヤナギ	4	・	C	C	・	・	○			
45	ヤナギ	シライヤナギ	1	・	・	・	・	・			CR+EN	
46	ヤナギ	キツネヤナギ		・	C	・	・	・	○			
47	ヤナギ	オオバヤナギ	1	B	・	・	・	・			NT	
48	カバノキ	ハンノキ	1, 4	・	C	・	B	C	○			
49	カバノキ	ミズメ		C	C	・	・	・				
50	カバノキ	ウダイカンバ	4	C	C	・	・	・				

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-11(2) 保全上重要な種(植物)総括表(2/9)

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
51	カバノキ	サワシバ		C	B	・	・	・	○			
52	カバノキ	アカシデ		C	B	・	・	/	○			
53	カバノキ	イヌシデ	4	C	B	・	・	C	○			
54	ブナ	ブナ	4	C	B	・	・	・				
55	ブナ	イヌブナ	1, 4	・	B	・	・	・	○			
56	ブナ	アカガシ	2	・	C	C	C	C	○			
57	ブナ	アオナラガシワ	1	・	・	・	・	・				
58	ブナ	アラカシ	1, 2	・	C	・	・	・			YO	
59	ブナ	ミズナラ		C	B	・	・	・				
60	ブナ	シラカシ	2	・	C	C	C	/	○			
61	ブナ	ウラジロガシ	2	・	C	C	C	/				
62	ニレ	エノキ	4	・	B	B	B	・				
63	ニレ	オヒョウ		C	・	・	・	・				
64	ニレ	ケヤキ		C	C	B	B	・	○			
65	イラクサ	マルバヤブマオ	1	・	B	・	・	・			VU	
66	イラクサ	トキホコリ	1	・	B	B	・	・		VU	VU	
67	イラクサ	コケミズ	1	・	・	・	・	・			NT	
68	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ	1	・	・	・	・	・		VU	VU	
69	タデ	ヒメタデ		・	・	・	B	・		VU	VU	
70	タデ	ヤナギヌカボ	1	・	・	・	C	・		VU	YO	
71	タデ	イヌタデ		・	・	・	・	・	○			
72	タデ	サデクサ	1	・	・	・	C	・			NT	
73	タデ	ミゾソバ		・	C	B	C	・	○			
74	タデ	ノダイオウ	1, 4	・	C	・	C	・		VU	YO	
75	タデ	マダイオウ		・	A	・	・	・			CR+EN	
76	ザクロソウ	ザクロソウ	1	・	・	・	・	・				
77	ナデシコ	カワラナデシコ		・	C	・	・	C				
78	ナデシコ	タカネナデシコ		B	・	・	・	・			VU	
79	ナデシコ	ナンブワチガイソウ	1	・	C	・	・	・		VU	NT	
80	ナデシコ	シラオイハコベ	1	・	・	・	・	・			CR+EN	
81	アカザ	ハママツナ	2	・	・	・	・	B	○		NT	
82	モクレン	タムシバ		・	・	・	・	・	○			
83	マツブサ	チョウセンゴミシ		・	A	・	・	・			CR+EN	
84	クスノキ	ヤマコウバシ	1, 2	・	B	・	・	・				
85	クスノキ	オオバクロモジ		・	・	・	・	・	○			
86	クスノキ	シロダモ	2	・	+	・	+	+	○			
87	キンポウゲ	フクジュソウ	1	・	B	・	・	・			VU	
88	キンポウゲ	ニリンソウ		・	B	・	B	・	○			
89	キンポウゲ	スハマソウ		・	B	・	・	・			NT	
90	キンポウゲ	キクザキイチゲ		C	B	・	B	・	○			
91	キンポウゲ	レンゲショウマ	1	・	B	・	・	・				
92	キンポウゲ	リュウキンカ		・	・	・	・	・	○			
93	キンポウゲ	カザグルマ	1	・	B	・	B	・		NT	VU	
94	キンポウゲ	トウゴクサバノオ	1	・	B	・	・	・				
95	キンポウゲ	オキナグサ	1	・	A	・	・	・		VU	CR+EN	
96	キンポウゲ	コキツネノボタン	1	・	・	・	・	・		VU	VU	
97	キンポウゲ	バイカモ	1	・	B	・	・	・				
98	シラネアオイ	シラネアオイ		B	B	・	・	・	○			
99	メギ	トガクシショウマ	1	・	・	・	・	・		NT	CR+EN	
100	スイレン	オニバス	1			EX				VU	EX	

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-11(3) 保全上重要な種(植物)総括表(3/9)

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
101	マツモ	マツモ	1	・	・	・	A	・				
102	マツモ	ヨツバリキンギョモ	1, 2	・	・	・	A	・				
103	ドクダミ	ハンゲショウ		・	・	・	・	B			VU	
104	ウマノスズクサ	トウゴクサイシン		・	B	・	・	・	○			
105	ボタン	ヤマシャクヤク	1	B	B	・	・	・		NT	CR+EN	
106	ボタン	ベニバナヤマシャクヤク	1	A	A	・	・	・		VU	VU	
107	ツバキ	ヤブツバキ		・	B	B	B	B	○			
108	オトギリソウ	オシマオトギリ		B	B	・	・	・			VU	
109	モウセンゴケ	モウセンゴケ		・	C	・	・	C				
110	ケシ	ナガミノツルキケマン	1	・	C	・	・	・		NT		
111	ケシ	ヤマブキソウ	1	・	B	・	・	・				
112	アブラナ	ナズナ		・	B	B	B	・	○			
113	アブラナ	ミズタガラシ		・	・	・	B	・			VU	
114	ベンケイソウ	チチッパベンケイソウ	1	・	・	・	・	・				
115	ベンケイソウ	キリンソウ		・	・	・	・	・	○			
116	ベンケイソウ	ミヤママンネングサ		B	・	・	・	・			VU	
117	ユキノシタ	トリアシショウマ		C	B	・	B	・				
118	ユキノシタ	コガネネコノメソウ	1, 2	・	・	・	・	・				
119	ユキノシタ	コチャルメルソウ		・	・	・	・	・	○			
120	ユキノシタ	タコノアシ		・	B	・	C	・		NT		
121	ユキノシタ	ヤシャビシヤク	1	C	・	・	・	・		NT	VU	
122	ユキノシタ	ザリコミ	1	A	・	・	・	・			CR+EN	
123	ユキノシタ	トガスグリ	1	・	・	・	・	・			VU	
124	ユキノシタ	シコタンソウ	1	・	・	・	・	・			VU	
125	ユキノシタ	ダイヤモンドソウ		・	・	・	・	・	○			
126	ユキノシタ	エゾクロクモソウ	1	・	・	・	・	・				
127	ユキノシタ	ユキノシタ		・	B	B	・	・				
128	バラ	ザイフリボク	1	・	B	・	・	・				
129	バラ	ヤマブキ		・	C	・	・	・	○			
130	バラ	イワキンバイ		・	・	・	・	・	○			
131	バラ	キンロバイ	1	・	・	・	・	・		VU	CR+EN	
132	バラ	ヒロハノカワラサイコ		・	B	・	・	・		VU	NT	
133	バラ	エチゴキジムシロ		B	B	・	・	・			YO	
134	バラ	ミヤマザクラ		A	・	・	・	・			CR+EN	
135	バラ	カスミザクラ		・	C	・	・	・	○			
136	バラ	オオタカネイバラ	1	・	・	・	・	・			CR+EN	
137	バラ	ハマナス	4	・	・	・	・	B	○		NT	
138	バラ	サナギイチゴ		・	B	・	・	・		VU	YO	
139	バラ	カジイチゴ	1, 2	・	・	・	C	C				
140	バラ	ミヤマウラジロイチゴ	1	・	・	・	・	・			CR+EN	
141	マメ	マルバヌスビトハギ	1	・	・	・	・	・			YO	
142	マメ	ツクシハギ		・	B	・	B	・	○			
143	マメ	イヌハギ	1	・	・	・	・	・		VU	NT	
144	マメ	マキエハギ	1	・	・	・	・	・			NT	
145	マメ	オオバタンキリマメ		・	C	・	・	・			NT	
146	マメ	センダイハギ	1	・	・	・	・	B			VU	
147	マメ	タヌキマメ					EX				CR+EN	
148	フウロソウ	コフウロ	1	・	・	・	・	・				
149	トウダイグサ	ノウルシ		・	・	・	C	・		NT	YO	
150	トウダイグサ	マルミノウルシ		・	B	・	・	・		NT	VU	

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-11(4) 保全上重要な種(植物)総括表(4/9)

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
151	ユズリハ	ユズリハ	1, 2	・	C	・	C	C				
152	ミカン	ミヤマシキミ	1	・	C	・	・	C				
153	カエデ	ナンゴクミネカエデ		・	・	・	・	・	○			
154	カエデ	ハウチワカエデ		・	C	・	・	・				
155	カエデ	イタヤカエデ		・	C	・	・	・				
156	カエデ	メグスリノキ	1	・	B	・	・	・				
157	カエデ	ヤマモミジ		・	B	・	・	・	○			
158	カエデ	ウリハダカエデ		・	C	・	・	・				
159	トチノキ	トチノキ		C	C	・	・	・				
160	モチノキ	イヌツゲ		・	C	・	・	C				
161	モチノキ	ソヨゴ	1, 2	・	C	・	・	・				NT
162	モチノキ	アカミノイヌツゲ		・	・	・	・	・	○			
163	シナノキ	カラスノゴマ	1	・	A	・	・	・				
164	スマレ	サクラスマレ	1	・	B	・	・	・				
165	スマレ	フモトスマレ	1	・	B	・	・	・				VU
166	スマレ	ナガハシスマレ	1	・	B	・	B	・				
167	スマレ	ヒゴスマレ		A	・	・	・	・				CR+EN
168	ミソハギ	ミズマツバ	1	・	・	・	・	・		VU		VU
169	ヒシ	ヒメビシ		・	A	・	・	・		VU		CR+EN
170	ヒシ	ヒシ		・	B	・	B	・	○			
171	アカバナ	ヤナギラン		・	A	・	・	・				CR+EN
172	アリノトウグサ	タチモ	1	・	・	・	・	・		NT		VU
173	ミズキ	アオキ		・	C	C	C	C	○			
174	ウコギ	コシアブラ		C	C	・	・	・				
175	セリ	ハナビゼリ	1	・	・	・	・	・				NT
176	セリ	ミシマサイコ	1	・	B	・	・	・		VU		CR+EN
177	セリ	ハマボウフウ	1	・	・	・	・	C				
178	セリ	ハナウド		・	C	・	C	・				NT
179	セリ	オオカサモチ	1	・	・	・	・	・				NT
180	セリ	イワセントウソウ	1	・	・	・	・	・				
181	セリ	タニミツバ	1	・	C	・	・	・				VU
182	セリ	サワゼリ	1	・	・	・	・	・		VU		NT
183	イワウメ	コイワウチワ	1, 4	C	C	・	・	・	○			
184	イチヤクソウ	ウメガサソウ		・	C	・	C	C	○			
185	イチヤクソウ	ベニバナイチヤクソウ	1	・	・	・	・	・				
186	ツツジ	ヤマツツジ		・	C	C	・	C	○			
187	ツツジ	シロヤシオ		C	C	・	・	・	○			
188	ツツジ	トウゴクミツバツツジ	2	・	B	・	・	・				
189	ツツジ	ナツハゼ		・	C	・	・	・				
190	ヤブコウジ	ヤブコウジ		・	・	・	・	・	○			
191	サクラソウ	クリンソウ	1	B	B	・	・	・				VU
192	サクラソウ	ユキワリコザクラ	1	・	・	・	・	・				
193	サクラソウ	サクラソウ	1	・	A	・	・	・	○	NT		CR+EN
194	エゴノキ	オオバアサガラ	1	・	A	・	・	・				
195	モクセイ	イボタノキ		・	B	・	・	・	○			
196	マチン	アイナエ		・	A	・	・	・				CR+EN
197	リンドウ	コケリンドウ		・	A	・	・	・				CR+EN
198	リンドウ	ホソバツルリンドウ	1	・	C	・	・	・		VU		VU
199	リンドウ	イヌセンブリ	1	・	・	・	・	・		VU		VU
200	ミツガシワ	ヒメシロアサザ	1	・	・	・	A	・		VU		VU

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-11(5) 保全上重要な種(植物)総括表(5/9)

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
201	ガガイモ	フナバラソウ	1	・	・	・	・	・		VU	VU	
202	ガガイモ	タチガシワ	1	・	・	・	・	・				
203	ガガイモ	スズサイコ	1	・	A	・	・	・		NT	VU	
204	ガガイモ	ココモメヅル	1	・	・	・	・	・			VU	
205	アカネ	オオキスタソウ		C	・	・	・	・			NT	
206	ヒルガオ	ハマヒルガオ		・	・	・	・	B	○			
207	ムラサキ	ムラサキ	1	A	A	・	・	・		EN	CR+EN	
208	ムラサキ	ルリソウ		・	C	・	・	・			NT	
209	クマツヅラ	クマツヅラ		・	B	・	・	・			VU	
210	シソ	ヒロハヤマトウバナ	1	・	・	・	・	・				
211	シソ	フトボナギナタコウジュ	1, 2	・	・	・	・	・				
212	シソ	ヒメハッカ	1	・	・	・	B	・		NT	CR+EN	
213	シソ	シラゲヒメジソ	1	・	・	・	・	・			YO	
214	シソ	タテヤマウツボグサ	1	・	・	・	・	・				
215	シソ	タイリンヤマハッカ		・	C	・	・	・			NT	
216	シソ	ナミキソウ		・	・	・	・	C			NT	
217	シソ	エゾニガクサ	1	・	・	・	・	・		EN	CR+EN	
218	ゴマノハグサ	マルバサワトウガラシ		・	B	・	・	・		VU	VU	
219	ゴマノハグサ	アブノメ		・	B	・	・	・			VU	
220	ゴマノハグサ	オオアブノメ	1	・	・	・	B	・		VU	YO	
221	ゴマノハグサ	ウンラン		・	・	・	・	C				
222	ゴマノハグサ	サギゴケ		・	C	・	C	・	○			
223	ゴマノハグサ	ミヤマシオガマ		B	・	・	・	・			VU	
224	ゴマノハグサ	ミチノクワガタ		B	・	・	・	・			VU	
225	ゴマノハグサ	ヒヨクソウ		C	・	・	・	・			NT	
226	ゴマノハグサ	クワガタソウ		・	B	・	・	・			VU	
227	ゴマノハグサ	イヌノフグリ	1	・	・	B	・	・		VU	VU	
228	ゴマノハグサ	カワヂシャ	1	・	・	B	B	・		NT	NT	
229	ハマウツボ	オオナンパンギセル	1	B	B	・	・	・				
230	ハマウツボ	キョスミウツボ	1	B	・	・	・	・			VU	
231	タヌキモ	ムシトリスミレ	1	・	・	・	・	・				
232	タヌキモ	タヌキモ	1	・	・	・	・	・		NT	CR+EN	
233	タヌキモ	ミミカキグサ		・	・	・	A	・			CR+EN	
234	タヌキモ	フサタヌキモ	1	EX						EN	EX	
235	タヌキモ	ヒメタヌキモ	1	・	A	・	・	・		NT	CR+EN	
236	タヌキモ	イヌタヌキモ	1	・	B	・	・	・		NT	VU	
237	タヌキモ	ムラサキミミカキグサ	1	・	A	・	A	・		NT	NT	
238	オオバコ	オオバコ		・	・	・	・	・	○			
239	スイカズラ	エゾヒョウタンボク	1	・	・	・	・	・		VU	CR+EN	
240	スイカズラ	クロミノウグイスカグラ	1	A	・	・	・	・			NT	
241	スイカズラ	ニッコウヒョウタンボク	1, 2	・	・	・	・	・			YO	
242	スイカズラ	オオカメノキ		・	・	・	・	・	○			
243	レンブクソウ	レンブクソウ	1	・	・	・	・	・			NT	
244	オミナエシ	オミナエシ		・	B	・	B	・	○			
245	マツムシソウ	マツムシソウ	1	A	A	・	・	・				
246	キキョウ	シヂシャジン	1	・	・	・	・	・				
247	キキョウ	キキョウ	1	・	B	・	・	・	○	VU	VU	
248	キク	オクモミジハグマ		・	C	・	・	・	○			
249	キク	キッコウハグマ		・	B	・	・	・	○			
250	キク	オケラ		・	B	・	・	・	○			

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-11(6) 保全上重要な種(植物)総括表(6/9)

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
251	キク	エゾノタウコギ		B	B	・	・	・			VU	
252	キク	ヒメガンクピソウ		・	B	・	・	・			VU	
253	キク	アワコガネギク		・	C	・	・	・		NT		
254	キク	イワインチン	1, 2	・	・	・	・	・				
255	キク	アズマギク	1	・	B	・	・	・	○		VU	
256	キク	フジバカマ		・	C	C	・	・		NT		
257	キク	タカサゴソウ		B	・	・	・	・		VU	VU	
258	キク	ノニガナ		・	・	C	・	・			NT	
259	キク	カワラニガナ		・	・	B	・	・		NT	VU	
260	キク	カシワバハグマ		・	B	・	・	・			VU	
261	キク	オオニガナ	1	・	C	・	・	・			NT	
262	キク	シュウブソウ	1, 2	・	・	・	・	・				
263	キク	ミヤコアザミ	1	・	A	・	・	・			CR+EN	
264	キク	ヒメヒゴタイ	1	・	・	・	・	・		VU	CR+EN	
265	キク	オカオグルマ		B	B	・	・	・			VU	
266	キク	アキノキリンソウ		・	C	・	・	・	○			
267	キク	アオヤギバナ		・	・	B	・	・			VU	
268	キク	エゾタンポポ		・	C	B	B	C	○			
269	キク	オナモミ		・	B	・	・	・		VU	VU	
270	オモダカ	ヘラオモダカ		・	C	・	B	・	○			
271	オモダカ	サジオモダカ		・	C	・	B	・	○		NT	
272	オモダカ	アギナシ		・	C	・	B	・	○	NT	VU	
273	オモダカ	ウリカワ		・	C	・	B	・	○			
274	オモダカ	オモダカ		・	C	・	B	・	○			
275	オモダカ	ホソバオモダカ		・	C	・	B	・	○			
276	トチカガミ	クロモ		・	B	・	A	・	○			
277	トチカガミ	ミズオオバコ	1	・	B	・	B	・		VU	NT	
278	トチカガミ	コウガイモ		・	・	・	A	・			CR+EN	
279	ホロムイソウ	オオシバナ	1	・	・	・	・	B	○	NT	CR+EN	
280	ヒルムシロ	エビモ		・	B	・	B	・	○			
281	ヒルムシロ	コバノヒルムシロ		・	C	・	B	・	○	VU	VU	
282	ヒルムシロ	ヒルムシロ		・	C	・	B	・	○			
283	ヒルムシロ	フトヒルムシロ		・	C	・	B	・	○			
284	ヒルムシロ	オオミズヒキモ		・	C	・	B	・	○			
285	ヒルムシロ	センニンモ		・	C	・	B	・	○		VU	
286	ヒルムシロ	オヒルムシロ		・	C	・	B	・	○			
287	ヒルムシロ	ホソバミズヒキモ		・	C	・	B	・	○		VU	
288	ヒルムシロ	イトモ	1	・	C	・	B	・		NT	YO	
289	イバラモ	ホッスモ		B	・	・	・	・			VU	
290	イバラモ	サガミトリゲモ	1	・	・	・	・	・		VU	VU	
291	イバラモ	イトトリゲモ	1	・	B	・	A	・		NT	NT	
292	イバラモ	トリゲモ	1	・	B	・	A	・		VU	CR+EN	
293	イバラモ	オオトリゲモ	1	・	B	・	A	・			CR+EN	
294	ユリ	ヤマラッキョウ		・	・	B	・	・			VU	
295	ユリ	スズラン		・	B	・	・	・			VU	
296	ユリ	カタクリ		・	B	B	B	・				
297	ユリ	ショウジョウバカマ		・	B	・	・	・	○			
298	ユリ	ニッコウキスゲ		・	B	B	B	・				
299	ユリ	コオニユリ		・	B	・	B	B				
300	ユリ	ヤマスカシユリ	1	B	・	・	・	・		NT	CR+EN	

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-11(7) 保全上重要な種(植物)総括表(7/9)

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
301	ユリ	ヒメヤブラン		・	C	・	・	+	○			
302	ユリ	オオバジャノヒゲ		・	B	・	・	C				
303	ユリ	ヒメイズイ		・	・	・	・	C			NT	
304	ユリ	ユキザサ		・	C	・	・	・	○			
305	ユリ	マルバサンキライ		・	A	・	・	・			CR+EN	
306	キンバイザサ	コキンバイザサ	1, 2	EX							EX	
307	ミズアオイ	ミズアオイ		・	・	・	C	・	○	NT		
308	ミズアオイ	コナギ		・	・	・	C	・	○			
309	アヤメ	ヒオウギ	1	・	・	・	・	・			CR+EN	
310	アヤメ	ノハナショウブ	1	・	C	・	・	・	○			
311	アヤメ	ヒメシャガ		・	B	B	・	・	○	NT	NT	
312	アヤメ	カキツバタ	1	・	B	・	A	・		NT	VU	
313	アヤメ	アヤメ		・	C	・	・	C			NT	
314	イグサ	ヒメコウガイゼキショウ		・	・	・	・	B			VU	
315	ツユクサ	ヤブミョウガ		・	A	・	・	・			CR+EN	
316	ホシクサ	ホシクサ	1	・	・	・	・	・			YO	
317	イネ	ヤマアワ		・	B	・	・	B				
318	イネ	ヒナザサ		・	B	B	・	・		NT	VU	
319	イネ	メヒシバ		・	・	・	・	・	○			
320	イネ	テンキグサ	1, 4	・	・	・	・	C	○			
321	イネ	カゼクサ		・	B	C	C	・	○			
322	イネ	オオウシノケグサ	4	・	B	・	B	C	○			
323	イネ	ウキガヤ		・	・	C	C	・			NT	
324	イネ	カラフトドジョウツナギ		C	・	・	・	・			NT	
325	イネ	ケカモノハシ		・	・	・	・	B	○			
326	イネ	カモノハシ	1	・	・	・	・	B				
327	イネ	エゾノサヤヌカグサ		・	・	・	C	・				
328	イネ	オギ		・	C	C	C	C	○			
329	イネ	アイアシ	1	・	・	・	・	C	○		NT	
330	イネ	ヨシ		・	C	C	C	C	○			
331	イネ	ツルヨシ		・	C	C	C	・	○			
332	イネ	アキウネマ加里	1	・	・	・	・	・			CR+EN	
333	イネ	オオクマザサ	3	・	・	・	・	・				
334	イネ	ヒメスズタケ		・	C	・	・	・			NT	
335	イネ	スエコザサ	3	・	・	・	・	・				
336	イネ	スズタケ		・	C	・	・	・	○			
337	イネ	ケスズ	1	・	B	・	・	・				
338	イネ	ネズミノオ		・	・	・	C	・	○			
339	イネ	マコモ		・	B	・	B	・	○			
340	イネ	シバ		・	B	B	B	・	○			
341	サトイモ	ヒメカイウ	1	・	・	・	・	・		NT	CR+EN	
342	サトイモ	ミズバショウ		・	B	・	・	・	○			
343	サトイモ	ヒメザゼンソウ		・	B	・	C	・				
344	ミクリ	ミクリ	1	・	B	・	B	・	○	NT	NT	
345	ミクリ	ヤマトミクリ	1	・	A	・	A	・		NT	CR+EN	
346	ミクリ	タマミクリ	1	A	・	・	・	・		NT	CR+EN	
347	ミクリ	ナガエミクリ	1	・	A	・	A	・		NT	NT	
348	ミクリ	ヒメミクリ	1	・	B	・	・	・		VU	VU	
349	ガマ	ヒメガマ		・	C	C	C	・				
350	ガマ	ガマ		・	C	C	C	・	○			

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-11(8) 保全上重要な種(植物)総括表(8/9)

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存	
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜					
351	カヤツリグサ	ハコネイトスゲ		・	A	・	・	・			CR+EN		
352	カヤツリグサ	サナギスゲ		・	A	・	・	・			CR+EN		
353	カヤツリグサ	ヤマクボスゲ	1	・	・	・	・	・		NT	VU		
354	カヤツリグサ	コウボウムギ		・	・	・	・	B	○				
355	カヤツリグサ	タチスゲ	1	・	・	・	・	・			CR+EN		
356	カヤツリグサ	タヌキラン		・	・	・	・	・	○				
357	カヤツリグサ	マメスゲ	1	・	・	・	・	・			CR+EN		
358	カヤツリグサ	オオカサスゲ		B	B	・	・	・					
359	カヤツリグサ	オオクグ	1	・	・	・	・	B		NT	NT		
360	カヤツリグサ	センダイスゲ	4	・	・	・	・	・					
361	カヤツリグサ	オニナルコスゲ		C	・	・	・	C			NT		
362	カヤツリグサ	クグガヤツリ		・	・	・	・	A			CR+EN		
363	カヤツリグサ	スジヌマハリイ	1	・	・	・	・	・		VU	VU		
364	カヤツリグサ	サギスゲ		C	C	・	・	・			NT		
365	カヤツリグサ	ナガボテンツキ	2	・	・	・	・	・			VU		
366	カヤツリグサ	マメクグ		・	B	・	・	・			VU		
367	カヤツリグサ	ノグサ		・	B	・	・	・			VU		
368	カヤツリグサ	フトイ		・	B	・	B	・					
369	カヤツリグサ	カンガレイ		・	B	・	B	・					
370	カヤツリグサ	サンカクイ		・	B	・	B	・					
371	ラン	コアニチドリ	1	A	・	・	・	・		VU	CR+EN		
372	ラン	エビネ	1	・	A	・	・	・		NT	VU		
373	ラン	キンセイラン	1	・	B	・	・	・		VU	CR+EN		
374	ラン	サルメンエビネ	1	・	B	・	・	・		VU	CR+EN		
375	ラン	ユウシュンラン	1	・	B	・	・	・		VU	NT		
376	ラン	キンラン	1	B	B	・	・	・		VU	VU		
377	ラン	クゲヌマラン	1	・	・	・	・	・		VU	CR+EN		
378	ラン	シュンラン		・	C	・	C	・	○				
379	ラン	コアツモリソウ	1	・	B	・	・	・		NT	CR+EN		
380	ラン	クマガイソウ	1	B	A	・	・	・		VU	CR+EN		
381	ラン	アツモリソウ	1	・	A	・	・	・		VU	CR+EN	国内	
382	ラン	イチヨウラン	1	・	・	・	・	・			CR+EN		
383	ラン	セッコク	1	EX								CR+EN	
384	ラン	エゾスズラン	1	・	A	・	・	・			NT		
385	ラン	ハマカキラン	1	・	・	・	・	B		VU	NT		
386	ラン	アオキラン	1	・	・	・	・	・		CR	CR+EN		
387	ラン	ノビネチドリ		B	・	・	・	・			VU		
388	ラン	ミヤマモジズリ	1	B	・	・	・	・			CR+EN		
389	ラン	オオミズトンボ	1	・	B	・	・	・		EN	CR+EN		
390	ラン	サギソウ	1	B	A	・	・	・		NT	CR+EN		
391	ラン	ミズトンボ	1	・	A	・	B	・		VU	CR+EN		
392	ラン	ムカゴソウ	1	・	・	・	・	・		EN	VU		
393	ラン	ヒメノヤガラ	1	・	・	・	・	・		VU	VU		
394	ラン	ギボウシラン	1	C	・	・	・	・		EN	CR+EN		
395	ラン	フガクスズムシソウ	1	・	・	・	・	・		VU	CR+EN		
396	ラン	ジガバチソウ		・	C	・	・	・			NT		
397	ラン	クモキリソウ	1, 4	・	B	・	・	B					
398	ラン	コフタバラン		・	A	・	・	・			CR+EN		
399	ラン	ヒメフタバラン	2	・	・	・	・	・			YO		
400	ラン	サカネラン	1	・	・	・	・	・		VU			

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-11(9) 保全上重要な種（植物）総括表（9/9）

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
401	ラン	ヒナチドリ	1	・	A	・	・	・		VU	CR+EN	
402	ラン	カモメラン	1	B	・	・	・	・		NT	CR+EN	
403	ラン	オノエラン	1	B	・	・	・	・				
404	ラン	ウチョウラン	1	B	A	・	・	・		VU	CR+EN	
405	ラン	ミズチドリ		B	B	・	・	・			VU	
406	ラン	ツレサギソウ		C	C	・	C	・			NT	
407	ラン	ヤマサギソウ		B	・	・	・	・			VU	
408	ラン	マイサギソウ	1	・	・	・	・	・			CR+EN	
409	ラン	オオバノトンボソウ		・	B	・	・	・			VU	
410	ラン	トキソウ	1	・	A	・	・	・		NT	VU	
411	ラン	ヤマトキソウ		・	A	A	・	・			CR+EN	
412	ラン	マツラン	1	・	B	・	・	B		VU	CR+EN	
413	ラン	カヤラン	1	・	B	・	・	B			VU	
414	ラン	ネジバナ		・	B	・	B	・	○			
415	ラン	イイヌマムカゴ	1	・	・	・	・	・		EN	CR+EN	
416	ラン	ハクウンラン	1	・	・	・	・	・			VU	
417	ラン	ショウキラン	1	B	・	・	・	・			CR+EN	

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

注. 表中の「国RL」, 「県RDB」, 「天記・種保存」における凡例は以下のとおり。なお, 以降の表についても同様である。

国RL	環境省レッドリスト2015（平成27年 環境省） CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類, CR：絶滅危惧ⅠA類, EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類, NT：準絶滅危惧, DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
県RDB	宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 －RED DATA BOOK MIYAGI2016－（平成28年 宮城県） CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類, CR：絶滅危惧ⅠA類, EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類, NT：準絶滅危惧, DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群, YO：要注目種
天記・ 種保存	文化財保護法（昭和25年 法律第214号） 特天：特別天然記念物, 天然：天然記念物 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 （平成4年 法律第75号） 国内：国内希少野生動植物種, 国際：国際希少野生動植物種

表 3.1-12(1) 保全上重要な種（植物）追加種（1/3）

区分	和名	備考*
追加（88種）	ホソバイヌワラビ	減少種，県 NT として追加
	ヤリノホシケシダ	学術上重要種，県 NT として追加
	シライヤナギ	学術上重要種，県 CR+EN として追加
	アラカシ	学術上重要種，減少種，県 YO として追加
	マルバヤブマオ	学術上重要種，減少種，県 VU として追加
	ヒメタデ	減少種，国 VU，県 VU として追加
	サデクサ	学術上重要種，減少種，県 NT として追加
	マダイオウ	減少種，県 CR+EN として追加
	タカネナデシコ	減少種，県 VU として追加
	チョウセンゴミシ	減少種，県 CR+EN として追加
	ハンゲショウ	減少種，県 VU として追加
	オシマオトギリ	減少種，県 VU として追加
	ミズタガラシ	減少種，県 VU として追加
	ミヤママンネングサ	減少種，県 VU として追加
	タコノアシ	減少種，国 NT として追加
	ザリコミ	学術上重要種，減少種，県 CR+EN として追加
	ヒロハノカワラサイコ	減少種，国 VU，県 NT として追加
	エチゴキジムシロ	減少種，県 YO として追加
	ミヤマザクラ	減少種，県 CR+EN として追加
	サナギイチゴ	減少種，国 VU，県 YO として追加
	マルバヌスビトハギ	学術上重要種，県 YO として追加
	オオバタンキリマメ	減少種，県 NT として追加
	ノウルシ	減少種，国 NT，県 YO として追加
	マルミノウルシ	減少種，国 NT，県 VU として追加
	ヒゴスミレ	減少種，県 CR+EN として追加
	ヒメビシ	減少種，国 VU，県 CR+EN として追加
	ヤナギラン	減少種，県 CR+EN として追加
	ハナウド	減少種，県 NT として追加
	アイナエ	減少種，県 CR+EN として追加
	コケリンドウ	減少種，県 CR+EN として追加
	オオキヌタソウ	減少種，県 NT として追加
	クマツヅラ	減少種，県 VU として追加
ヒロハヤマトウバナ	学術上重要種として追加	
シラゲヒメジソ	学術上重要種，県 YO として追加	

※国：環境省レッドリスト，県：宮城県レッドデータブックを示す。

表 3.1-12(2) 保全上重要な種（植物）追加種（2/3）

区分	和名	備考*
追加（88種） （続き）	タテヤマウツボグサ	学術上重要種として追加
	タイリンヤマハッカ	減少種，県 NT として追加
	ナミキソウ	減少種，県 NT として追加
	マルバサワトウガラシ	減少種，国 VU，県 VU として追加
	アブノメ	減少種，県 VU として追加
	ミヤマシオガマ	減少種，県 VU として追加
	ミチノククワガタ	減少種，県 VU として追加
	ヒヨクソウ	減少種，県 NT として追加
	クワガタソウ	減少種，県 VU として追加
	キヨスミウツボ	学術上重要種，減少種，県 VU として追加
	ミミカキグサ	減少種，県 CR+EN として追加
	クロミノウグイスカグラ	学術上重要種，減少種，県 NT として追加
	エゾノタウコギ	減少種，県 VU として追加
	ヒメガンクビソウ	減少種，県 VU として追加
	アワコガネギク	減少種，国 NT として追加
	フジバカマ	減少種，国 NT として追加
	タカサゴソウ	減少種，国 VU，県 VU として追加
	ノニガナ	減少種，県 NT として追加
	カワラニガナ	減少種，国 NT，県 VU として追加
	カシワバハグマ	減少種，県 VU として追加
	ミヤコアザミ	学術上重要種，減少種，県 CR+EN として追加
	オカオグルマ	減少種，県 VU として追加
	アオヤギバナ	減少種，県 VU として追加
	オナモミ	減少種，国 VU，県 VU として追加
	コウガイモ	減少種，県 CR+EN として追加
	ホッスモ	減少種，県 VU として追加
	ヤマラッキョウ	減少種，県 VU として追加
	スズラン	減少種，県 VU として追加
	ヒメイズイ	減少種，県 NT として追加
	マルバサンキライ	減少種，県 CR+EN として追加
	アヤメ	減少種，県 NT として追加
	ヒメコウガイゼキショウ	減少種，県 VU として追加
ヤブミョウガ	減少種，県 CR+EN として追加	
ホシクサ	学術上重要種，県 Y0 として追加	

※国：環境省レッドリスト，県：宮城県レッドデータブックを示す。

表 3.1-12(3) 保全上重要な種（植物）追加種（3/3）

区分	和名	備考*
追加（88種） （続き）	ヒナザサ	減少種，国 NT，県 VU として追加
	ウキガヤ	減少種，県 NT として追加
	カラフトドジョウツナギ	減少種，県 NT として追加
	ヒメスズタケ	減少種，県 NT として追加
	ハコネイトスゲ	減少種，県 CR+EN として追加
	サナギスゲ	減少種，県 CR+EN として追加
	オニナルコスゲ	減少種，県 NT として追加
	クグガヤツリ	減少種，県 CR+EN として追加
	サギスゲ	減少種，県 NT として追加
	マメクグ	減少種，県 VU として追加
	ノグサ	減少種，県 VU として追加
	ノビネチドリ	減少種，県 VU として追加
	ジガバチソウ	減少種，県 NT として追加
	コフタバラン	減少種，県 CR+EN として追加
	ヒメフタバラン	学術上重要種，県 Y0 として追加
	ミズチドリ	減少種，県 VU として追加
	ツレサギソウ	減少種，県 NT として追加
	ヤマサギソウ	減少種，県 VU として追加
	オオバノトンボソウ	減少種，県 VU として追加
	ヤマトキシソウ	減少種，県 CR+EN として追加

※国：環境省レッドリスト，県：宮城県レッドデータブックを示す。

表 3.1-13 保全上重要な種（植物）除外種

区分	和名	備考
除外（3種）	デンジソウ	仙台市内での標本が確認されないため，除外する。
	ナニワズ	
	アイノコイトモ	

3.1.5 保全上重要な動物種

(1) 動物相の概要

仙台市の山地から丘陵地に広がる森林域には本州最大の哺乳類であるツキノワグマや、特別天然記念物であるカモシカをはじめ、ヤマネ、ニホンザル、キツネ、タヌキ、ムササビ、ニホンリスなどの哺乳類が生息している。近年、二次林の放置などを一因と考えられるツキノワグマ、ニホンカモシカの低地丘陵への分布拡大が確認されている。鳥類ではオオルリ、ゴジュウカラ、キビタキ、アカゲラなどの森林性の種が多く分布し、絶滅が危惧されているイヌワシやクマタカの生息も確認されている。爬虫類ではマムシやジムグリのほか、自然度が高い林床を好むタカチホヘビや比較的珍しいシロマダラなども生息している。両生類では山地の溪流にキタオウシュウサンショウウオが生息し、トウホクサンショウウオは丘陵地の沢などに広く生息している。また、池沼の縁の樹木の枝に卵塊を産み付けるモリアオガエルや清流の環境を指標するカジカガエルも生息している。魚類では山地の溪流にイワナ、ヤマメ、カジカ等が生息する。一方、丘陵地の池沼等にはオオクチバス（ブラックバス）やブルーギルといった移入種が定着しており、在来の種の生息が脅かされている。昆虫類ではオニクワガタ、カミキリムシ類、ミドリシジミ類などの森林性の昆虫類が多数生息し、丘陵地では生きた化石といわれるヒメギフチョウなども生息している。また、泉ヶ岳付近は山地性チョウ類の主要な生息地になっている。丘陵地の湿地ではオゼイトトンボなどのトンボ類も多く生息している。

市街地や田園地域では、人の生活空間の拡大や各種開発事業により、動物の良好な生息環境が減少しているが、公園や残された緑地等が、タヌキ、イタチ、カワセミ、アオダイショウ、ミヤマクワガタなど多くの動物にとって貴重な生息場所となっており、これらの緑地を保全するとともに、周囲の丘陵地、田園地域との連続性に配慮した緑の創出を進める必要がある。

海浜地域では七北田川河口の蒲生干潟や、名取川河口付近の井土浦、東谷地等の湿地が、シギ・チドリ類の主要な渡来地や海浜性昆虫及び底生動物の重要な生息地となっている。これらの干潟・湿地等は、震災により大きな影響を受けたが、その後、生態系の回復がみられている。

(2) 選定結果（哺乳類）

本調査においては、表 3.1-14に示す29種を「保全上重要な種（哺乳類）」として選定した。

第3回調査時（H22(2010)）から6種を除外した。除外した種の一覧は、表 3.1-15に示すとおりである。追加した種はない。また、作成した「選定理由票」は巻末資料として示す。

表 3.1-14 保全上重要な種（哺乳類）総括表

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
1	トガリネズミ	シントウトガリネズミ		+	C	/	/	/	○			
2	トガリネズミ	ホンシュウジネズミ		+	C	B	C	・	○			
3	トガリネズミ	カワネズミ	1, 4	B	B	/	/	/	○		DD	
4	モグラ	ヒメヒミズ	1	+	・	/	/	/	○			
5	モグラ	ミズラモグラ	1, 4	C	・	/	/	/		NT	NT	
6	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	1	C	C	・	・	・	○			
7	キクガシラコウモリ	ニホンキクガシラコウモリ	1	C	C	C	・	・	○			
8	ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ	1, 4	C	・	・	・	・	○		VU	
9	ヒナコウモリ	カグヤコウモリ	1, 4	C	・	・	・	・	○		CR+EN	
10	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ	1, 4	C	C	C	・	・	○			
11	ヒナコウモリ	モリアブラコウモリ	1, 4	C	・	・	・	・	○	VU	CR+EN	
12	ヒナコウモリ	ヤマコウモリ	1, 4	C	C	C	C	C	○	VU	VU	
13	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ	1, 4	C	C	C	・	C	○		VU	
14	ヒナコウモリ	ウサギコウモリ	1, 4	C	C	・	・	・	○		VU	
15	ヒナコウモリ	ユビナガコウモリ	1, 4	C	C	・	・	・	○			
16	ヒナコウモリ	コテングコウモリ	1, 4	C	C	・	・	・	○			
17	ヒナコウモリ	テングコウモリ	1, 4	C	C	・	・	・	○		VU	
18	リス	ホンドモモンガ	1, 4	C	・	・	・	・				
19	リス	ムササビ	1, 4	・	C	C	・	・	○			
20	ヤマネ	ヤマネ	1, 4	C	・	・	/	/			NT	天然
21	ネズミ	ヤチネズミ	4	+	+	・	・	・				
22	ネズミ	ハタネズミ		+	C	C	C	C	○			
23	ネズミ	ヒメネズミ		+	+	+	/	・	○			
24	クマ	ツキノワグマ	4	C	C	・	・	・				
25	イヌ	タヌキ		+	+	・	+	・	○			
26	イタチ	テン		C	C	・	・	・	○			
27	イタチ	イタチ		C	C	C	C	C	○			
28	イタチ	オコジョ	1, 4	C	・	/	/	/		NT	NT	
29	ウシ	カモシカ	4	+	・	・	・	・	○		YO	特天

表 3.1-15 保全上重要な種（哺乳類）除外種

区分	和名	備考
除外（6種）	アズマモグラ	減少がみられないため除外
	ニホンザル	近年丘陵部などで、人里依存を深めているため除外
	トウホクノウサギ	減少がみられないため除外
	ニホンリス	減少がみられないため除外
	ニホンアナグマ	減少がみられないため除外
	イノシシ	仙台市が北限でないため除外

(3) 選定結果（鳥類）

本調査においては、表 3.1-16に示す87種を「保全上重要な種（鳥類）」として選定した。

第3回調査時（H22(2010)）から5種を追加した。追加した種の一覧は表 3.1-17に示すとおりである。除外した種はない。また、作成した「選定理由票」は巻末資料として示す。

表 3.1-16(1) 保全上重要な種（鳥類）総括表（1/2）

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
1	キジ	ウズラ	1, 4		A	A	A	A		VU	CR+EN	
2	キジ	ヤマドリ	1, 4	+	C	・	・	・	○			
3	カモ	ヒシクイ		・	・	・	C	C		VU	NT	天記
4	カモ	マガン	1, 4	・	・	A	B	B		NT		天記
5	カモ	コクガン	1, 2, 4	/	/	/	・	B		VU	VU	天記
6	カモ	オシドリ	1, 4	+	C	B	・	・		DD		
7	カイツブリ	カイツブリ		・	C	B	C	C	○			
8	サギ	サンカノゴイ	1	・	B	A	B	B		EN	NT	
9	サギ	ヨシゴイ	1, 4	・	C	B	C	C	○	NT	NT	
10	サギ	オオヨシゴイ	1, 4	・	・	・	B	B		CR	CR+EN	
11	サギ	ミソゴイ	1, 4	C	B	・	・	・		VU	NT	
12	サギ	アマサギ	4	・	・	A	+	・	○			
13	サギ	チュウサギ	1, 2, 4	・	C	A	C	C		NT		
14	サギ	コサギ		・	C	B	+	+	○			
15	クイナ	クイナ	1, 4	・	C	A	B	B			YO	
16	クイナ	ヒクイナ	1, 4	・	C	B	B	B		NT	CR+EN	
17	クイナ	バン	1, 4	・	C	B	C	C	○			
18	クイナ	オオバン		・	・	・	B	B				
19	カッコウ	ホトトギス	1, 4	+	+	C	C	C	○			
20	カッコウ	カッコウ	1, 4	C	C	B	C	C	○			
21	ヨタカ	ヨタカ	1, 4	+	C	B	・	・	○	NT	NT	
22	チドリ	イカルチドリ	1, 4	C	C	B	B	・	○			
23	チドリ	シロチドリ	1, 4	・	・	・	・	B	○	VU	NT	
24	シギ	オオジシギ	1, 4	B	B	A	B	B		NT	NT	
25	シギ	ホウロクシギ	1, 4	・	・	・	・	B		VU	NT	
26	シギ	ツルシギ	1, 4	・	・	・	・	・		VU		
27	シギ	アカアシシギ	1	・	・	・	B	B		VU		
28	シギ	ハマシギ	1, 4	・	・	・	・	C	○	NT		
29	シギ	ヘラシギ	1	・	・	・	・	B		CR	VU	
30	カモメ	コアジサシ	1, 2, 4	・	・	A	B	B		VU	VU	国際
31	ウミスズメ	ウミスズメ	1, 4	/	/	/	/	・		CR		
32	ミサゴ	ミサゴ	1, 4	・	・	・	C	C	○	NT		
33	タカ	ハチクマ	1, 4	C	C	・	・	・		NT	NT	
34	タカ	オジロワシ	1, 2, 4	・	B	B	B	B		VU	VU	天記, 国内, 国際
35	タカ	オオワシ	1, 2, 4	・	・	・	B	B		VU	VU	天記, 国内
36	タカ	チュウヒ	1, 4	・	C	B	C	C	○	EN	NT	
37	タカ	ツミ	1, 4	C	C	C	C	C			DD	
38	タカ	ハイタカ	1, 4	C	C	C	C	C		NT	NT	
39	タカ	オオタカ	1, 4	C	C	B	B	C	○	NT	NT	国内
40	タカ	サシバ	1, 4	C	C	A	C	C		VU	VU	
41	タカ	ノスリ		+	C	C	C	・	○			
42	タカ	イヌワシ	1, 4	B	・	・	・	・	○	EN	CR+EN	天記, 国内
43	タカ	クマタカ	1, 4	B	・	・	・	・	○	EN	CR+EN	国内
44	フクロウ	オオコノハズク	1	C	C	C	B	B			YO	
45	フクロウ	コノハズク	1	C	C	・	・	・	○		YO	

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-16(2) 保全上重要な種（鳥類）総括表（2/2）

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
46	フクロウ	フクロウ	1	C	C	B	B	C	○			
47	フクロウ	アオバズク	1	・	C	B	B	B	○		VU	
48	フクロウ	トラフズク	1	・	・	・	B	B				
49	フクロウ	コミミズク	1	・	B	A	B	B	○		YO	
50	カワセミ	アカシヨウビン	1	C	・	・	・	・			YO	
51	カワセミ	カワセミ	1, 4	・	C	C	C	・	○			
52	カワセミ	ヤマセミ	1, 4	・	・	B	・	・	○		YO	
53	キツツキ	アオゲラ		+	C	B	C	C				
54	キツツキ	アオゲラ		+	C	B	C	C	○			
55	ハヤブサ	チョウゲンボウ	1, 4	・	C	B	C	B				
56	ハヤブサ	チゴハヤブサ		・	・	B	B	・			YO	
57	ハヤブサ	ハヤブサ	1, 4	C	B	B	B	B		VU	NT	国内, 国際
58	サンショウクイ	サンショウクイ		C	C	B	C	C		VU	VU	
59	カササギヒタキ	サンコウチョウ	1	・	C	B	・	・	○			
60	モズ	チゴモズ	1, 4	・	B	B	B	・		CR	CR+EN	
61	モズ	モズ	1	+	C	B	C	C	○			
62	モズ	アカモズ	1, 4	・	B	B	B	B		EN	CR+EN	
63	ヒバリ	ヒバリ		・	C	B	C	C	○			
64	ツバメ	ツバメ		・	C	C	C	・	○			
65	ウグイス	ウグイス	1, 4	+	+	C	C	C	○			
66	ムシクイ	センダイムシクイ		+	C	B	・	・	○			
67	センニュウ	オオセッカ	1, 3, 4	・	・	・	・	・		EN	VU	
68	ヨシキリ	オオヨシキリ	1, 4	・	C	B	C	C	○			
69	ヨシキリ	コヨシキリ	1, 4	・	C	A	C	C	○			
70	セッカ	セッカ	1, 4	・	C	B	C	C	○			
71	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ		+	・	B	・	・	○			
72	カワガラス	カワガラス		+	C	B	・	・	○			
73	ヒタキ	トラツグミ		+	C	B	C	C	○			
74	ヒタキ	クロツグミ	1, 4	+	C	B	C	C	○			
75	ヒタキ	シロハラ		+	C	B	・	・	○			
76	ヒタキ	コルリ	1, 4	+	C	B	C	C	○			
77	ヒタキ	ルリビタキ		+	C	C	C	C				
78	ヒタキ	コサメビタキ		・	・	B	・	・	○			
79	ヒタキ	キビタキ		+	C	B	・	・	○			
80	ヒタキ	オオルリ	1, 4	+	C	C	C	C	○			
81	セキレイ	キシセキレイ	1, 4	+	C	C	C	・	○			
82	セキレイ	セグロセキレイ	4	C	C	C	C	・				
83	ホオジロ	ホオジロ		+	+	B	C	C	○			
84	ホオジロ	ホオアカ			B	C	A	C	B	○		
85	ホオジロ	ノジロ	1, 4	C	C	B	・	・		NT	YO	
86	ホオジロ	アオジ		C	C	C	C	C	○			
87	ホオジロ	コジュリン	1, 4	・	・	・	B	B		VU	VU	

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-17 保全上重要な種（鳥類）追加種

区分	和名	備考*
追加（5種）	ツルシギ	学術上重要種, 国 VU として追加
	ハマシギ	学術上重要種, 減少種, 国 NT として追加
	ウミスズメ	学術上重要種, 国 CR として追加
	オオセッカ	学術上重要種, 国 EN, 県 VU として追加
	コジュリン	学術上重要種, 減少種, 国 VU, 県 VU として追加

※国：環境省レッドリスト, 県：宮城県レッドデータブックを示す。

(4) 選定結果（爬虫類）

本調査においては、表 3.1-18に示す9種を「保全上重要な種（爬虫類）」として選定した。

第3回調査時（H22(2010)）から1種を追加し、2種を除外した。追加・除外した種の一覧は、表 3.1-19及び表 3.1-20に示すとおりである。また、作成した「選定理由票」は巻末資料として示す。

表 3.1-18 保全上重要な種（爬虫類）総括表

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
1	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	1	・	C	A	・	・	○			
2	カナヘビ	ニホンカナヘビ		+	+	C	C	・	○			
3	タカチホヘビ	タカチホヘビ	1	・	・	A	・	・			DD	
4	ナミヘビ	アオダイショウ		+	+	B	C	C	○			
5	ナミヘビ	ジムグリ		+	+	B	C	C	○			
6	ナミヘビ	シロマダラ	1	C	C	・	・	・			DD	
7	ナミヘビ	ヒバカリ		C	C	C	C	B	○			
8	ナミヘビ	ヤマカガシ		・	+	A	C	・	○			
9	クサリヘビ	ニホンマムシ		C	C	A	C	・				

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-19 保全上重要な種（爬虫類）追加種

区分	和名	備考
追加（1種）	ヤマカガシ	減少種，環境指標種として追加

表 3.1-20 保全上重要な種（爬虫類）除外種

区分	和名	備考
除外（2種）	ニホンイシガメ	移入種と考えられるため除外
	クサガメ	移入種と考えられるため除外

(5) 選定結果（両生類）

本調査においては、表 3.1-21に示す13種を「保全上重要な種（両生類）」として選定した。

第3回調査時（H22(2010)）から2種を追加した。追加した種の一覧は、表 3.1-22に示すとおりである。除外した種はない。また、作成した「選定理由票」は巻末資料として示す。

表 3.1-21 保全上重要な種（両生類）総括表

No.	科名	和名	学術上重要種	減少種					環境指標種	国RL	県RDB	天記・種保存
				山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
1	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	4	+	C	B	/	/	○	NT	NT	
2	サンショウウオ	クロサンショウウオ		+	C	A	/	/	○	NT	LP	
3	サンショウウオ	キタオウシュウサンショウウオ	2	+	C	/	/	/	○		NT	
4	イモリ	アカハライモリ		+	C	A	C	/	○	NT	LP	
5	ヒキガエル	アズマヒキガエル		+	C	B	C	/				
6	アマガエル	ニホンアマガエル		+	+	+	+	+	○			
7	アカガエル	タゴガエル		+	C	A	/	/				
8	アカガエル	ニホンアカガエル		+	+	A	C	/				
9	アカガエル	トウキョウダルマガエル		C	C	A	C	/	○	NT	NT	
10	アカガエル	ツチガエル		+	C	A	・	/	○		NT	
11	アオガエル	シュレーゲルアオガエル		+	+	B	C	/	○			
12	アオガエル	モリアオガエル		+	B	/	/	/	○			
13	アオガエル	カジカガエル		+	+	B	/	/	○			

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-22 保全上重要な種（両生類）追加種

区分	和名	備考
追加（2種）	ニホンアマガエル	環境指標種として追加
	シュレーゲルアオガエル	減少種，環境指標種として追加

(6) 選定結果（魚類）

本調査においては、表 3.1-23に示す29種を「保全上重要な種（魚類）」として選定した。

第3回調査時（H22(2010)）から7種を追加した。追加した種の一覧は、表 3.1-24に示すとおりである。除外した種はない。また、作成した「選定理由票」は巻末資料として示す。

表 3.1-23 保全上重要な種（魚類）総括表

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
1	ヤツメウナギ	スナヤツメ類	1	C	B	C	C	/		VU	NT	
2	ヤツメウナギ	カワヤツメ	1	/	/	/	/	・		VU	DD	
3	ウナギ	ニホンウナギ	1	・	B	B	C	C	○	EN	NT	
4	コイ	キンブナ		+	+	C	C	・		VU	NT※	
5	コイ	テツギョ	1	A	/	/	/	/			CR+EN	
6	コイ	タナゴ				EX				EN	CR+EN	
7	コイ	アカヒレタビラ				EX				EN	CR+EN	
8	コイ	ゼニタナゴ				EW				CR	CR+EN	
9	コイ	エゾウグイ	1, 4	B	/	/	/	/		LP	VU	
10	コイ	ウグイ		+	+	+	+	+	○			
11	コイ	シナイモツゴ	1, 4	A	/	/	/	/		CR	CR+EN	
12	ドジョウ	ホトケドジョウ	1	+	+	C	C	/	○	EN	NT	
13	ギギ	ギバチ	1	・	+	+	C	/		VU	NT	
14	アユ	アユ		/	+	+	+	C	○			
15	サケ	ニッコウイワナ		+	B	/	/	/		DD		
16	サケ	サクラマス	1	+	・	C	C	C	○	NT	NT	
17	サケ	サクラマス(ヤマメ)		+	+	+	+	/	○	NT		
18	メダカ	ミナミメダカ	1	・	A	A	C	C	○	VU	NT	
19	サヨリ	クルメサヨリ	1	/	/	/	/	・		NT	DD	
20	トゲウオ	ニホンイトヨ	1, 4	/	/	/	A	A		LP	DD	
21	カジカ	カジカ		+	+	B	/	/	○	NT		
22	カジカ	ウツセミカジカ (回遊型)	1	/	/	/	・	・		EN	VU	
23	ハゼ	シロウオ		/	/	/	/	C		VU	VU	
24	ハゼ	ヒモハゼ	1	/	/	/	/	C	○	NT	NT	
25	ハゼ	スミウキゴリ	1	/	/	+	+	+		LP		
26	ハゼ	ヘビハゼ	1	/	/	/	/	・		DD	DD	
27	ハゼ	エドハゼ	1, 2	/	/	/	/	C		VU	VU	
28	ハゼ	マサゴハゼ	1, 2	/	/	/	/	B		VU	CR+EN	
29	ハゼ	アベハゼ	2	/	/	/	C	C			NT	

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

※河川のキンブナ

表 3.1-24 保全上重要な種（魚類）追加種

区分	和名	備考※
追加（7種）	カワヤツメ	国 VU, 県 DD として追加
	キンブナ	減少種, 国 VU, 県 NT (河川のキンブナ) として追加
	サクラマス(ヤマメ)	国 NT として追加
	クルメサヨリ	国 NT, 県 DD として追加
	シロウオ	減少種, 国 VU, 県 VU として追加
	スミウキゴリ	国 LP として追加
	ヘビハゼ	学術上重要種, 国 DD, 県 DD として追加

※国：環境省レッドリスト, 県：宮城県レッドデータブックを示す。

(7) 選定結果（昆虫類）

本調査においては、表 3.1-25に示す122種を保全上重要な種（昆虫類）として選定した。

第3回調査時（H22(2010)）から59種を追加し、31種を除外した。追加・除外した種の一覧は、表 3.1-26及び表 3.1-27に示すとおりである。また、作成した「選定理由票」は巻末資料として示す。

表 3.1-25(1) 保全上重要な種（昆虫類）総括表（1/3）

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
1	イトトンボ	ヒヌマイトトンボ	1, 2	EX						EN	CR+EN	
2	ムカシトンボ	ムカシトンボ	1, 4	+	+	/	/	/	○			
3	ヤンマ	ネアカヨシヤンマ		/	/	/	・	C		NT	NT	
4	ヤンマ	マダラヤンマ		・	・	・	C	C		NT	NT	
5	ヤンマ	マルタンヤンマ		・	・	・	C	・			NT	
6	ヤンマ	カトリヤンマ	1	・	B	・	B	・			CR+EN	
7	サナエトンボ	ウチワヤンマ	1	・	C	B	C	・				
8	サナエトンボ	ヒメサナエ	1	・	・	・	・	・			VU	
9	サナエトンボ	ナゴヤサナエ	1, 2	・	・	C	・	・		VU	CR+EN	
10	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	1, 4	・	C	・	・	・	○			
11	エゾトンボ	オオトラフトンボ	1	C	C	・	・	・			VU	
12	エゾトンボ	エゾトンボ		・	・	・	・	・			VU	
13	トンボ	ハッチョウトンボ	1	・	B	A	・	・	○		VU	
14	トンボ	コノシメトンボ	1	・	A	・	・	・			CR+EN	
15	トンボ	キトンボ	1	・	A	A	・	・			VU	
16	トンボ	ナツアカネ		・	C	・	C	・	○			
17	トンボ	マユタテアカネ		・	C	・	C	・	○			
18	トンボ	アキアカネ		・	C	・	C	・	○			
19	トンボ	ノシメトンボ		・	C	・	C	・	○			
20	トンボ	マイコアカネ		・	C	・	C	・	○			
21	トンボ	ヒメアカネ	1	・	B	A	・	・			CR+EN	
22	オオゴキブリ	オオゴキブリ		・	・	・	・	・			VU	
23	マツムシ	スズムシ	1	・	B	A	B	・				
24	ヒバリモドキ	ハマスズ		・	・	・	・	・			CR+EN	
25	バッタ	ヤマトマダラバッタ	2	・	・	・	・	C	○		VU	
26	バッタ	カワラバッタ	1	・	・	B	B	・	○		NT	
27	セミ	エゾゼミ		・	+	B	・	・	○			
28	ヨコバイ	スナヨコバイ		・	・	・	・	・		NT	CR+EN	
29	コオイムシ	コオイムシ	1	・	B	A	A	・		NT	NT	
30	コオイムシ	タガメ	1	・	B	A	A	・	○	VU	CR+EN	
31	ツノトンボ	キバネツノトンボ	1	・	B	・	・	・			VU	
32	ツノトンボ	ツノトンボ	1	・	A	・	・	・			CR+EN	
33	ウスバカゲロウ	カスリウスバカゲロウ		・	・	・	・	・			DD	
34	ウスバカゲロウ	オオウスバカゲロウ		・	・	・	・	C	○		CR+EN	
35	ボクトウガ	ハイイロボクトウ		・	・	・	・	・		NT		
36	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ	1	C	B	・	・	・		EN	VU	
37	セセリチョウ	チャマダラセセリ	1	A	A	・	・	・		EN	CR+EN	
38	シジミチョウ	スギタニルシジミ本州亜種		C	・	・	・	・	○			
39	シジミチョウ	ジョウザンミドリシジミ		・	・	・	・	・	○			
40	シジミチョウ	クロミドリシジミ	1	・	C	・	・	・				
41	シジミチョウ	クロシジミ	1	・	A	A	・	・		EN	CR+EN	
42	シジミチョウ	フジミドリシジミ	1	・	・	・	・	・	○			
43	シジミチョウ	カラスシジミ		・	・	・	・	・			NT	
44	タテハチョウ	オオウラギンヒョウモン		EX						CR	EX	
45	タテハチョウ	オオムラサキ	1	・	C	B	B	・	○	NT		

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-25(2) 保全上重要な種（昆虫類）総括表（2/3）

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
46	タテハチョウ	ギンボシヒョウモン本州亜種	1	A	A	・	・	・			CR+EN	
47	アゲハチョウ	アオスジアゲハ	4	・	・	+	+	・	○			
48	アゲハチョウ	ヒメギフチョウ本州亜種	1	C	B	B	・	・	○	NT	NT	
49	シロチョウ	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種				EX				EN	CR+EN	
50	ジャノメチョウ	キマダラモドキ	1	C	・	・	・	・		NT	NT	
51	ジャノメチョウ	ウラジャノメ本州亜種	1, 2	・	・	・	・	・			DD	
52	ジャノメチョウ	ジャノメチョウ		・	C	C	C	・	○			
53	ツトガ	ゼニガサミズメイガ		・	・	・	・	・			NT	
54	スズメガ	ヒメスズメ		・	・	・	・	・		NT	VU	
55	スズメガ	ギンボシスズメ	1	・	A	・	・	・			CR+EN	
56	シャチホコガ	タツカモクメシャチホコ	1, 2	・	・	・	・	・			NT	
57	シャチホコガ	クワヤマエグリシャチホコ	1	A	・	・	・	・		NT	NT	
58	ヒトリガ	キバラヒトリ	1	・	・	・	・	・			NT	
59	ドクガ	フタホシドクガ	1	・	・	C	・	・			NT	
60	ヤガ	キスジウスキヨトウ		・	・	・	・	・		VU	NT	
61	ヤガ	コシロシタバ	1	A	・	A	・	・		NT	VU	
62	ヤガ	ヌマベウスキヨトウ		・	・	・	・	・		VU		
63	ヤガ	ギンモンセダカモクメ	1	・	・	・	・	・		NT	DD	
64	ヤガ	オガサワラヒゲトウ	1	B	B	・	・	・		EN	CR+EN	
65	ヤガ	オオチャバネヨトウ		・	・	・	・	・		VU	NT	
66	ヤガ	ギンモンアカヨトウ		・	・	・	・	・		VU		
67	オサムシ	キバナガミズギワゴミムシ		・	・	・	・	・			VU	
68	オサムシ	ハマベミズギワゴミムシ		・	・	・	・	・			VU	
69	オサムシ	ツヤキベリアオゴミムシ		・	・	・	・	・		VU	VU	
70	オサムシ	セアカオサムシ		・	・	・	・	・		NT	NT	
71	オサムシ	ヤマトトックリゴミムシ	1	・	B	・	・	・				
72	オサムシ	エチゴトックリゴミムシ		・	・	・	・	・		NT	NT	
73	オサムシ	ギョウトクコムズギワゴミムシ		・	・	・	・	・		VU	DD	
74	オサムシ	ヒョウタンゴミムシ		・	・	・	・	C	○		NT	
75	ハンミョウ	カワラハンミョウ	1	・	・	・	・	C	○	EN	CR+EN	
76	ハンミョウ	ハンミョウ		・	B	B	・	・				
77	ハンミョウ	ホソハンミョウ		・	・	・	・	・		VU	NT	
78	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	1	・	・	B	B	・		VU	NT	
79	ゲンゴロウ	シマゲンゴロウ		・	・	・	・	・		NT		
80	ゲンゴロウ	オオイチモンジシマゲンゴロウ	1	・	・	・	・	・		EN	VU	
81	ゲンゴロウ	エゾヒメゲンゴロウ		・	・	・	・	・			DD	
82	コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ		・	・	・	・	・		VU	DD	
83	クワガタムシ	ネプトクワガタ本土亜種		・	・	・	・	・			DD	
84	クワガタムシ	ミヤマクワガタ		・	C	B	・	・	○			
85	クワガタムシ	オニクワガタ	1	C	・	・	・	・	○			
86	クワガタムシ	ノコギリクワガタ		・	C	C	C	・	○			
87	コガネムシ	アカマダラハナムグリ		・	・	・	・	・		DD	NT	
88	コガネムシ	ダイコクコガネ		・	・	・	・	・		VU	VU	
89	コガネムシ	ヤマトケシマグソコガネ		・	・	・	・	・			NT	
90	コブスジコガネ	コブナシコブスジコガネ		・	・	・	・	・			NT	
91	ナガハナノミ	タテスジヒメヒゲナガハナノミ		・	・	・	・	・			DD	
92	タマムシ	ヤマトタマムシ	1, 2	・	B	A	A	・			NT	
93	コメツキムシ	カワイヒラアシコメツキ		・	・	・	・	・			DD	
94	コメツキムシ	スナサビキコリ	2	・	・	・	・	・			NT	
95	ホタル	ゲンジボタル	1	・	C	B	C	・	○		NT	
96	ホタル	ヒメボタル		・	・	・	・	・			NT	
97	ホタル	スジグロボタル		・	・	・	・	・			NT	
98	オオキノコムシ	クロホシチビオオキノコ	1	・	・	・	・	・			DD	
99	ゴミムシダマシ	ハマヒョウタンゴミムシダマシ		・	・	・	・	C	○			
100	カミキリムシ	ヤマトキモンハナカミキリ		・	・	・	・	・			VU	

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-25(3) 保全上重要な種（昆虫類）総括表（3/3）

No.	科名	和名	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	国RL	県RDB	天記・ 種保存
				山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
101	カミキリムシ	ヨツボシカミキリ		・	・	・	・	・		EN	CR+EN	
102	ハムシ	ベニカメノコハムシ		・	・	・	・	・			NT	
103	ハムシ	タグチホソヒラタハムシ		・	・	・	・	・			VU	
104	ハムシ	シラハタミズクサハムシ		・	・	・	・	・			VU	
105	ヒゲナガゾウムシ	エゴヒゲナガゾウムシ		・	・	・	・	・			DD	
106	クモバチ	アカゴシクモバチ		・	・	・	・	・			NT	
107	クモバチ	ムツボシクモバチ		・	・	・	・	B				
108	クモバチ	チシマシロフクモバチ		・	・	・	・	・			NT	
109	クモバチ	ハイイロクモバチ		・	・	・	・	・			NT	
110	ツチバチ	オオモンツチバチ		・	・	・	・	・			NT	
111	ギングチバチ	ササキリギングチ		・	・	・	・	・		NT		
112	ドロバチモドキ	ニッポンハナダカバチ		・	・	・	・	B		VU	CR+EN	
113	アリマキバチ	アシジロヨコバイバチ		・	・	・	・	・			NT	
114	アリマキバチ	ミヤギノヨコバイバチ		・	・	・	・	・			VU	
115	アリマキバチ	キアシマエダテバチ		・	・	・	・	・			DD	
116	フシダカバチ	キスジツチスガリ	1	・	・	・	・	B			VU	
117	ムカシハナバチ	ホソメンハナバチ		・	・	・	・	・			CR+EN	
118	ムカシハナバチ	ノウメンメンハナバチ		・	・	・	・	・			CR+EN	
119	コハナバチ	アオスジハナバチ	1, 2	・	・	・	・	・			CR+EN	
120	ハキリバチ	キヌゲハキリバチ	1	・	・	・	・	B			VU	
121	ハキリバチ	マイマイツツハナバチ	1	・	・	・	・	・		DD	VU	
122	コマユバチ	ウマノオバチ		・	・	・	・	・		NT		

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-26(1) 保全上重要な種（昆虫類）追加種（1/2）

区分	和名	備考
追加（59種）	ネアカヨシヤンマ	減少種，国 NT，県 NT として追加
	マダラヤンマ	減少種，国 NT，県 NT として追加
	マルタンヤンマ	減少種，県 NT として追加
	ヒメサナエ	学術上重要種，県 VU として追加
	エゾトンボ	県 VU として追加
	オオゴキブリ	県 VU として追加
	ハマスズ	県 CR+EN として追加
	スナヨコバイ	国 NT，県 CR+EN として追加
	カスリウスバカゲロウ	県 DD として追加
	ハイイロボクトウ	国 NT，として追加
	カラスシジミ	県 NT として追加
	ウラジャノメ本州亜種	学術上重要種，県 DD として追加
	ゼニガサミズメイガ	県 NT として追加
	ヒメスズメ	国 NT，県 VU として追加
	キスジウスキョトウ	国 VU，県 NT として追加
	ヌマベウスキョトウ	国 VU，として追加
	オオチャバネヨトウ	国 VU，県 NT として追加
	ギンモンアカヨトウ	国 VU，として追加
	キバナガミズギワゴミムシ	県 VU として追加
	ハマベミズギワゴミムシ	県 VU として追加
	ツヤキベリアオゴミムシ	国 VU，県 VU として追加
	セアカオサムシ	国 NT，県 NT として追加
	エチゴトックリゴミムシ	国 NT，県 NT として追加
	ギョウトクコムズギワゴミムシ	国 VU，県 DD として追加
	ホソハンミョウ	国 VU，県 NT として追加
	シマゲンゴロウ	国 NT として追加
	オオイチモンジシマゲンゴロウ	学術上重要種，国 EN，県 VU として追加
	エゾヒメゲンゴロウ	県 DD として追加
	マダラコガシラミズムシ	国 VU，県 DD として追加
	ネブトクワガタ本土亜種	県 DD として追加
	アカマダラハナムグリ	国 DD，県 NT として追加
	ダイコクコガネ	国 VU，県 VU として追加
	ヤマトケシマグソコガネ	県 NT として追加
コブナシコブスジコガネ	県 NT として追加	

表 3.1-26(2) 保全上重要な種（昆虫類）追加種（2/2）

区分	和名	備考
追加（59種） （続き）	タテスジヒメヒゲナガハナノミ	県 DD として追加
	カワイヒラアシコメツキ	県 DD として追加
	スナサビキコリ	学術上重要種，県 NT として追加
	ヒメボタル	県 NT として追加
	スジグロボタル	県 NT として追加
	クロホシチビオオキノコ	学術上重要種，県 DD として追加
	ヤマトキモンハナカミキリ	県 VU として追加
	ヨツボシカミキリ	国 EN，県 CR+EN として追加
	ベニカメノコハムシ	県 NT として追加
	タグチホソヒラタハムシ	県 VU として追加
	シラハタミズクサハムシ	県 VU として追加
	エゴヒゲナガゾウムシ	県 DD として追加
	アカゴシクモバチ	県 NT として追加
	チシマシロフクモバチ	県 NT として追加
	ハイイロクモバチ	県 NT として追加
	オオモンツチバチ	県 NT として追加
	ササキリギングチ	国 NT として追加
	アシジロヨコバイバチ	県 NT として追加
	ミヤギノヨコバイバチ	県 VU として追加
	キアシマエダテバチ	県 DD として追加
	ホソメンハナバチ	県 CR+EN として追加
	ノウメンメンハナバチ	県 CR+EN として追加
	アオスジハナバチ	学術上重要種，県 CR+EN として追加
	マイマイツツハナバチ	学術上重要種，国 DD，県 VU として追加
	ウマノオバチ	国 NT として追加

表 3.1-27 保全上重要な種（昆虫類）除外種

区分	和名	備考
除外（31種）	モートンイトトンボ	特に希少ではないため除外
	アオハダトンボ	特に希少ではないため除外
	ヤブヤンマ	確認例は比較的多いため除外
	モイワサナエ	特に希少ではないため除外
	ホンサナエ	特に希少ではないため除外
	ガロアムシ	同定が困難ため除外
	オニヤンマ	減少が見られないため除外
	リスアカネ	新たな産地が続々とみつかったため除外
	オオカマキリ	減少が見られないため除外
	トノサマバッタ	減少が見られないため除外
	タイコウチ	特に希少ではないため除外
	ジャコウアゲハ本土亜種	特に衰退傾向はみられないため除外
	ツマジロウラジャノメ本州亜種	特に希少ではないため除外
	アカスジアオリングア	特に希少ではないため除外
	ガマキンウワバ	特に希少ではないため除外
	チビクロアツバ	市域での近年の記録はないが、生息数は少なくないと思われるため除外
	ニシキキンウワバ	判定に十分な情報がないため除外
	ニッコウオオズナガゴミムシ	オオズナガゴミムシ類としては一般的な種であるため除外
	メススジゲンゴロウ	生息環境は良好に保たれているため除外
	クロゲンゴロウ	市域では普通に見られるため除外
	オオキバハネカクシ	生息環境は良好に保たれているため除外
	ミヤマダイコクコガネ	生息環境は良好に保たれているため除外
	ウバタママムシ	生息環境は良好に保たれているため除外
	ツシمامツボシタママムシ	生息環境は良好に保たれているため除外
	クロホシタママムシ	生息環境は良好に保たれているため除外
	ムラサキオオツチハンミョウ	生息環境は良好に保たれているため除外
	コブスジツノゴミムシダマシ	生息環境は良好に保たれているため除外
	アカジマトラカミキリ	特に衰退傾向は認められないため除外
	ヨコヤマヒゲナガカミキリ	生息環境は良好に保たれているため除外
	オオホソコバネカミキリ	生息環境は良好に保たれているため除外
	アオスジカミキリ	特に衰退傾向は認められないため除外

3.2 ふるさと種の選定

本市に生息・生育する動植物種のうち、仙台のふるさとの自然を代表する種や、市民に親しんで欲しい種として「ふるさと種」を選定した。選定にあたっては、市内における生育・生息状況や、検討会からの意見を参考とした。本調査でふるさと種は植物10種、その他の分類群は5種ずつ（両生類と爬虫類はあわせて5種とした）とし、選定した種は表 3.2-1に示した。なお、種として選定することが難しいものは、総称を用い、1種とし扱った。

表 3.2-1(1) ふるさと種選定結果 (1/3)

分類群	和名	備考
植物	クサソテツ (コゴミ)	落葉性の多年生シダ植物で、草丈は 20cm ほど。地中から芽吹いたばかりの渦巻き状の若芽が、おひたしや天ぷらにして食される。くせがなく、風味・口当たりがほどよいことから、春の訪れを告げる代表的な山菜として人気がある。
	モミ	仙台を分布の北限域とする常緑針葉樹で、樹高 30m、胸高直径 1m に達する。丘陵地の森林内にまばらに自生するほか、屋敷地や公園に植栽されてランドマークとなる。仙台城を守る御裏林（おうらばやし）として保全されてきた青葉山のモミ林は、数少ない発達した自然林として国の天然記念物に指定されている。
	ブナ	春の新緑・秋の紅葉がひととき美しい、山地を覆う冷温帯林を代表する落葉広葉樹。樹高 25m、胸高直径 1m に達する。また、ブナの種子は形状がソバの実に似ていることから「ソバグリ」と呼ばれ、おおよそ数年に一度訪れる豊作の年には、森の動物はもちろん、山村の人々も恵みを受けてきた。
	コナラ	丘陵地を中心に里山里地の森に広く分布する、二次林（いわゆる雑木林）を代表する落葉広葉樹。どんぐりが実るナラ類に属し、樹高 25m、胸高直径 1m の大木となるが、古来より日常生活に欠かせない燃料源としての薪、炭の原料として、20 年ほどの間隔で伐採されてきた。伐採後、切り株から複数の「ひこばえ（萌芽）」を出して再生する能力が著しい。
	ケヤキ	仙台市の木。市民の自然愛護の象徴として、健康都市宣言 10 周年を迎えた 1971 年、市民投票によって決められた。本来は丘陵地の溪谷・急斜面の岩塊地や、平野の河辺堤防・浜堤の砂地に自生し、樹高 30m、胸高直径 1m に達する。古来より農家の屋敷林（イグネ）に導入され、また家具や臼、杵などの素材となってきた。青葉通や定禅寺通のケヤキ並木は、「杜の都 仙台」のシンボルとなっている。
	ホオノキ	丘陵地や山地の森に散生する落葉広葉樹で、大型の楕円形の葉と芳香のある白花が特徴的。倒木や伐採に伴って生じる表土露出地で発芽し、急速に成長する性質がある。葉は食べ物を盛りつけたり、包んだりすることに利用され、また変形の少ない材は窓枠や障子の骨組み、こたつのやぐら、下駄の歯などに使用されていた。

表 3.2-1(2) ふるさと種選定結果 (2/3)

分類群	和名	備考
植物 (続き)	エゾタンポポ	草丈 20~30cm 程のキク科の多年生草本で、住宅地の指標種。花期は 4 月~6 月で、夏には地上部は枯れて休眠に入り秋に葉を広げて越冬する。春を代表する花の一つで、髪飾り、笛、綿毛とぼしなど、子供の身近な遊び道具として昔から親しまれてきた。
	カタクリ	落葉広葉樹林内に生育する、草丈 10cm ほどのユリ科の多年草植物。上層の樹木が若葉を展開する前に芽生え、1 か月半ほどの間に開花・結実して、地上から姿を消してしまう。そのはかなさと薄紅色の清楚な花から、「春の妖精」と呼ばれる。かつては、球根からデンプン(かたくり粉)が採取された。
	ススキ	草丈 2.5m に達するイネ科の多年生草本で、海岸砂丘から山地まで広く分布し、明るく乾燥した土地で優勢となる。かつては牛馬の放牧や飼料(まぐさ)採取を目的として、あちこちにススキ草場が広がっていたとされる。茅葺き屋根の材料としても用いられた。秋の七草のひとつで、9 月 15 日にはお名月さま、豆名月としてススキが飾られる。
	ヨシ	草丈 3m に達するイネ科の多年生草本で、海岸から山地まで広く分布し、潟湖や湖沼の岸辺、河岸、湿原、放置水田などで優勢となる。かつてはかやぶき屋根やすだれ(よしず)の材料として盛んに利用され、暮らしに欠くことができない植物であった。若林区藤塚地区には「萱刈地の払下げ記念碑」があり、この地域がかやの生産地として知られていたことが記されている。
哺乳類	アズマモグラ	土壌が豊かな場所に生息する。畑などで見られる、ペットボトル等で作られた風車はモグラ除け。
	ノウサギ	姿を目にすることは少ないが、冬季、山や緑地を訪れると雪の上の足跡を見つけることができる。
	ニホンリス	博物館周辺等の市街地中心部に近い緑地にも生息している。緑地等では、リスがクルミを割って食べた痕や松ぼっくりをかじった痕(食痕)を見つけることができる。
	タヌキ	郊外部では、人家の近くにも現れる。毛は「仙台御筆」の材料等としても使用された。
	カモシカ	国指定の天然記念物に指定されている。日本の固有種。
鳥類	カッコウ	仙台市の鳥。市民の自然愛護の象徴として、健康都市宣言10周年の昭和46年に市民投票により決定。都市の発展で少なくなった鳥、呼び戻したい仙台市の鳥
	カワセミ	鮮やかな体色が特徴的。湖沼や河川で見ることができ、広瀬川、梅田川、七北田川などに生息している。
	ウグイス	ホーホケキョの鳴き声でよく知られ、春の訪れを告げる。古くは大年寺山の鳴鳥とも言われていた。
	フクロウの仲間 (フクロウ、 アオバズク)	夜に活動し、その鳴き声は多くの人に親しまれている。フクロウは“ゴロスケホウホウ”とききなされ、アオバズクは青葉のころにやってきて“ホッホウ、ホッホウ”と鳴く。
	カルガモ	身近な湖沼・溜池や河川に生息し、一年を通じてみるることができる。繁殖期にはカルガモの親子連れが見られ、人々の心を和ませる。

表 3.2-1 (3) ふるさと種選定結果 (3/3)

分類群	和名	備考
両生類 ・爬虫類	カジカガエル	清流にすむ、鳴き声の美しいカエル。「広瀬川のカジカガエルと野鳥」は、残したい日本の音風景100選の一つに選定されている。
	トウキョウダルマガエル	別種のトノサマガエルとよく似たカエル。頬にある鳴き袋（鳴のう）をふくらませて鳴く。
	アカハライモリ	昭和20年代、田んぼにイモリが見られ、捕った。皮膚に毒があるので触れた際は手洗いが必要である。
	ニホンカナヘビ	「かなげっちょ」と呼ばれて市民に親しまれていた
	シマヘビ	元来人の生活圏で良く見られる。性格は比較のおとなしい。
魚類	ドジョウ	かつて子どもたちが7～8月に、手作りの竹網筒を田んぼの水路に仕掛けてドジョウをとったりして遊んだ。とったドジョウは卵でとじて「柳川」などとして調理された。
	アユ	夏に広瀬川でとれたあゆの塩漬を更に酒粕に漬け込んだあゆの粕漬は正月料理。現在でも、アユ釣りを楽しむ人は多い。
	サケ	秋、広瀬川でサケの遡上がみられる。市民団体等を中心に、サケの稚魚放流や観察会等様々な活動が行われている。
	ミナミメダカ	東日本大震災で被害を受けた沿岸部のメダカの保全活動が市民協働で八木山動物園等を中心に行われている。
	カジカ	かつて川で夜どぼし（カーバイトを燃やしながら、ガラス箱を使ってヤスで突いて魚を捕る）等で捕った。
昆虫類	アカネの仲間 (ナツアカネ, アキアカネ)	秋、田んぼの上空を赤トンボが群れをなして舞う光景がみられたが近年、みられる数が減少している。水田等で羽化した後、ナツアカネは丘陵地、アキアカネは高い山で夏を過ごす。夏の間、暑い平地では見ることができないが、秋になるといっせいに降りてきて産卵する。
	イナゴの仲間 (コバネイナゴ, ハネナガイナゴ)	秋、稲刈りが終わって干している頃に田んぼに入って捕って佃煮にする。子どものおやつや酒の肴として食される。
	スズムシ	仙台市の虫。市民の自然愛護の象徴として、健康都市宣言10周年の昭和46年に市民投票により決定。「宮城野のスズムシ」は、残したい日本の音風景100選の一つに選定されている。すずむしの里づくり実行委員会を中心に、スズムシ配布会等が行われている。
	アオスジアゲハ	クスノキ、タブノキ、シロダモなどを食樹とする、照葉樹林の蝶。分布北限の東北地方ではおもに海岸沿いに生息するが、仙台市では社寺林や市街地の公園などで見ることができる。
	ミヤマクワガタ	北方系で、仙台市では最も身近なクワガタムシ。夜は灯りに飛んでくるほか昼間も活動し、樹液などで見る機会も多い。クワガタムシの代表として親しまれている。クワガタムシの代表として親しまれている。

3.3 植物生育地として重要な地域及び動物生息地として重要な地域の更新

3.3.1 植物生育地として重要な地域及び動物生息地として重要な地域の選定方針

本市では、表 3.3-1 に示す基準に該当する地域を「植物生育地として重要な地域」及び「動物生息地として重要な地域」として選定している。

表 3.3-1 重要な地域の選定基準

番号	判断理由
1	保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域（動物の繁殖場，集団越冬地となっている地域など）
2	多様な生物相が保存されている地域
3	自然性の高い植生，その他学術上重要な植生が保存されている地域
4	湿地，湧水，岸壁地，地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
5	自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
6	環境教育の場としてふさわしい地域
7	郷土の特色が保存されている地域（里地里山・居久根等）
8	緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域（山地から市街地への連続した緑地，市街地や田園地域に点在する緑地等）
9	海岸や水辺，植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

本調査では、表 3.3-2 に示す資料及び検討会からの助言を基に、第 3 回調査（H22（2010））で選定された「植物生育地として重要な地域」及び「動物生息地として重要な地域」（資料 1）の更新を行った。

更新に当たっては、植生図の比較（資料 2, 3）により開発事業等による影響がみられる箇所を抽出し、動植物の生育・生息地として良好な地域ではなくなったと考えられる箇所を選定範囲から除外した。また、新たに得られた猛禽類の既知の営巣地及び生息適地を把握し（資料 4, 5）、選定範囲の追加・範囲拡大を行ったほか、震災後の東部田園地域・沿岸地域において良好な動植物の生育・生息地となっている地域（資料 6）や、新たに得られた良好な里地里山の分布情報（資料 7）を把握し、選定範囲の追加・範囲拡大を行った。さらに、検討会から得られた、里地里山の保全活動が活発な地域や、動植物の分布状況から重要だと判断される地域に係る情報等を基に、選定範囲の追加・範囲拡大を行った。

表 3.3-2 重要な地域の更新に用いた資料

資料番号	資料名
1	平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書 (平成 23 年 3 月 仙台市)
2	平成 21 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書 (平成 22 年 3 月 仙台市)
3	平成 27 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書 (平成 28 年 3 月 仙台市)
4	杜の都環境プラン「猛禽類生息環境評価業務」報告書 (平成 27 年 10 月 株式会社エコリス)
5	宮城県猛禽類生息状況調査報告書（環境影響生物基礎調査） (平成 28 年 1 月 宮城県環境生活部自然保護課)
6	東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップ（平成 27 年 1 月 環境省）
7	生物多様性保全上重要な里地里山ホームページ（平成 27 年 12 月 環境省） https://www.env.go.jp/nature/satoyama/jyuuyousatoyama.html

3.3.2 植物生育地として重要な地域

植物生育地として重要な地域の内容は表 3.3-3に、位置図は図 3.3-3に示すとおりである。

第3回調査（H22（2010））からの主な変更箇所を以下に示す。

【追加】

以下に示す4地区を新たに植物生育地として重要な地域に追加した。選定理由は表 3.3-4に示すとおりである。

- ・No. 52 燕沢三丁目の緑地
景観上優れた緑地として、平成27年4月に特別緑地保全地区に指定されたことを踏まえ、追加した。
- ・No. 53 大沼周辺の湿地植生
最新の現存植生図より、新たに植生自然度10の湿地植生（ヨシクラス）が確認されたこと及び環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要度マップの重点エリアに含まれていることを踏まえ、追加した。
- ・No. 54 秋保地区の里山
秋保市民センター付近での里山整備活動状況に係る検討会からの意見を踏まえ、追加した。
- ・No. 55 泉ヶ岳一帯
良好なブナ帯・ミズナラ帯が残っているとの検討会からの意見を踏まえ追加した。

【範囲修正】

以下に示す4地区について、植物生育地として重要な地域の範囲を修正した。選定理由は表 3.3-4に示すとおりである。

- ・No. 1 船形山の原生林
最新の現存植生図をもとに、範囲を修正（拡大）した。
- ・No. 43 根白石（朴沢・実沢・福岡）地域及び西田中地域の里地・里山植生
最新の現存植生図をもとに、範囲を修正（拡大）した。
- ・No. 44 奥武士・大倉地区の里地・里山植生
最新の現存植生図に加え、赤坂付近での里山整備活動状況に係る検討会からの意見を踏まえ範囲を修正（拡大）した。
- ・No. 46 奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植生
最新の現存植生図をもとに、開発事業等による植生の変化を踏まえ、錦ヶ丘地区の一部を地域から除外した。一方、青葉山の東北大学・宮城教育大学周辺、新川周辺は植物の生育地として良好な環境が保たれているとの検討会からの意見を踏まえ範囲を修正（拡大）した。

表 3.3-3(1) 植物の重要な生育地 (1/5)

No.	地域名	対象	備考	判断理由
1	船形山の原生林	植物	県立自然公園船形連峰(第一種, 第二種, 第三種特別地域等)。標高 1,350m 以上にはミヤマナラ, ミネカエデの低木林, その下にはブナ林が発達するなど, 標高と多雪, 立地に応じた植生が成立している。伐採をまぬがれたブナ林は面積が大きく, 自然度も高くて貴重。	1, 3
2	ブナ林-高山植物群落	植物	県立自然公園船形連峰。船形山の南側の奥羽山脈で, 山腹にはブナ林, 尾根部にはヒメコマツ, クロベ, ヒノキアスナロ林がみられる。	1, 3
3	ブナ林	植物	県立自然公園船形連峰, 県立自然公園二口峡谷, 蔵王国定公園。奥羽山脈を南北につなぐ, 自然度の高いブナ林。林野庁指定の生態系回廊の一部。	1, 3
4	磐司岩の岸壁植物群落	植物	蔵王国定公園(第一種特別地域)。3 km 以上も続く高さ 150 m に及ぶ断崖で, イワキンバイやシコタンソウ等希少な植物の生育する岩壁植物群落である。	1, 3, 4
5	東北大学植物園のモミ林	植物	国指定天然記念物。モミの大木を主体とした針広混交林で, 原生林に近い。仙台市街地の西縁に残存し極めて貴重である。青葉城の背後を守る御裏林として保全管理されてきた。カシ類やシロダモ, カラスザンショウ, イイギリといった暖地性植物も混交し, 階層ごとに多様な植物がみられる。	1, 2, 3, 6, 7, 8
6	霊屋のスギ林	植物	風致保安林。土砂崩壊防止保安林。伊達家廟に植林されたスギの大木林で, 林床には暖地性の植物も多く, 北限近くの自然林のあり方を知る上でも貴重な群落。	5, 6, 7
7	佐保山のモミ・イヌブナ林	植物	太白山県自然環境保全地域。優勢なモミやイヌブナをはじめ多様な林木・草本が生育し, 仙台地方において最も原生林に近い林相を示す森林(林分)のひとつである。また広い面積を有している点でも貴重である。	3, 5, 6, 7
8	蒲生の塩生植物群落	植物	仙台湾海浜県立自然環境保全地域, 仙台湾海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区。自然度の高い砂洲と潟湖を主体とした河口干潟で, 海の干満と七北田川の水流により多様な微環境が成立している。水辺にはオオシバナやハママツナ, ハマゼリ等を含む塩生の草本植生が分布する。干潮時には干上がる地やわずかに水を冠っている地にみられるオオシバナ, ハママツナ, ハマゼリ等を含む群落である。震災による津波で群落と立地は著しく減少したが, 埋土種子などから再生が認められている。今後の環境変化に注目する必要がある。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	4, 5, 6, 7
9	仙台湾沿岸の海岸林	植物	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。藩政時代からのクロマツ林が存在したが, 震災による地盤沈下と津波で一部を残し倒伏・流木した。海岸堤防背後では海岸林の再生が進められている。樹林跡地には砂浜植物が再生し, また小湿地群が分布し自然度の高い植生が再生しつつあるため今後の変化に注目する必要がある。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	7, 9
10	仙台湾沿岸の砂浜植物群落	植物	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。渚からハマニンニク群落, コウボウムギ群落, ケカモノハシ群落等が順に成立していたが, 震災による津波と地盤沈下で植物群落は大きく攪乱された。しかし回復が著しい場所もあり, 今後の変化に注目する必要がある。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 3, 4, 5, 6

表 3.3-3(2) 植物の重要な生育地 (2/5)

No.	地域名	対象	備考	判断理由
11	井土浦の塩生植物群落と東谷地の湿地植生	植物	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。名取川河口左岸に発達する潟湖で、名取川や貞山運河を通じて塩水が出入りする。ヨシやシオクグ等の塩生植物が群落を形成し、ハマツナやハマゼリ等を産する。震災による津波で群落は著しく攪乱された。震災後新たにできた東谷地には自然度の高い塩生植物群落複合体がいち早く形成されることから、今後の変化に注目する必要がある。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 3, 4, 5, 6
12	芳の平のミズバショウ自生地	植物	県立自然公園船形連峰。泉ヶ岳の南麓の芳の平にある中層-低層湿原。ハンノキ、ヤチダモの下層にミズバショウが群生する。ミズバショウ群生地としては面積も大きく、個体数が多い。乾燥化が懸念されており、基礎調査を実施中。	1, 4, 5
13	鎌倉山のケヤキ林	植物	県立自然公園二口峡谷。標高 375m の岩峰の山麓に形成された岩錐地に成立するケヤキが優占する林。30~40 年前の伐採跡に萌芽再生したものと思われるが、土壌の極相に近い組成であり貴重である。	3, 4
14	鎌倉山の岸壁植物群落	植物	県立自然公園二口峡谷。標高 375m の岩峰の垂直崖に成立。イワキンバイ、イワデンダ、キリンソウ、スカシユリ等の耐乾性の草本が多く出現する。	1, 4
15	棒目木のケヤキ林	植物	県立自然公園二口峡谷。丘陵南斜面の岩盤が露出する急傾斜地に成立するケヤキが優占する林。多少人為が加わっているが、土壌の極相に近い林分（森林）である。	3, 4
16	西風蕃山のモミ・イヌブナ林	植物	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域。山頂付近のやや平坦な立地に残存するモミとイヌブナ、多様な落葉広葉樹が混生する林。市街地近郊に位置し、仙台市丘陵域の気候的極相と考えられる植生の面影を残す群落として貴重。	3, 5, 6, 7
17	太白山のスギ林	植物	太白山県立自然環境保全地域。太白山の南東斜面にある樹齢 100 年以上のスギの大木で構成される森林。人工林ではあるが、自然度が高く、また地域の住民にも親しまれており貴重。	5, 7
18	洞雲寺のコナラ林	植物	コナラの大木を主体とする自然度の高い社寺林。下層にはモミの若木が生長し、植生遷移を考察する上で貴重。また住宅団地域に残る自然緑地としても重要。	5, 6, 7
19	西風蕃山のブナ林	植物	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域。標高 340m 付近に残存するブナ林。高木層ではブナが優占し、イヌブナを混生し、下層にはモミが混じる。ブナが優占する森林としては、県内で最も低標高地に位置するものの一つである。	5, 6, 7
20	鉤取山学術参考保護林周辺の林	植物	太白山県立自然環境保全地域。鉤取山学術参考保護林として保護されているモミ・イヌブナ林を中心に、コナラ・クリ林やアカマツ・コナラ林から構成される森林域。仙台市域の丘陵地の気候的極相林と二次植生を含み、植物群落の遷移過程がみられる。	5, 6, 7
21	下の沢等の沢辺植物群落	植物	太白山県立自然環境保全地域。丘陵帯でありながら深山の溪谷にみられるような植物群落。開発の進んできている下の沢、茂倉沢、光沢などの沢筋にみられ、仙台市域ではきわめて貴重な存在である。	4, 5, 6, 7

表 3.3-3(3) 植物の重要な生育地 (3/5)

No.	地域名	対象	備考	判断理由
22	太白山のコナラ・ケヤキ林	植物	太白山県自然環境保全地域。太白山の標高150mから頂上(320m)までの急斜面・岩礫地には立地特有の植生であるコナラ・ケヤキ林が成立している。登山を中心に市民の憩いの場としても貴重。	2, 5, 6, 7
23	蕃山・西風蕃山・蛇台蕃山の植生	植物	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域。保全上重要な植物群落を含み城西部のコナラ・クリ林を主体とした植生域。各種開発の進む仙台市丘陵地において、まとまった面積を有する夏緑広葉樹林として貴重。近年マツ枯れに続いてナラ枯れが進んでいる。	2, 5, 6, 7
24	月山池・サイカチ沼周辺の植生	植物	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域。池内にはヨシ群落、マコモ群落、ヒシ群落、多様な湿生・水生植物群落が成立し、市内では分布面積も少ないことから貴重。	2, 4, 5, 6
25	黒森山国有林のソゴ林と周辺の植生	植物	権現森緑地環境保全地域。仙台市を分布北限とするソゴが小群落を形成している。	3, 6, 7
26	黒森山頂上付近の植生	植物	権現森緑地環境保全地域。アカマツ林は里山では一般的なものであるが、黒森山頂上付近の林分は生育状態が良好で、樹高20m以上、胸高直径50~60cmに達する。過去より伐採を受けてきた里山の植生の中で、壮齢林として重要。	5, 6, 7
27	松尾山頂上付近の植生	植物	権現森緑地環境保全地域。黒森山頂上と同様のアカマツ林が分布する。林内に神社があり、地域住民とのかかわりの面からも重要。	5, 6, 7
28	北赤石中の森と周辺の植生	植物	発達状況が良好なコナラ・クリ林。樹高20m以上のまとまった林で、仙台市西部丘陵地の典型的な里山の植生がよく残されている。	5, 6, 7
29	名取川・広瀬川中～下流域の河畔植生	植物	広瀬川の清流を守る条例環境保全区域。立地や洪水様態に応じた多様な植生が認められ、ヤナギ類の群落を中心に、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。市民の憩いの場としても極めて貴重。	8, 9
30	七北田川下流域の河畔植生	植物	ヨシ群落自然植生度10のヨシクラスを主体とする河畔植生で、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。市民の憩いの場として極めて貴重。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	8, 9
31	南長沼の池沼植物群落	植物	仙台平野に残された貴重な沼。近年浚渫され、湿生・水生植物の生育地としての価値が著しく減少しつつあるが、震災後においても貴重な植物が確認されており重要。	1, 4
32	坪沼のオオバアサガラ林	植物	支倉川沿いにオオバアサガラ林が残されている。ただし、道路拡張工事で消失した可能性があり、精査が必要。	3
33	北泉ヶ岳南西麓の風穴性植物群落	植物	典型的な風穴と植物群落とは言えないが、岩の透き間から冷風が出ており、特殊な環境として保全が望まれる。	1, 4
34	朴沢のモミ林	植物	朴沢地区の国道457号線沿いに残存するモミ高木が林立する小林分。	3, 7
35	台原森林公園・真美沢公園の里地・里山植生	植物	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地の内部のとび石型生態系回廊(生態系コリドー)として重要。	7, 8

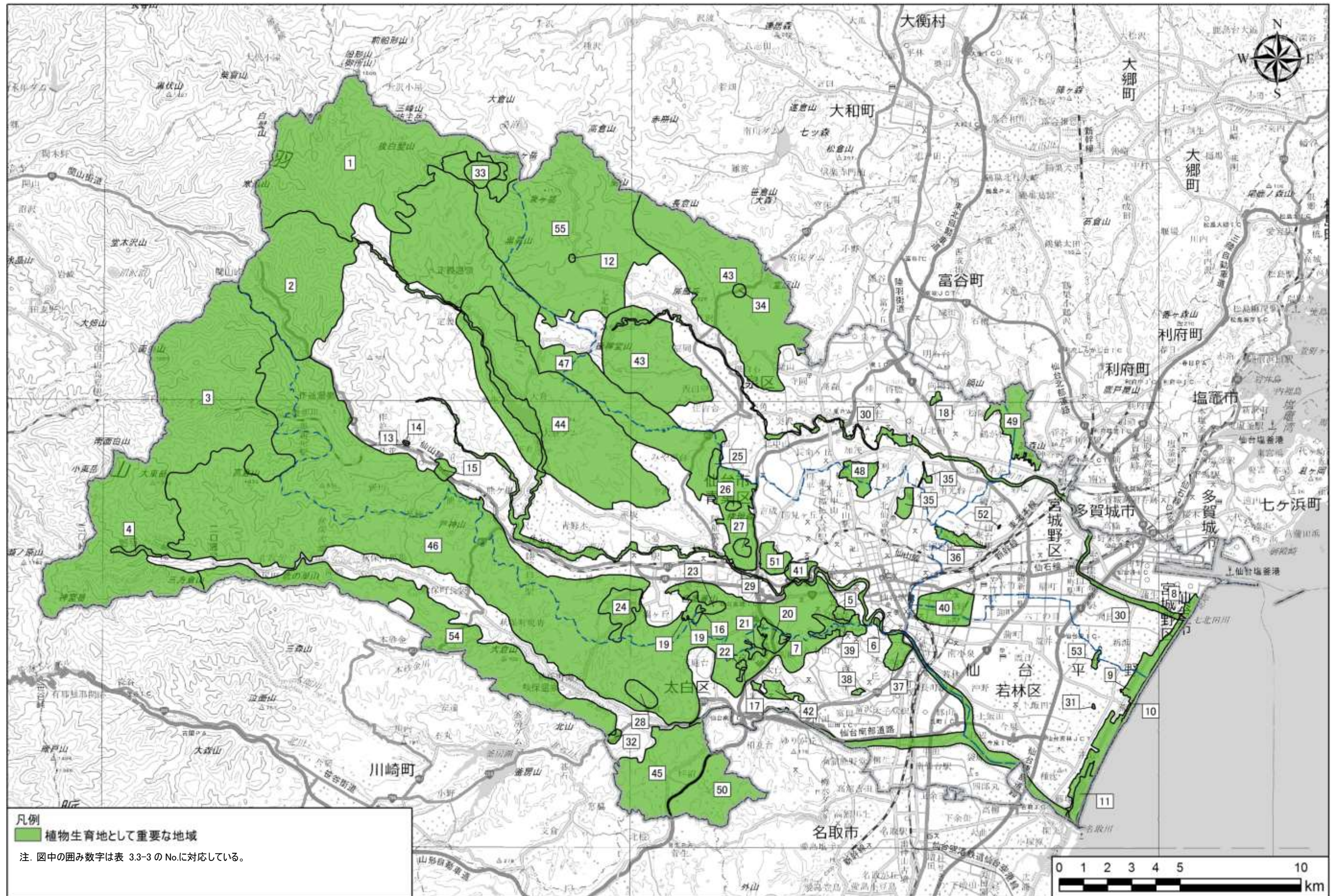
表 3.3-3(4) 植物の重要な生育地 (4/5)

No.	地域名	対象	備考	判断理由
36	与兵衛沼周辺の里地・里山植生	植物	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地の内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7,8
37	茂ヶ崎・愛宕神社周辺の里地・里山植生	植物	市街地南部の段丘に残された、まとまりのある緑地。歴史的な建造物や仙台市野草園を含み、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7,8
38	三神峰公園周辺の里地・里山植生	植物	市街地に内部に残された段丘に沿ったまとまりのある緑地として重要。登山を中心に市民の憩いの場としても貴重。	7,8
39	竜ノ口溪谷の自然林	植物	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。広瀬川中流域。高さおよそ70mに及ぶ絶壁が連なる狭い溪谷で、両岸に残存する大木と独特の植物相が残る。	3
40	榴ヶ岡・新寺・木下地区の緑地	植物	市街地内部に残された、段丘に沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7,8
41	八幡・国見・放山地区の緑地	植物	市街地の内部の段丘に残された、地滑りに沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7,8
42	太白・羽黒台の緑地	植物	市街地南部に残された、宮農短大のアカツ植林や里地・里山景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7,8
43	根白石（朴沢・実沢・福岡）地域及び西田中地域の里地・里山植生	植物	市街地の北西部に位置し、二次林、植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、里地・里山植生が良好な状態で残されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7,8
44	奥武士・大倉地区の里地・里山植生	植物	市街地の西部に位置し、二次林、植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、里地・里山植生が良好な状態で残されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7
45	坪沼地域の里地・里山植生	植物	市街地の南西部に位置し、二次林、植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、里地・里山植生が良好な状態で残されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7
46	奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植生	植物	市街地の南部に位置し、野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。また、青葉山は、狭い地域内に800種以上の植物が自生し、里山の自然に親しむ場として活用されており、環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7,8
47	大倉・芋沢丘陵地の植生	植物	市街地の中央部から北西にかけて位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	7,8

表 3.3-3(5) 植物の重要な生育地 (5/5)

No.	地域名	対象	備考	判断理由
48	丸田沢緑地 (水の森公園)	植物	丸田沢緑地環境保全地域。仙台藩の御林として伐採が禁じられた。市街地の中央に位置し、市街地に残された、池沼を含む緑地・公園である。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、とび石型生態系回廊 (生態系コリドー) として重要。モミの大木を含むアカマツ自然林やコナラ等の二次林、スギ植林が比較的広い面積で残存し、貴重。	5, 6, 7
49	県民の森	植物	県民の森緑地環境保全地域。仙台市北東部で市街地に隣接する緑地、公園。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。	5, 6, 7
50	高館, 千貫山	植物	高館, 千貫山緑地環境保全地域。仙台市南東部で市街地に隣接する緑地、公園。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、そして奥羽山北東裏と仙台平野、名取川をつなぐ生態系回廊 (生態系コリドー) として重要。	6, 7
51	葛岡墓園・荒巻の緑地	植物	権現森緑地環境保全地域。仙台市南東部で市街地に隣接する緑地、公園、墓園で、丘陵地域を象徴する里地・里山が残される。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、そして奥羽山地山麓部と、青葉山や広瀬川を繋ぐ緑地、生態系回廊 (生態系コリドー) として重要。	6, 7, 8
52	燕沢三丁目の緑地	植物	燕沢三丁目の特別緑地保全地区。市街地に残された景観上優れた緑地として重要。	7
53	大沼周辺の湿地植生	植物	湖岸が非耕作地に、震災後に出現した湿地植生 (植生自然度 10 のヨシクラス等) や水生植物が生育する開放水域がまとまっている。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	4
54	秋保地区の里山	植物	県立自然公園二口峡谷。市街地の南西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されている。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。	5, 6, 7
55	泉ヶ岳一帯	植物	県立自然公園船形連峰。良好なブナ、ミズナラ帯が残り、野生動植物のハビタットとして重要。	1, 2

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。



この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.3-3 植物生育地として重要な地域

3.3.3 動物生息地として重要な地域

動物生息地として重要な地域の内容は表 3.3-4に、位置図は図 3.3-4に示すとおりである。

第3回調査（H22（2010））からの主な変更箇所を以下に示す。

【追加】

以下に示す11地区を新たに動物生息地として重要な地域に追加した。選定理由は表 3.3-4に示すとおりである。

・No. 29 台原森林公園・真美沢公園

植生や地形等から猛禽類の生息地として適している地域であることが推定されることや、まとまりのある里地里山環境として環境教育の場として重要であることを踏まえ、追加した。

・No. 30 与兵衛沼公園

植生や地形等から猛禽類の生息地として適している地域であることが推定されることや、まとまりのある里地里山環境として環境教育の場として重要であることを踏まえ、追加した。

・No. 31 大年寺

植生や地形等から猛禽類の生息地として適している地域であることが推定されることや、まとまりのある里地里山環境として環境教育の場として重要であることを踏まえ、追加した。

・No. 32 奥武士・大倉地区

良好な里地里山環境として環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に指定されたことを踏まえ、追加した。

・No. 33 坪沼地区

良好な里地里山環境として環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に指定されたことを踏まえ、追加した。

・No. 34 西田中地区

良好な里地里山環境として環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に指定されたことを踏まえ、追加した。

・No. 35 霊屋

社寺林に巨木が見られ、森林性の哺乳類等の生息地として重要であるとの検討会からの意見を踏まえ、追加した。

・No. 36 秋保地区

秋保市民センター付近での里山整備活動状況に係る検討会からの意見を踏まえ、追加した。

・No. 37 磐司岩

野生動物の生息状況に係る検討会からの意見を踏まえ、追加した。

- No. 38 名取川（上～中流域）
河川沿いは様々な生物の生息地として重要であるとの検討会からの意見を踏まえ、追加した。
- No. 39 作並地区
動物の生息地として重要であるとの検討会からの意見を踏まえ、追加した。

【範囲修正】

以下に示す3地区について、動物生息地として重要な地域の範囲を修正した。選定理由は表 3.3-4に示すとおりである。

- No. 2 泉ヶ岳・北泉ヶ岳
動物の生息地として重要な地域であるとの検討会からの意見を踏まえ、泉ヶ岳一帯が含まれるよう範囲を修正（拡大）した。
- No. 14 低地の水田地帯
最新の現存植生図をもとに、開発事業等による植生の変化を踏まえ、荒井地区の一部を地域から除外した。一方、保全すべき魚類の生息地として重要な地域であるとの検討会からの意見を踏まえ、四郎丸地区が含まれるよう範囲を修正（拡大）した。
- No. 22 奥羽山脈から青葉山丘陵地域への緑の回廊
最新の現存植生図をもとに、開発事業等による植生の変化を踏まえ、錦ヶ丘地区の一部を地域から除外した。一方、青葉山の東北大学・宮城教育大学周辺、新川周辺は動物の生息地として良好な環境が保たれているとの検討会からの意見を踏まえ範囲を修正（拡大）した。

表 3.3-4(1) 動物の重要な生息地 (1/4)

No.	地域名	対象	備考	判断理由
1	竜ノ口溪谷	鳥類	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。野生動植物のハビタットとして重要。高さおよそ70mに及ぶ絶壁が連なる狭い溪谷。ハヤブサの繁殖。	4
2	泉ヶ岳・北泉ヶ岳	昆虫類	県立自然公園船形連峰。野生動植物のハビタットとして重要。県内でも代表的なチョウ類の生息地、ブナ林に依存する貴重なチョウ類の生息。	1, 2
3	泉ヶ岳芳の平	昆虫類	県立自然公園船形連峰。野生動植物のハビタットとして重要。シジミチョウ類の多産、ハッチョウトンボの生息。	1
4	権現森	昆虫類	権現森緑地環境保全地域。野生動植物のハビタットとして重要。貴重なチョウ類の生息地、ヒメギフチョウ、クマバチ等のヒルトッピング。	1, 4
5	青葉山	鳥類	仙台市街地の西縁に位置する緑地で、森林性鳥類が豊富。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。豊かな里地里山生態系のシンボルであるオオタカも生息し、毎年繁殖の成功が確認されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	1, 2, 5, 6, 7
6	太白山・佐保山・鈎取国有林一帯	鳥類	太白山県立自然環境保全地域。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。山から里までの鳥類が豊富。	2, 5, 6, 7
7	太白山一帯	昆虫類	太白山県立自然環境保全地域。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。多様なチョウ類の生息、貴重なトンボ類の生息、各種チョウ類のヒルトッピング、3種のホタルの生息。	1, 2, 6, 7
8	船形山	鳥類, 昆虫類	県立自然公園船形連峰。野生動植物のハビタットとして重要。山地から亜高山帯の鳥相、貴重なガ類の生息。	1, 2
9	広瀬川 (中～下流域)	鳥類	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。野生動植物のハビタット、生態系回廊(生態系コリドー)として重要。中流部は森林性から草地、水辺の鳥まで豊富。下流部は、オジロワシ、オオタカ等の猛禽類やキジ類の草地性鳥類。アオジの生息及び繁殖。	2, 7, 8
10	名取川河口	魚類	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。野生動植物のハビタットとして重要。塩分に比較的耐性がある河川下流の魚、周縁性淡水魚に加え、沿岸性の海魚が出現するため、魚類相が多様。	1, 4
11	名取川 (下流域)	鳥類	野生動植物のハビタット、生態系回廊(生態系コリドー)として重要。河原のイカルチドリ等の生息・繁殖、冬季はオジロワシ等の猛禽類。アオジの生息及び繁殖。	1, 4, 8
12	七北田川 (中流域～河口)	哺乳類, 鳥類	野生動植物のハビタット、生態系回廊(生態系コリドー)として重要。川に接する地域の環境変化が著しく、動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくくなってきている。河川周辺のヨシ原はオオセッカ等希少な鳥類が生息する重要な自然になっている。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	2, 8
13	荒井の大沼	鳥類	野生動植物のハビタットとして重要。マガン、その他水鳥の渡来地。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	4
14	低地の水田地帯	鳥類, 魚類	野生動植物のハビタット、生態系回廊(生態系コリドー)として重要。セッカの繁殖、ホオアカの繁殖、四郎丸地区はメダカの生息地。居久根は低地における鳥類の生息地及び移動のための中継地として重要。	1, 7, 8

表 3.3-4(2) 動物の重要な生息地 (2/4)

No.	地域名	対象	備考	判断理由
15	福田町の田園	鳥類	市街地の内部に残されたまとまった広がり確保された田園生態系として重要。環境学習のフィールドとして重要。かつてはマガン、その他水鳥の渡来地としての利用もあった。	5, 7
16	蒲生干潟	鳥類	仙台湾海浜県立自然環境保全地域、仙台湾海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区。自然度の高い砂洲と潟湖を主体とした河口干潟。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。シギ・チドリ類の渡りの中継地、コクガン渡来地。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 4, 5, 6, 8
17	井土浦及び東谷地	鳥類, 昆虫類	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。名取川河口左岸に発達する潟湖で、名取川や貞山運河を通じて塩水が出入りする。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。希少な種を含む猛禽類、シギ・チドリ類、トンボ類等の昆虫類の生息が見られる。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 4, 5, 6, 8
18	仙台湾海浜	哺乳類, 鳥類, 昆虫類	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として極めて重要になってきた。環境学習のフィールドとしても重要。海浜性昆虫が震災後に砂浜の拡大とともに増加したが、震災復興工事による砂浜消失等生息環境の悪化が懸念される。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 4, 5, 6, 8
19	貞山運河	潮間帯 動物	野生動植物のハビタットとして重要。多様な潮間帯動物の生息。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 2
20	泉ヶ岳から根白石への緑の回廊	動物 全般	市街地の北部に位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。根白石（朴沢・実沢・福岡）地区はNo. 34の西田中地区とともに環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている。	2, 8
21	奥羽山脈から大倉・芋沢丘陵地域への緑の回廊	動物 全般	市街地の中央部から北西にかけて位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2, 8
22	奥羽山脈から青葉山丘陵地域への緑の回廊	動物 全般	市街地の南部に位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2, 8
23	猩猩池	昆虫類	野生動植物のハビタットとして重要。メススジゲンゴロウの生息地として保護する必要がある。	4
24	植生の安定した山地生態系	動物 全般	県立自然公園船形連峰。野生動植物のハビタットとして重要。山地地域のブナ帯は植生が安定しており、哺乳類など大型動物をはじめとする良好な山地生態系が維持される地域としてとして保護する必要がある。	1, 2

表 3.3-4(3) 動物の重要な生息地 (3/4)

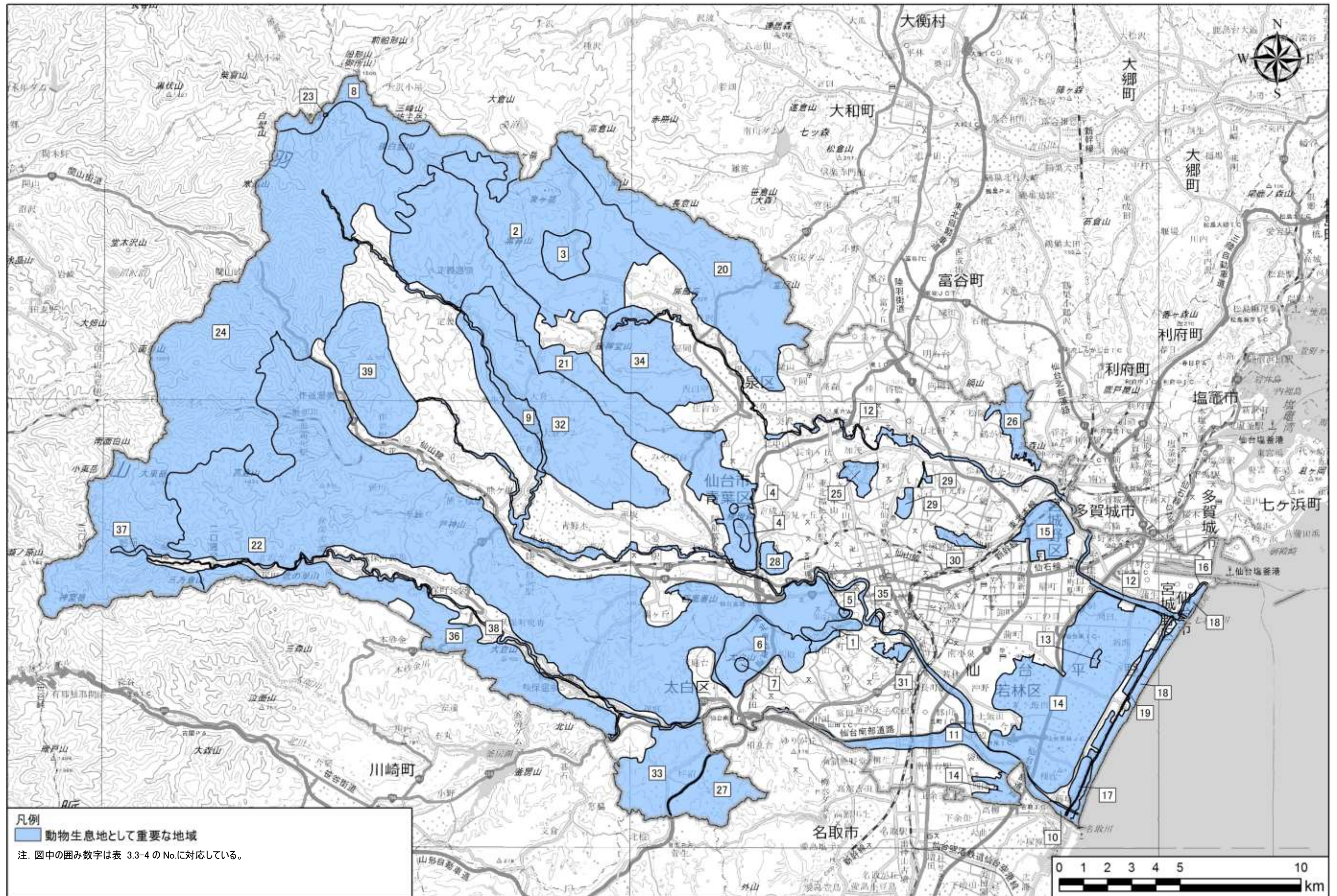
No.	地域名	対象	備考	判断理由
25	丸田沢緑地 (水の森公園)	動物全般	丸田沢緑地環境保全地域。市街地の中央に位置し、市街地に残された、池沼を含む緑地・公園である。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、生態系回廊 (生態系コリドー) として重要。	6, 7
26	県民の森	動物全般	市街地の北部に位置する緑地・公園である。鳥類の中継地、昆虫類の生息地、環境学習のフィールドとして重要である。	6, 7
27	高館, 千貫山	動物全般	市街地の南部に位置する緑地・公園である。市街地に残された動物の生息地、環境学習のフィールドとして重要である。	6, 7
28	葛岡墓園・荒巻の緑地	動物全般	権現森緑地環境保全地域。仙台市南東部で市街地に隣接する緑地、公園、墓園で、丘陵地域を象徴する里地・里山が残される。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、そして奥羽山地山麓部と、青葉山や広瀬川を繋ぐ緑地、生態系回廊 (生態系コリドー) として重要である。	6, 7
29	台原森林公園・真美沢公園	動物全般	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生であり、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要である。	1, 6, 7, 8
30	与兵衛沼公園	動物全般	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生であり、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要である。	1, 6, 7
31	大年寺	動物全般	大年寺風致地区。市街地の南部の段丘に残された、まとまりのある緑地であり、野生動植物のハビタットとして重要である。	1, 6, 7
32	奥武士・大倉地区	動物全般	市街地の西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されており、動植物のハビタットとして重要。水田やため池、山林、山地草原のススキ原等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、トウホクサンショウウオやヒメギフチョウなどの希少な動物の生息が確認されるほか、豊かな里地里山生態系のシンボルであるサンバの生息も確認されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	6, 7
33	坪沼地区	動物全般	市街地の南西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されており、動植物のハビタットとして重要。鎮守の森を中心に、農地やため池等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、ニホンリスなどの動物も確認されている。また良好な水辺環境が残されていることからホタル類の生息も確認されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7
34	西田中地区	動物全般	市街地の北西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されており、動植物のハビタットとして重要である。手入れの行き届いた二次林や植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、サンショウクイやアオハダトンボなどの希少な動物の生息が確認されるほか、豊かな里地里山生態系のシンボルであるサンバの生息も確認されている。No.20に含まれる根白石 (朴沢・実沢・福岡) 地域とともに環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている。	7

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.3-4(4) 動物の重要な生息地 (4/4)

No.	地域名	対象	備考	判断理由
35	霊屋	哺乳類	風致保安林。土砂崩壊防止保安林。伊達家廟に植林されたスギの大木林で、野生動植物のハビタットとして重要。	5, 6, 7
36	秋保地区	動物全般	県立自然公園二口峡谷。市街地の南西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されている。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。	5, 6, 7
37	磐司岩	鳥類	県立自然公園二口峡谷。蔵王国定公園(第一種特別地域)。3 km以上も続く高さ 150mに及ぶ断崖で、希少な鳥類が生息する。	1, 3, 4
38	名取川 (上～中流域)	鳥類 魚類	上流は蔵王国定公園，県立自然公園二口峡谷。野生動植物のハビタット，生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	2
39	作並地区	動物全般	県立自然公園船形連峰。市街地の西部に位置し、野生動植物のハビタット，生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	2

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。



この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.3-4 動物生息地として重要な地域

3.4 保全上重要な地形・地質のリスト及び分布図の更新

3.4.1 学術上重要な地形・地質・自然現象

本調査においては、表 3.4-1に示す文献を用いて、表 3.4-2及び図 3.4-5に示す34箇所を「学術上重要な地形・地質・自然現象」として選定した。

表 3.4-1に示す文献のうち、文献No.8「日本の典型地形，都道府県別一覧」（国土地理院技術資料D1-No. 357）は本調査で新たに追加した文献であり、これにより新たに15箇所を追加した。なお、除外した箇所はない。

表 3.4-1 使用文献一覧

文献 No.	文献名
1	すぐれた自然図(宮城県) －第1回自然環境保全基礎調査(すぐれた地形・地質・自然環境) (1975-76 環境庁)
2	仙台市教育委員会資料 (文化財関係資料)
3	日本の地形レッドデータブック(1994 小泉武栄・青木賢人著) 3-1:日本の地形を代表する典型的かつ希少,貴重な地形 3-2:3-1に準じ,地形学の環教育上重要な地形もしくは地学の研究の進展に伴って新たに注目したほうがよいと考えられる地形 3-3:多数存在するが,なかでも典型的な形態を示し,保存することが望ましいもの 3-4:動物や植物の生育地として重要な地形
4	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域,権現森緑地環境保全地域学術調査報告書 (1985 宮城県)
5	太白山県自然環境保全地域学術調査報告書(1985 宮城県)
6	宮城の自然をたずねて－日曜の地学 18 (1991 竹内貞子編著)
7	新編日本の活断層 (1991 活断層研究会)
8	日本の典型地形,都道府県別一覧 (1999 国土地理院技術資料 D1-No. 357)

表 3.4-2(1) 学術上重要な地形・地質・自然現象 (1/3)

No.	名称	選定理由	概要	文献 No.
1	船形山	第四紀火山地形の典型例	船形連峰県立自然公園。奥羽脊梁山脈にのる第四紀火山。山体は大きい、あまり急峻ではない。泉ヶ岳等寄生火山が多い。	1 8
2	磐司	溶岩層の浸食による絶壁の典型例	国指定名勝。名取川上流は、第四紀火山の大東岳がグリーンタフの上に火山噴出物をのせている。溶岩層は浸食に対して垂直の壁をつくって後退するため、険しい絶壁を呈している。	1 2 8
3	姉滝	滝の典型例	国指定天然記念物。名取川本流にかかる落差約 10m の滝。滝は造爆層の上流川から流れ落ち、かつては天然橋をつくっていたが、これはくずれおちた。	1 2
4	秋保大滝	滝の典型例	県立自然公園二口峡谷。国指定名勝。名取川本流にかかる落差約 55m の滝。	1 2 8
5	蕃山丘陵	丘陵地形の典型例で学術上重要、かつ動植物の重要な生育地	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域。新第三紀火山岩類から成る典型的な丘陵地形。植生景観や各種動物生息地としても重要で、市街地に隣接して優れた自然地形を保持している地域である。	3-2 3-4 4
6	太白山とその周辺の丘陵地	岩頸・丘陵地形の典型例、かつ、動植物の重要な生育地	太白山県立自然環境保全地域。新第三紀の火山岩から成る突出丘(岩頸)と、その周囲の半固結堆積岩類から成る稜線高度のそろった丘陵。斜面はコナラなどの二次林やスギ、アカマツの人工林に覆われ、狭い開析谷には一部に水田が残存するなど、丘陵地の典型的な地形景観が残されている。また、付近(西方)にある類似の岩頸は採石で破壊された。	1 3-3 3-4 5 8
7	青葉山丘陵と竜ノ口溪谷及びその下流部	丘陵地形・峡谷・風隙の典型例で学術上重要、かつ動植物の重要な生育地	広瀬川の清流を守る条例による特別環境保全地域。国指定天然記念物(青葉山)。中部更新統風化礫層の堆積面に起源をもつ典型的な丘陵地形と、それを切り、鮮新統半固結堆積岩類が露出した峡谷、及びかつてはその下流部にあたり、河川争奪により風隙化した凹地が、市街地に接して(一部は市街地の中に)みられる。	1 3-2 3-4 8
8	霊屋下セコイヤ類化石林	化石産地	市指定天然記念物。霊屋橋の下流に、300 万年以前のセコイヤ類の大森林が火山灰に埋められて化石となったもの。	2
10	井土浦・名取川河口・七北田川河口など	潟湖・河口干潟・砂浜海岸の典型例、かつ、動植物の重要な生息地	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。潟湖、河口干潟、(近世の)運河などを伴う砂浜海岸。植生的にも、また、鳥類の生息地としても重要である。	3-3 3-4 8
11	月山池・サイカチ沼	丘陵地内の湖沼景観	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域。農業用溜池としてつくられた人工湖であるが、右岸側に自然がよく保たれており、左岸からの対岸景にすぐれる。周辺の丘陵地は改変が比較的容易な地形のため、人工改変地の無秩序な連続の防止と水・土砂の流出のコントロールの面からも重要である。	4
12	明石三高ヶ森	岩頸群と自然の形状をとどめる丘陵	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域。新第三紀に貫入した安山岩の火道を起源とする亀ヶ森、中の森、鹿の上山の三高ヶ森と、その北側にある自然の形状をよくとどめた脊頂丘陵から成る。岩頸はきわめて目につきやすい。一部では採石による破壊が進行している。	4
13	権現森	自然状態をとどめる丘陵地形	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域。起伏が大きく、硬質の岩石から成る丘陵地形。市街地の無秩序な広がり防止し、仙台の景観構成の自然のアクセントとなっている。南端には、層理の発達した露岩の岩傘がある。	4

表 3.4-2(2) 学術上重要な地形・地質・自然現象 (2/3)

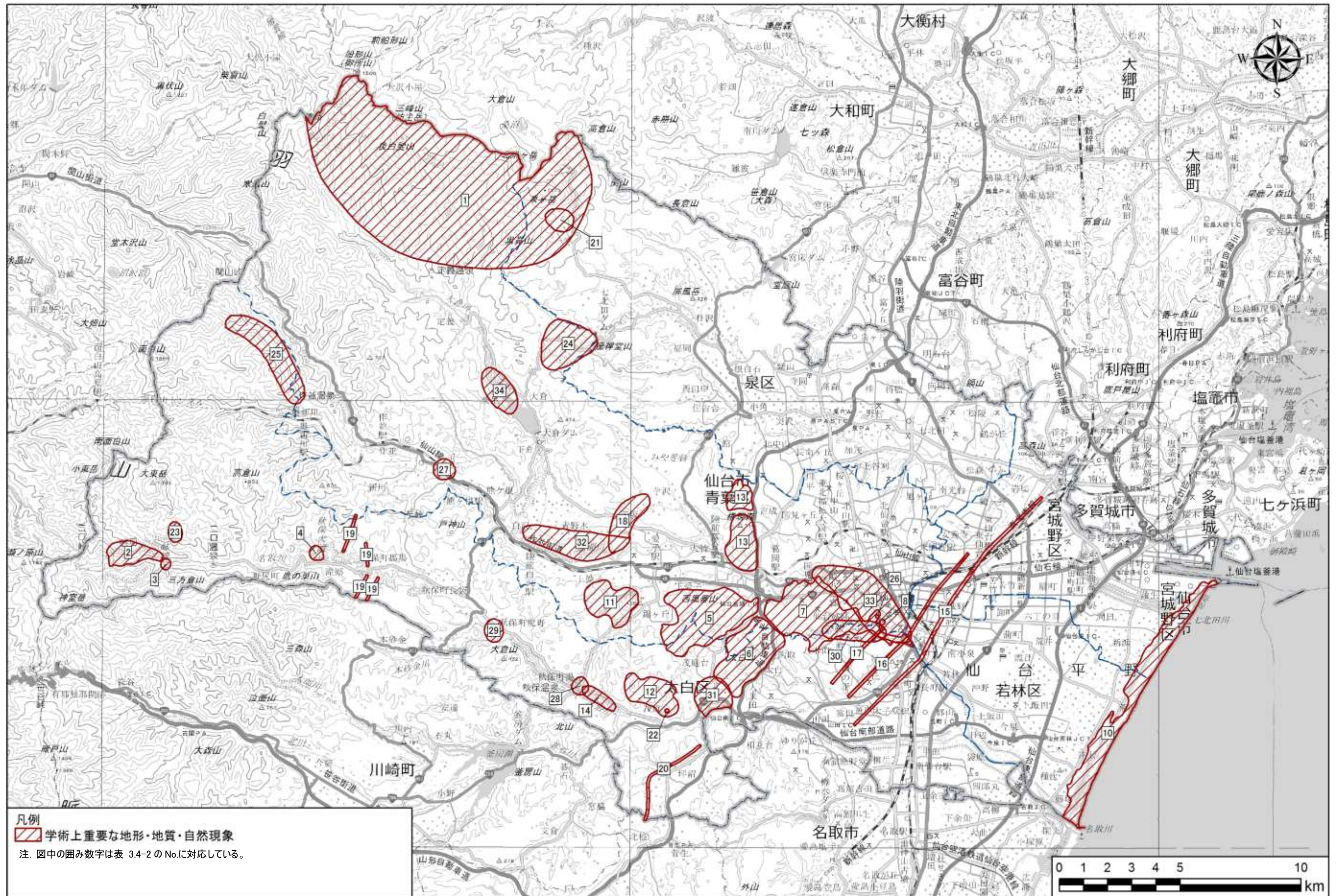
No.	名称	選定理由	概要	文献 No.
14	秋保	石材	秋保石は、凝灰角礫岩で耐久性や耐火性、防水性に優れ、軽量であるため土台石、石塀及び蔵などの建物の外壁材として採石場で切り出され利用された。仙台近郊の戦前からの建物などには外壁、塀、階段など、様々な部分に見つけることができる。現存する大型建築の代表は、昭和7年(1932年)建築の東北学院大学土樋キャンパス・ラーハウザー記念礼拝堂。似た岩石では、栃木県の大谷石が有名で県内では塩釜石、野蒜石などがある。	6
15	長町・利府	活断層地形	宮城郡利府町放森付近から仙台市太白区長町を経て太白区富田付近に至る長さ約17km、活動度がB級の活断層である。本断層は、北東-南西方向の走向を示す北西上がりの逆断層で、断層崖及び低断層崖を含む撓曲崖の崖線に沿っているとされている。また、本断層の北西側(断層上盤側)は、仙台市宮城野区鶴ヶ谷付近から榴ヶ岡を経て、太白区の大年寺山南西方向へと連なる隆起帯を形成している。さらに、この隆起帯(台地~丘陵)南東翼部では鮮新統が最大約45°、青葉山段丘の礫層が約22°南東方に傾斜するといった新期の地層の変形が報告されている。	7 8
16	大年寺山	活断層地形	仙台市宮城野区清水沼付近から太白区三神峯に至る長さ約8km、活動度B級の活断層である。本断層は、北東-南西方向の走向を示す南東上がりの逆断層で、逆むき低断層崖に沿って認められている。大年寺山南東側の二ツ沢において、断層露頭(断層の走向・傾斜：N73°E・25°SE)が見られる。	7 8
17	鹿落坂	活断層地形	鹿落坂付近から金剛沢付近にかけて認められる直線谷及び南東上がりの逆むき低断層崖に沿って分布している。本断層は広瀬川河岸では向山層に約12m垂直変位、八木山松波町付近では青葉山段丘面Ⅲに約6m垂直変位をあたえている。本断層の長さは、鹿落坂付近から金剛沢付近までの約4.2kmである。本断層は、青葉山段丘面の形成する平坦面を基準として、0.03約mm/年で、活動度はCクラスに属する。	7 8
18	愛子	活断層地形	NS方向に断層崖及び地塁状の高まりを伴う長さ約2km、活動度Bで、平均変位速度0.4m/1000年である。	7 8
19	作並・屋敷平	活断層地形	NNNE方向に地塁状の高まりを伴う長さ約9km、活動度Cである。	7 8
20	坪沼・円田断層	活断層崖(横ずれ含む)	典型的な活断層崖(横ずれ含む)として選定。	8
21	兎平(泉ヶ岳火山)	溶岩台地	船形連峰県立自然公園。典型的な溶岩台地として選定。	8
22	亀ヶ森	火山岩類	県緑地環境保全地域。典型的な火山岩類として選定。砕石採取により劣化が進行している。	8
23	北石橋	天然橋・岩門・石門	蔵王国定公園、県立自然公園二口峡谷。典型的な天然橋・岩門・石門として選定。	8

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.4-2(3) 学術上重要な地形・地質・自然現象 (3/3)

No.	名称	選定理由	概要	文献 No.
24	菖蒲沼	地すべり地	農地・村地・小集落が混在する典型的な地すべり地として選定。	8
25	北沢	ナメ・淵	県立自然公園二口峡谷。広瀬川の支流新川川の源流部の典型的なナメ・淵として選定。	8
26	虚空蔵淵	ナメ・淵	市街地に隣接する典型的なナメ・淵として選定。	8
27	鳳鳴四十八滝	甌穴群（ポットホール）	広瀬川流域の典型的な甌穴群（ポットホール）として選定。	8
28	磊々峡	甌穴群（ポットホール）	名取川流域の典型的な甌穴群（ポットホール）として選定。	8
29	秋保長袋付近	環流丘陵	名取川流域の典型的な環流丘陵として選定。	8
30	古竜ノ口川	風隙	広瀬川の清流を守る条例による特別環境保全地域。典型的な風隙として選定。	8
31	茂庭付近	河岸段丘及び段丘崖	名取川流域の典型的な河岸段丘及び段丘崖として選定。	8
32	愛子盆地の広瀬川左岸一帯	河岸段丘及び段丘崖	広瀬川・大倉川流域の典型的な河岸段丘及び段丘崖として選定。	8
33	広瀬川（牛越橋上流～愛宕橋間）	瀬	広瀬川流域の典型的な瀬（瀬・淵の繰り返し）として選定。	8
34	大倉ダム湖畔	厚い段丘礫層	県立自然公園船形連峰。典型的な厚い段丘礫層（後期更新世河成段丘）として選定。	8

注 1. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。



この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.4-5 学術上重要な地形・地質・自然現象分布図

3.4.2 自然景観資源

自然景観資源に着目し、表 3.4-3の資料から93箇所を選定した。選定した自然景観資源の内容を表 3.4-4に、位置を図 3.4-6に示した。なお、第3回調査（平成22（2010）年）から変更はない。

・自然環境情報図(宮城県)

－第3回自然環境保全基礎調査(自然景観資源)(1989 環境庁)

表 3.4-3 使用文献一覧

文献 No.	文献名
1	自然環境情報図(宮城県) －第3回自然環境保全基礎調査(自然景観資源)(1989 環境庁)

表 3.4-4(1) 自然景観資源一覧 (1/6)

No.	件名	種別	概要	見られ方	インパクト	文献
1	御所山火山 (船形山火山)	火山群	第三紀火山の間に新しい第四紀火山が噴出したもの。緩やかで広大な斜面をもつ山岳の集合である。最高標高 1500.2m, 最低標高 560m。主な峰: 船形山(1,500.2m), 後白髪山(1,422.5m), 三峰山(1,417.6m)。	-	-	1: A1-01-05
2	面白山火山	火山群	第3紀の火山群で、開発が進み、急峻な地形が刻まれている。最高標高 1344.2m 最低標高 880m。主な峰: 面白山(1,284.4m), 南面白山(1,225.4m), 小東岳(1,227.6m), ハマグリ山(1,344.2m), 瀬ノ原山(1,182.2m)。	遠	人の立入り	1: A1-01-06
3	黒鼻山	火山	県立自然公園船形連峰。泉ヶ岳から南方に延びる台地状の古い火山。三峰山, 後白髪山の山腹を覆う水平線を形成し, 船形連峰の景観に変化を与えている。溶岩円頂丘。標高 842.9m, 比高 262m。	近 中 遠	周辺の開発	1: A1-02-08
4	後白髪山	火山	仙台市街地からみると泉ヶ岳, 三峰山とならんで船形連峰の景観の主たる構成要素。溶岩円頂丘。標高 1,422.5m, 比高 740m。	近 中 遠	農林業開発 道路開発	1: A1-02-09
5	泉ヶ岳	火山	県立自然公園船形連峰。三峰山, 後白髪山とならんで, 仙台市街地からみる船形連峰の主たる構成要素。市街地に最も近い 1,000m 級の山岳で, 仙台の景観において最も大きな意味を持つ。溶岩円頂丘。標高 1,172.0m, 比高 592m。	近 中 遠	観光開発	1: A1-02-10
6	北泉ヶ岳	火山	県立自然公園船形連峰。溶岩円頂丘。標高 1,253.1m, 比高 433m。	近 中 遠	農林業開発 道路開発	1: A1-02-11
7	三峰山	火山	県立自然公園船形連峰。泉ヶ岳, 後白髪山とならんで, 仙台市街地からみる船形連峰の主たる構成要素。溶岩円頂丘。標高 1,417.6m, 比高 617m。	近 中 遠	農林業開発 道路開発	1: A1-02-12
8	蛇ヶ岳	火山	県立自然公園船形連峰。溶岩円頂丘。標高 1,400.0m, 比高 520m。	近 中 遠	特になし	1: A1-02-13

表 3.4-4(2) 自然景観資源一覧 (2/6)

No.	件名	種別	概要	見られ方	インパクト	文献
9	面白山	火山	シャープな双耳峰で、2つの峰を結ぶ稜線は典型的な非対象山稜を示す(No.27 参照)。成層火山。標高 1,284.4m, 比高 444.4m。	遠		1: A1-02-21
10	南面白山	火山	成層火山。標高 1,225.5m, 比高 325m。	遠	人の立入り	1: A1-02-23
11	小東岳	火山	山頂は市域外。成層火山。標高 1,227.6m, 比高 347.6m。	遠	特になし	1: A1-02-24
12	ハマグリ山	火山	山形神室岳又は最上神室岳。山頂は市域外。成層火山。標高 1,344.0m, 比高 544m。	遠	人の立入り	1: A1-02-25
13	瀬ノ原山	火山	山頂に平坦面が残る。山頂は市域外。成層火山。標高 1,140.0m, 比高 240m。	遠	人の立入り	1: A1-02-27
14	小屋森山	非火山性孤峰	県立自然公園船形連峰。安山岩の岩頸。泉ヶ岳と東の七ッ森の間にあり、長倉山、蘭山等とともに、さほど高くはないが極めて目立つ山並みを連ねている。標高 386m, 比高 140m。	近中遠	特になし	1: A2-05-14
15	長倉山の西方約 500m	非火山性孤峰	県立自然公園船形連峰。安山岩の岩頸。泉ヶ岳と東の七ッ森の間にあり、長倉山、蘭山等とともに、さほど高くはないが極めて目立つ山並みを連ねている。標高 425m, 比高 120m。	近中遠	農林業開発 道路開発	1: A2-05-16
16	長倉山	非火山性孤峰	県立自然公園船形連峰。安山岩の岩頸。泉ヶ岳と東の七ッ森の間にあり、小屋森山、蘭山等とともに、さほど高くはないが極めて目立つ山並みを連ねている。標高 497.8m 比高 200m。	近中遠	農林業開発 道路開発	1: A2-05-17
17	蘭山	非火山性孤峰	県立自然公園船形連峰。安山岩の岩頸。泉ヶ岳と東の七ッ森の間にあり、小屋森山、長倉山等とともに、さほど高くはないが極めて目立つ山並みを連ねている。標高 760.8m, 比高 280m。	近中遠	特になし	1: A2-05-19
18	中の森	非火山性孤峰	県緑地環境保全地域。北赤石にある火山岩頸。鹿の上山、亀ヶ森とあわせて三高ヶ森とよばれる。円錐形の山が3つ並んでそびえ、中央の中の森にはさまざまな神がまつられている。標高 295m, 比高 135m。	近中遠	特になし	1: A2-05-31
19	鹿の上山	非火山性孤峰	県緑地環境保全地域。北赤石にある火山岩頸。中の森、亀ヶ森とあわせて三高ヶ森とよばれる。標高 326m 比高 160m。	近中遠	農林業開発	1: A2-05-32
20	太白山	非火山性孤峰	太白山県自然環境保全地域。青葉山丘陵西方にそびえる端正な三角錐の火山岩頸。仙台のシンボル。標高 320.7m, 比高 180m。	近中遠	道路開発 周辺の開発	1: A2-05-33
21	西風藩山	非火山性孤峰	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域。蕃山、西風蕃山、蛇体蕃山、萱ノ森が連なる。モミ-イヌブナ林等の自然がよく残っている。標高 379.2m, 比高 219m。	近中遠	人の立入り 道路開発 周辺の開発	1: A2-05-34
22	権現森	非火山性孤峰	権現森緑地環境保全地域。国見丘陵の中で最も目立つ山。周辺の開発が著しく島状に残っている。標高 313.7m, 比高 113m。	近中遠	人の立入り 周辺の開発	1: A2-05-35
23	大倉山	非火山性孤峰	県立自然公園二口峡谷。標高 432.7m, 比高 212m。	近中遠	道路開発	1: A2-05-56
24	高倉山	非火山性孤峰	県立自然公園二口峡谷。標高 853.0m, 比高 212m。	近中	農業開発 道路開発	1: A2-05-57
25	戸神山	非火山性孤峰	県立自然公園二口峡谷。白沢峠の西にそびえる火山岩頸。山頂からの眺望にもすぐれる。標高 504.4m, 比高 144m。	近中遠	農林業開発 道路開発	1: A2-05-58
26	鎌倉山	非火山性孤峰	県立自然公園二口峡谷。火山岩頸で、中腹から山頂にかけて岩頸をなす。古くから一帯の名勝として知られる。標高 520.0m, 比高 240m。	近中遠	人の立入り	1: A2-05-59

表 3.4-4(3) 自然景観資源一覧 (3/6)

No.	件名	種別	概要	見られ方	インパクト	文献
27	面白山	非対象山稜	県立自然公園二口峡谷。頂上稜線部は典型的な非対象山稜をなす。標高 1,264.4m。	近中	特になし	1: A2-08-02
28	寒風山	非対象山稜	県立自然公園船形連峰。標高 1,117.3m。	近中	特になし	1: A2-08-03
29	屏風・鎌沢ノ原	非対象山稜	蔵王国定公園。	近中	特になし	1: A2-08-05
30	岩傘山	断崖・岩壁	権現森の南、仙山線沿いにある露岩で、斜めに走る層理が発達。国道 45 号線等からよく見える。比高 60m, 延長 150m。	近中遠	特になし	1: A2-12-01
31	見当山	断崖・岩壁	県立自然公園船形連峰。比高 100m, 延長 120m。	近中	特になし	1: A2-12-15
32	日陰磐司岩	断崖・岩壁	蔵王国定公園。神室東稜の北面にある岩帯。比高 120m, 延長 2,700m。	近中	特になし	1: A2-12-18
33	磐司岩	断崖・岩壁	蔵王国定公園。国指定名勝。磐司尾根南面の見ごたえのある巨大な岩壁。二口街道とよばれた二口沢林道よりよく眺められる。周辺には、裏磐司、日陰磐司、太郎磐司等、岩質や形状の共通した岩帯が方々に見られる。比高 180m, 延長 3,200m。	近中遠	特になし	1: A2-12-19
34	裏磐司岩	断崖・岩壁	蔵王国定公園。磐司尾根の北面の岩帯。比高 150m, 延長 1,100m。	近中	特になし	1: A2-12-20
35	大東岳南面	断崖・岩壁	蔵王国定公園。比高 200m, 延長 1,000m。	中	特になし	1: A2-12-21
36	オビス岩(上段)	断崖・岩壁	県立自然公園二口峡谷。大東岳を取巻く斜面の露岩帯。比高 140m, 延長 500m。	近中遠	特になし	1: A2-12-22
37	高倉山南面	断崖・岩壁	県立自然公園二口峡谷。比高 100m, 延長 200m。	近中	農林業開発	1: A2-12-23
38	オビス岩(下段)	断崖・岩壁	県立自然公園二口峡谷。大東岳を取巻く斜面の露岩帯。比高 120m, 延長 700m。	近中遠	農林業開発	1: A2-12-24
39	仙台カゴ	断崖・岩壁	県立自然公園船形連峰。大倉川以西の脊梁部の山は岩峰をなすものが多いが、その中でも特に見事なもの。比高 70m, 延長 100m。	近中遠	特になし	1: A2-12-29
40	竜ノ口溪谷	峡谷・溪谷	広瀬川の河川争奪で形成された。滝の口溪谷に露出する滝の口層は、化石に富み、周辺の植生も良好に保たれている。延長 2.6 km, 巾 200m, 深さ 100m。	近中	人の立入り 汚染物質の侵入	1: B1-01-07
41	大倉川	峡谷・溪谷	県立自然公園船形連峰。赤倉沢の出合～最上流の鬼口沢の 1.7 km 区間や笹木沢が特に優れている。延長 12.6 km, 巾 100～500m, 深さ 150～250m。	近中	農林業開発 道路開発	1: B1-01-19
42	長谷倉川	峡谷・溪谷	県立自然公園船形連峰。延長 2.2 km, 巾 150m, 深さ 100m。	近中	農林業開発 道路開発	1: B1-01-20
43	横川溪谷	峡谷・溪谷	県立自然公園船形連峰。県内で最も険しい溪谷で、多くの滝がかかる。延長 2.0 km, 巾 200～300m, 深さ 200～300m。	近中	周辺の開発	1: B1-01-21
44	碁石川溪谷	峡谷・溪谷	延長 2.5 km, 巾 200～300m, 深さ 100～200m。	近中	特になし	1: B1-01-26
45	磊々峡	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷。巨石を刻んで流れる峡谷。延長 1.9 km, 巾 100m, 深さ 50～80m。	近中	道路開発 観光開発 周辺の開発	1: B1-01-27
46	名取川支流本砂金川	峡谷・溪谷	延長 3.2 km, 巾 100～200m, 深さ 50～150m。	近中	特になし	1: B1-01-28
47	名取川中流大滝付近	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷。延長 3.2 km, 巾 200～300m, 深さ 50～150m。	近中	道路開発 観光開発	1: B1-01-29

表 3.4-4(4) 自然景観資源一覧 (4/6)

No.	件名	種別	概要	見られ方	インパクト	文献
48	二口溪谷	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷，蔵王国定公園。大行沢と二口沢から成る。大行沢は，上半部は滑状の美しい沢床の明るい溪谷で，二口沢は屈曲の少ないV字谷。二口沢には，磐司，姉滝，妹滝，石橋等がある。延長 11.4 km 巾 200～400m，深さ 200～350m。	近中	人の立入り 道路開発	1： B1-01-30
49	穴道沢溪谷	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷。東大第の北面及び東面を源頭とする。大東岳東面の壮大な壁を眺めることができる。延長 4.8 km，巾 200～350m，深さ 100～250m。	近中	農林業開発	1： B1-01-31
50	新川， 奥新川溪谷	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷。奥新川の上流の北沢上流は小滝が数多く連なる。南沢の金剛沢は多くの滝が連なり，岩象沢は沢全体が滑状。新川は，釜，淵，河床滝と変化に富み，特に八森付近の景観がすぐれる。延長 18.0 km，巾 300～600m，深さ 100～300m。	近中遠	人の立入り 農林業開発 道路開発	1： B1-01-32
51	仙台市白沢・ 広瀬川中流付近	峡谷・溪谷	延長 3.9 km，巾 80～150m，深さ 80～100m。	近中	周辺の開発	1： B1-01-33
52	広瀬川中流 熊ヶ根棒目木間	峡谷・溪谷	棒目木付近では，狭い地形の中を流れ，垂直的变化が大きく，大小の滝が連なる。延長 3.8 km，巾 200～300m，深さ 100～200m。			1： B1-01-34
53	大倉川 大倉ダム下流	峡谷・溪谷	延長 1.0 km，巾 200m，深さ 100～150m。	近中	その他の開発	1： B1-01-35
54	根白石 七北田川中流	河成段丘	県立自然公園船形連峰。段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。延長 5.0 km，比高 30～80m，段数 1。	近中	農林業開発 道路開発	1： B1-02-01
55	仙台市北赤石 名取川畔	河成段丘	段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。延長 4.1 km，比高 40m，段数 1。	近中	農林業開発 観光開発 周辺の開発	1： B1-02-02
56	落合・愛子・ 白沢広瀬川畔	河成段丘	数段にわたる典型的な河成段丘の景観。段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。延長 13.0 km，比高 50～100m，段数 4～5。	近中遠	農林業開発 観光開発	1： B1-02-03
57	広瀬川上流 新川畔	河成段丘	県立自然公園二口峡谷。延長 3.8 km，比高 50m，段数 1。	近中遠	農林業開発 観光開発	1： B1-02-04
58	仙台市霊屋 広瀬川面	断崖・岩壁	河崖，斜面のみどり，山上の生地を覆う杜等は，すぐれた自然景観であると同時に歴史的景観でもある。堆積層。新第三紀仙台層群。延長 600m，比高 80m。	近中	人の立入り その他 (水蝕による崩壊)	1： B1-05-01
59	仙台市広瀬町・ 広瀬川崖	断崖・岩壁	堆積層。新第三紀仙台層群。延長 500m，比高 60m。	近中	水辺の開発	1： B1-05-02
60	大倉川定義付近	断崖・岩壁	県立自然公園船形連峰。柱状安山岩。延長 200m，比高 100m。	中	特になし	1： B1-05-03
61	定義・材木岩	断崖・岩壁	県立自然公園船形連峰。柱状安山岩。延長 600m。	近	農林業開発	1： B1-05-04
62	白岩	断崖・岩壁	県立自然公園二口峡谷。凝灰岩。延長 1,000m，比高 100m。	近中	特になし	1： B1-05-05
63	白岩(上流)	断崖・岩壁	県立自然公園二口峡谷。凝灰岩。延長 900m，比高 60m。	近中	特になし	1： B1-05-06
64	大倉川・ 笹木沢合流点	滝	県立自然公園船形連峰。本流滝，一文字状，落差 20m。	近	特になし	1： B1-10-15
65	鎧ノ滝	滝	県立自然公園船形連峰。滝や釜が連続する笹木沢の中でも圧巻。階段状のユニークな滝。本流滝，多段，落差 20m。	近	特になし	1： B1-10-16

表 3.4-4(5) 自然景観資源一覧 (5/6)

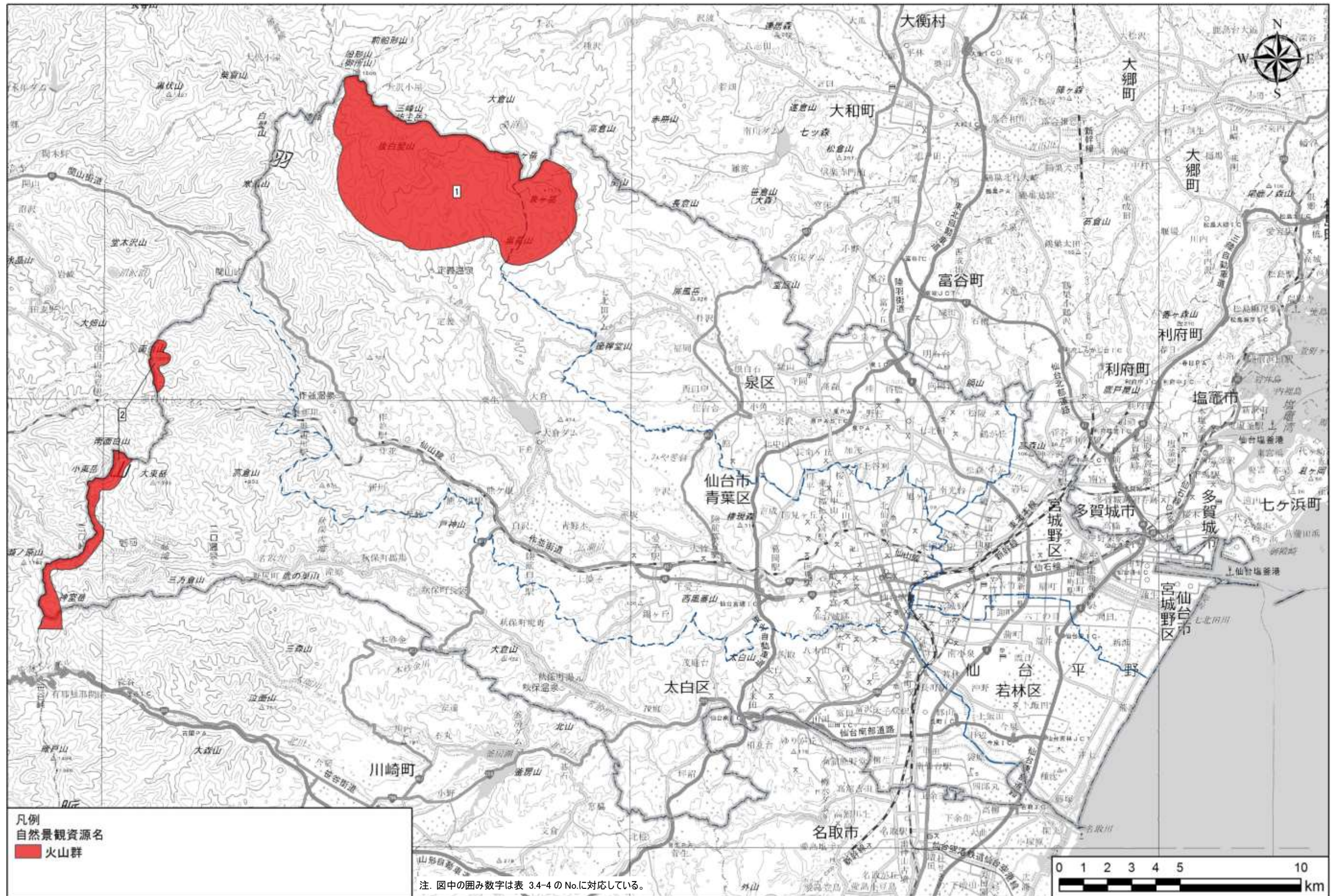
No.	件名	種別	概要	見られ方	インパクト	文献
66	二条の滝	滝	県立自然公園船形連峰。県内で最も典型的な二条の滝で美しい。横川渓谷にある。本流滝，一文字状，落差 20m。	近	特になし	1: B1-10-17
67	大倉川本流上流域	滝	県立自然公園船形連峰。本流滝，一文字状，落差 7m。	近	-	1: B1-10-18
68	泣虫沢トラ滝	滝	蔵王国定公園。本流滝，多段，落差 15m。	近	特になし	1: B1-10-26
69	妹滝	滝	蔵王国定公園。姉滝と並んで，三方倉沢にかかる。懸谷滝，滑，落差 15m。	近	特になし	1: B1-10-27
70	姉滝(穴滝)	滝	蔵王国定公園。国指定天然記念物。二口大沢の本流にかかる。かつては天然橋の穴から落下していたが，崩壊した。本流滝，一文字状，落差 20m。	近	特になし	1: B1-10-28
71	白糸ノ滝	滝	蔵王国定公園。二口渓谷の支流にかかる。懸谷滝，滑，落差 120m。	中	特になし	1: B1-10-29
72	秋保大滝	滝	本流滝，一文字状，落差 55m。	近	特になし	1: B1-10-30
73	梯子滝	滝	蔵王国定公園。二口渓谷大行沢の京淵沢にかかる。	近	特になし	1: B1-10-31
74	白滝	滝	蔵王国定公園。二口渓谷大行沢にかかる。本流滝，一文字状，落差 30m。	中	-	1: B1-10-32
75	雨滝	滝	蔵王国定公園。二口渓谷大行沢に合流する沢にかかる。懸谷滝，滑，落差 35m。	近	特になし	1: B1-10-33
76	名取川支流穴道沢中部	滝	県立自然公園二口峡谷。本流滝，一文字状，落差 30m。	近	-	1: B1-10-34
77	大東滝	滝	蔵王国定公園。本流滝，一文字状，落差 80m。	中	特になし	1: B1-10-35
78	名取川支流穴道沢上流部	滝	県立自然公園二口峡谷。本流滝，一文字状，落差 20m。	近	農林業開発	1: B1-10-36
79	シシ滝	滝	蔵王国定公園。本流滝，一文字状，落差 20m。	近	特になし	1: B1-10-37
80	黒髪ノ滝	滝	県立自然公園二口峡谷。安山岩質の岩壁をスダレ状に伝い落ちる神秘的な滝。奥新川の南沢にある。懸谷滝，分散・滑，落差 40m。	近	特になし	1: B1-10-38
81	奥新川四ノ沢	滝	県立自然公園二口峡谷。四ノ沢は，奥新川南沢に流れ込む沢で，小滝が多い。懸谷滝，滑，落差 15m。	近	農林業開発	1: B1-10-39
82	奥新川南沢	滝	県立自然公園二口峡谷。本流滝，一文字状，落差 15m。	近	特になし	1: B1-10-40
83	広瀬川中流棒目木	滝	県立自然公園二口峡谷。通称鳳鳴の滝。作並-屋敷平断層線の走る位置にかかる。本流滝，一文字状，落差 30m。	近	特になし	1: B1-10-41
84	銚子ノ滝	滝	蔵王国定公園。本流滝，一文字状，落差 35m。	遠	特になし	1: B1-10-49
85	南石橋	天然橋・岩門・石門	蔵王国定公園。二口渓谷二口沢の泣虫沢上部にある。柔らかな岩層が歐穴と同様に穴をあけ，発達したとみられる。橋状，比高 6m，穴径 3m。	近	特になし	1: B1-11-01
86	北石橋	天然橋・岩門・石門	蔵王国定公園。二口渓谷大行沢の支流カケス沢上部にある。固い岩層と柔らかい岩層の間をえぐっている。石橋の上にはブナ等の樹木が生え，歩いて渡ることができる。橋状，比高 20m，穴径 7m。	近	特になし	1: B1-11-02
87	蒲生干潟	湖沼	仙台湾海浜県自然環境保全地域。潟湖。面積 48,000 m ² ，湖岸線延長 2,700m。	近中	人の立入り道路開発周辺の開発	1: B2-01-11

表 3.4-4(6) 自然景観資源一覧 (6/6)

No.	件名	種別	概要	見られ方	インパクト	文献
88	井土浦	湖沼	仙台湾海浜県自然環境保全地域。貞山堀の陸側（東谷地）には大規模なヨシ原が存在したが、東日本大震災の影響により干潟出現した。潟湖。面積 270,000 m ² 、水深 1.4m、湖岸線延長 4,900m。	近中	人の立入り 道路開発 水辺の開発 周辺の開発 ゴミの投棄	1: B2-01-13
89	大沼	湖沼	県立自然公園船形連峰。低地湖沼。標高 370m、面積 10,000 m ² 、湖岸線延長 350m。	近	農林業開発	1: B2-01-36
90	猩々池	湖沼	県立自然公園船形連峰。周囲はブナの原生林におおわれ、モリアオガエルが多数生息するなど、すぐれた山地湖沼景観を呈する。地すべり湖。標高 955m、面積 10,000 m ² 、湖岸線延長 350m。	近	特になし	1: B2-01-37
91	作並大沼	湿原	県立自然公園船形連峰。低層湿原。面積 13ha、外周長 1,270m。	近	人の立入り 農林業開発 水辺の開発	1: B2-02-06
92	仙台湾砂浜海岸 (深沼海岸)	砂浜・ 磯浜	仙台湾海浜県自然環境保全地域。山元町から続く砂浜海岸の一部。名取川河口から七北田川河口まで。砂浜の内陸側には、クロマツ林（震災により大部分が壊滅）、貞山堀がある。砂浜。延長 9.5 km、巾 60m。	近中 遠	人の立入り 道路開発 水辺の開発 周辺の開発	1: B3-07-08
93	長浜	砂浜・ 磯浜	仙台湾海浜県自然環境保全地域。国指定鳥獣保護区。山元町から続く砂浜海岸の一部。七北田川河口より北。内陸側には、蒲生干潟 (No. 87) がある。砂浜。延長 1.9 km、巾 30m。	近中 遠	人の立入り 道路開発 水辺の開発 周辺の開発	1: B3-07-09

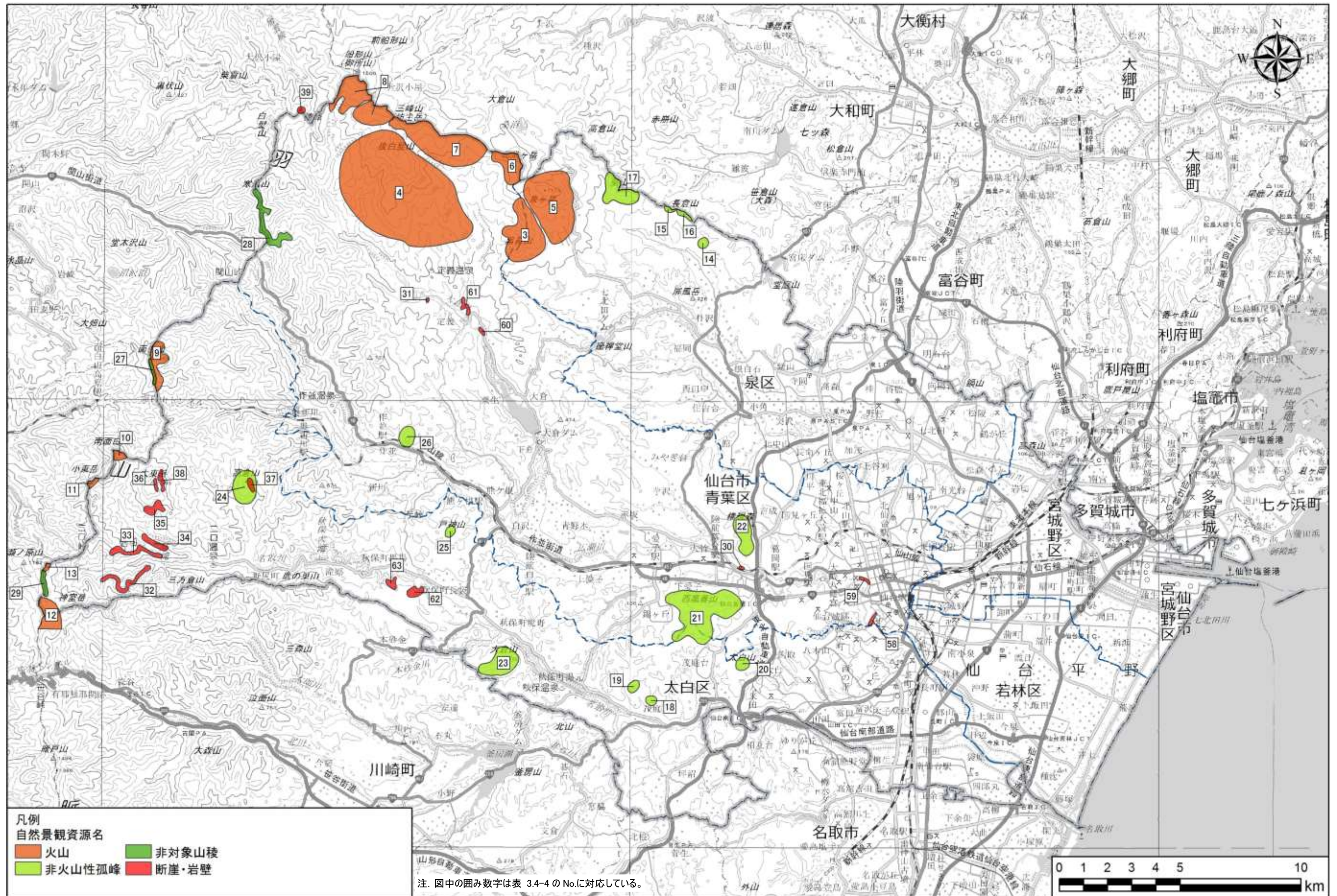
文献) 1 : 自然環境情報図(宮城県)―第3回自然環境保全基礎調査(自然景観資源)(1989 環境庁)

(文献欄の後の番号は、同報告書中の対象番号)



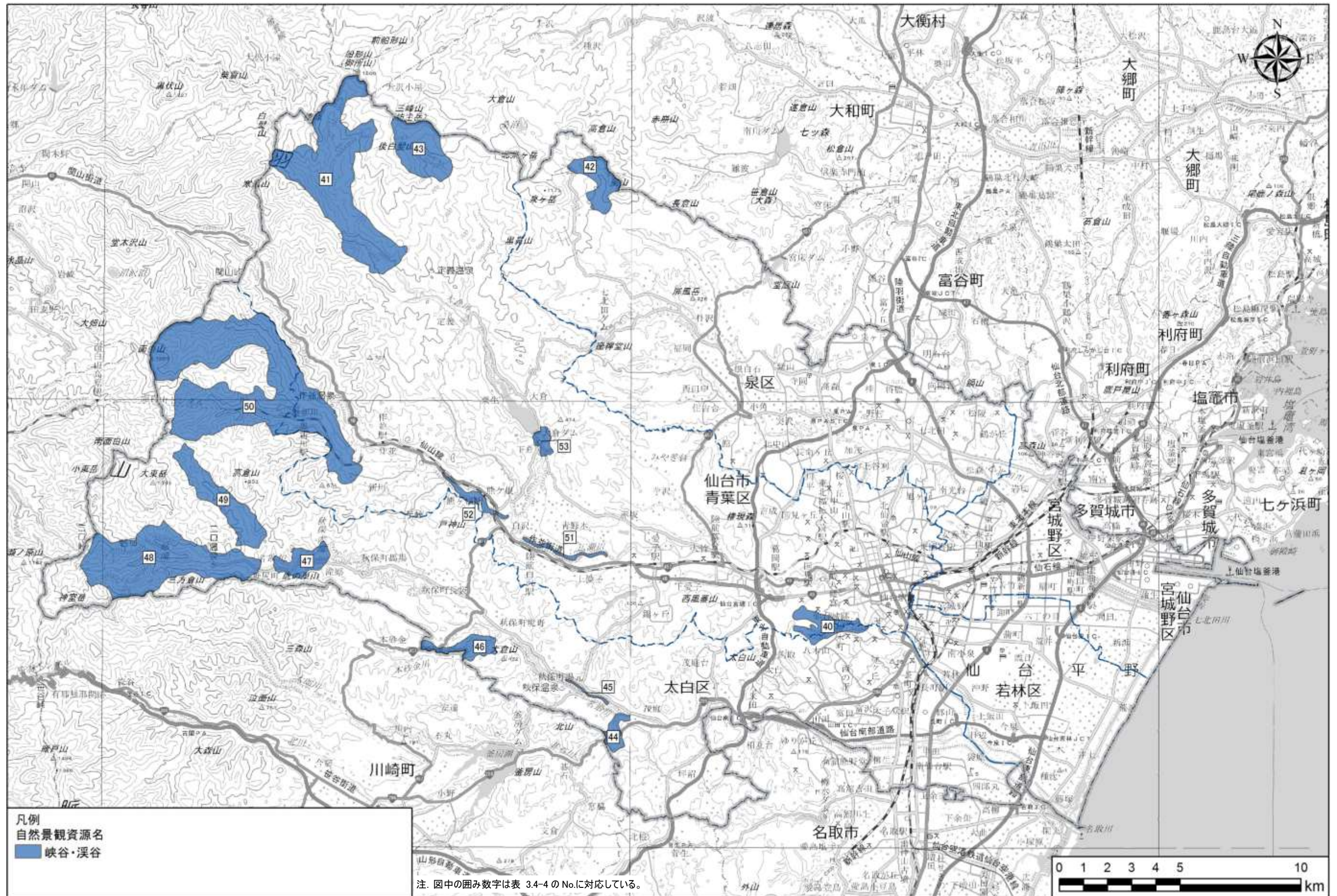
この地図は、国土地理院の電子地形図20万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.4-6(1) 自然景観資源分布図(1/4)



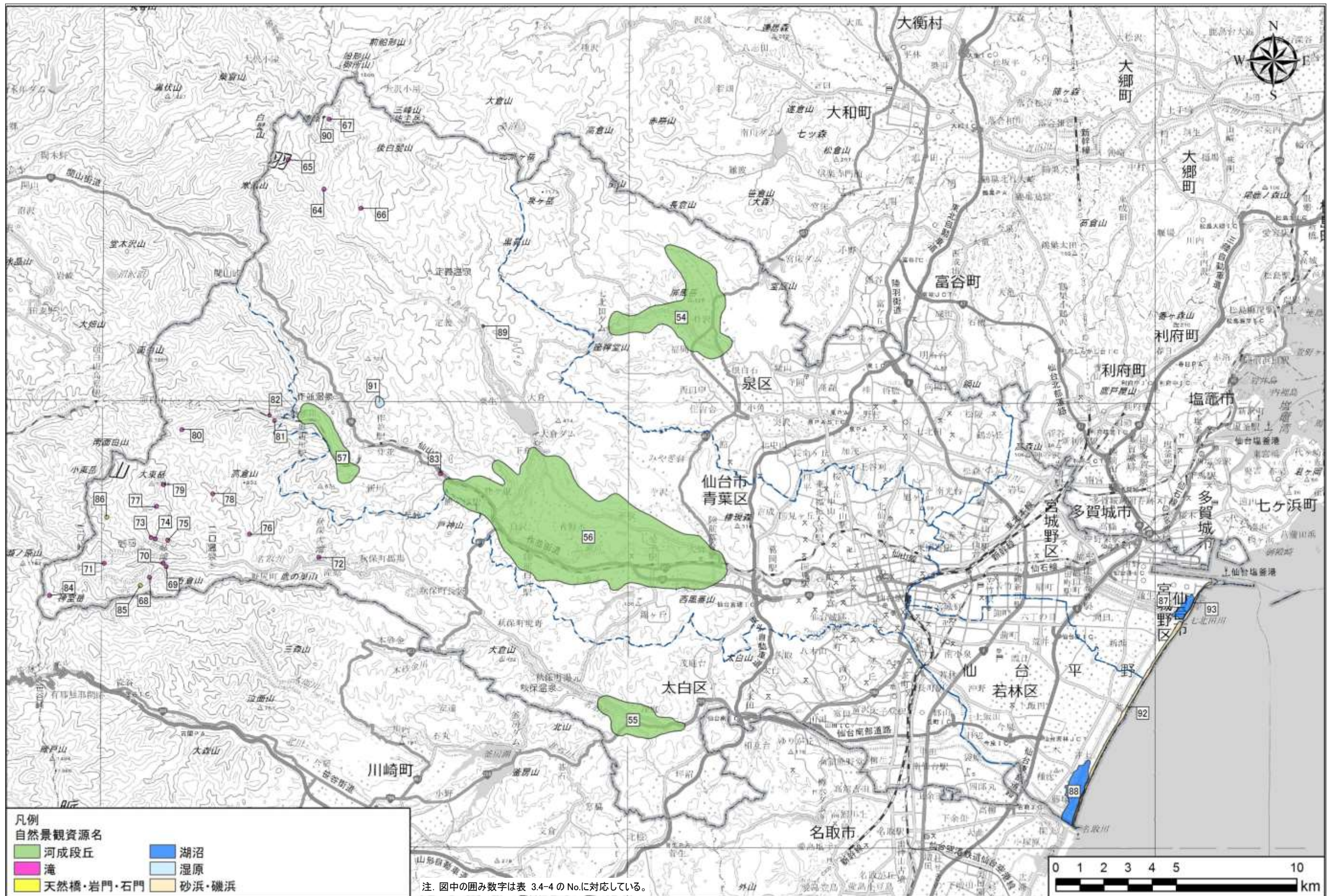
この地図は、国土地理院の電子地形図20万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.4-6(2) 自然景観資源分布図(2/4)



この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.4-6(3) 自然景観資源分布図 (3/4)



この地図は、国土地理院の電子地形図20万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.4-6(4) 自然景観資源分布図(4/4)

第4章 委託者情報

本調査は、以下に示す者に委託した。

名称 : アジア航測株式会社
代表者氏名 : 代表取締役社長 小川紀一郎
主たる事務所の所在地 : 宮城県仙台市青葉区一番町1-4-28
担当部署 : 東北コンサルタント部 環境計画課

第5章 本報告書に関する問い合わせ先

担当部署 : 仙台市環境局環境部環境共生課
連絡先 : 022-214-0013

